◆◆◆◆ 目次 ◆◆◆◆

P02・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・はじめに
P03・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・実施概要
P04・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ご祝辞
P06・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」開幕式典
P09・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」レセプションパーティー
P12・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」上映作品一覧
P13・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」動員実績
P15・・・・・・・・・「日本映画週間」にご来場する中国映画会社一覧
P16・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・映画会社反応
P17・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12部映画紹介及び観客反応
P29・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「あなたへ」舞台挨拶
P30・・・・・・・・・・・・・・・・・「遺体　明日への十日間」舞台挨拶
P31・・・・・・・・・・・・・・「映画 ひみつのアッコちゃん」舞台挨拶
P32・・・・・・・・・・・・・・・・・「今日、恋をはじめます」舞台挨拶
P33・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「カラカラ」舞台挨拶
P34・・・・・・・・・・・・・・・・・・「リトル・マエストラ」舞台挨拶
P35・・・・・・・・・・・・ 第16回上海国際映画祭レッドカーペット式典
P37・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画の旅」展
P51・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・出席メディア一覧表
P52・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中国語メディア報道
P53・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本語メディア報道
P68・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」宣伝物
P71・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「日本映画週間」スタッフ一覧

◆◆◆◆ はじめに ◆◆◆◆

“家族共同体”というテーマで、「第16回上海国際映画祭～日本映画週間」が、６月１５日～２３日まで上海で行われました。多くの方々のご支援とご協力により、成功裏に終えることができました。期間中には、大勢の日本映画ファンが映画館に来られ、新作映画１２本を楽しく鑑賞されたことに、スタッフとともに心より感謝申し上げます。

特に６月16日午後、「上海影城」で行われましたオープニングセレモニーには、在上海日本国総領事泉裕泰様、上海国際映画祭チェアマン任仲倫様、上海文広集団何建華副総裁、そして日中文化交流協会副会長で女優の栗原小巻さん、更には日本映画の監督・出演者の代表の方々がご出席、御挨拶を頂いたこと、千名を超える日中観客の皆様と一緒にオープニング上映作品「東京家族」を鑑賞されたことに感激を致しました。

中日平和友好条約締結35周年を迎えた今年、「日本映画週間」は両国文化交流のプラットフォームとして特に意義が深いものとなりました。任仲倫総裁は「今年出品された映画12本のスタイルは、それぞれ全く異なり、中国の観衆が日本の人々の生活を理解するのに役立つことだろう。」そして、「本日は、特に栗原小巻さんに感謝を述べたい。栗原さんは上海国際映画祭の古き友人であり、以前から何度も主演映画を日本映画週間に出品されておられる。中日映画人同士の交流がますます頻繁になることを願っている」との、ご祝辞を頂きました。

日中文化交流協会副会長栗原小巻様のご挨拶で、「今回出品された映画の多くが、東日本大震災発生後の日本人の内面を題材にした作品であり、これらの作品の製作チームは現在の日本映画界の中堅を担っている。今回の日本映画週間への参加は、日中両国の文化交流という重責をも担っている。」と、仰られました。

また、上映する１２本作品のロケ地を紹介する「映画の旅」ブース展も、６月１７日～１９日の期間中に、「上海展覧中心」で行いました。各国の映画配給会社、製作会社のプロデューサーやバイヤー、そして観光業界の代表の方々など、毎日大勢来場され、熱心に映像や写真などの展示や説明を見聞きして、日本映画に表現された風景、人情を通して、地方の魅力を感じとっておられました。

この秋には東京国際映画祭の提携イベントとして、「中国映画週間」を開催する予定です。更には、来年も引き続き北京と上海にて日本映画を紹介する企画を進めています。今回の「第16回上海国際映画祭～日本映画週間」の経験を踏まえて、更に充実した文化交流のイベントとして、日中友好の懸け橋としてのミッションを果たしていく所存であります。

2013上海・日本映画週間

◆◆◆◆ 実施概要 ◆◆◆◆

◆ **イベント名：**2013上海・日本映画週間

◆ **期間：**2013年6月15日（土）～23日（日）

◆ **会場：**上海影城／ルネッサンス揚子江上海ホテル／大光明電影院／世紀大上海電影院／和平影都／
UME新天地国際影城／国泰影院／新衡山電影院／永華電影城／環芸電影城／万達国際電影城等


上海影城



ルネッサンス揚子江上海ホテル

◆ **上映作品：**「東京家族」、「天地明察」、「あなたへ」、「遺体 ～明日への十日間」、「ヒミズ」、
「今日、恋をはじめます」、「映画 ひみつのアッコちゃん」、「桐島、部活やめるってよ」、
「テルマエ・ロマエ」、「おおかみこどもの雨と雪」、「カラカラ」、「リトル・マエストラ」

◆ **メインイベント：**

◇ 第１６回上海国際映画祭レッドカーペット式典参加：6月16日（土） 18:30～20:00　@上海文化センター
◇「2013上海・日本映画週間」開幕式典：6月16日（日） 14:00～17:30　@上海影城
◇「2013上海・日本映画週間」レセプションパーティー：6月16日（日） 18:30～21:00
@ルネッサンス揚子江上海ホテル
◇ 映画「あなたへ」舞台挨拶：6月15日（土） 20:45 ～　@上海和平影都
◇ 映画「映画 ひみつのアッコちゃん」舞台挨拶：6月15日（土） 15:45 ～ @環芸電影城
◇ 映画「今日、恋をはじめます」舞台挨拶：6月15日（日） 15:45 ～　@上海影城
◇ 映画「遺体 ～明日への十日間」舞台挨拶：6月16日（日） 15:45 ～ @永華電影城
◇ 映画「カラカラ」舞台挨拶：6月16日（日）15:45 ～ @国泰電影院
◇ 「映画の旅」ブース展６月17日（月）～19日（水）9:00～17:00 @上海展覧中心

◆ **主催：**上海国際映画祭実行委員会／NPO法人日中友好映画祭実行委員会／上海電影（集団）公司

◆ **助成：**コンテンツ海外展開等促進基金(J-LOP)／独立行政法人 国際交流基金

◆ **後援：**外務省／経済産業省／観光庁／在上海日本国総領事館

◆ **特別協力：**独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)／独立行政法人国際観光振興機構(JNTO)／
上海日本商工倶楽部／公益財団法人ユニジャパン／日本映画監督協会／中日友好協会／
公益社団法人日本中国友好協会／日本中国文化交流協会／一般財団法人日中経済協会／社団法人日中協会

◆ **協力をいただいた映画会社：**松竹株式会社／東宝株式会社／日本テレビ放送網株式会社／ 株式会社TBSテレビ
ギャガ株式会社／株式会社ポニーキャニオン／株式会社サーフ・エンターテイメント／株式会社ククルビジョン

◆ **企画運営：**株式会社ムーランプロモーション

◆ **運営協力：**電通テック（北京）広告有限公司 上海支社

◆ **ご協賛をいただいた会社：**

維維 SOYJOY　Japan. Endless Discovery. 日本, 精彩无限　BEIJING 日本文化中心 JAPAN FOUNDATION 日本国际交流基金会　日本航空公司　ACORN

◆◆◆◆ ご祝辞 ◆◆◆◆

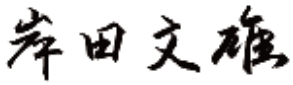


2013年「上海・日本映画週間」の開催を心よりお祝い申し上げます。本映画週間は、中国の皆様が映画を通じて日本に触れる絶好の機会となるでしょう。

日本と中国は緊密な関係にある隣国であるがゆえに、時として難しい状況が生じる時もあります。しかし、日中間の文化交流はどんな時にも絶やさずに続けていくことが大切です。締結されて今年で３５年を迎える日中平和友好条約にも、文化関係の促進、国民交流の重要性がうたわれています。

日本映画の鑑賞を通じ、中国の皆様が日本への理解と関心を深め、日中両国市民の心の距離が近くなることを願っています。本映画週間の御成功を心よりお祈り申し上げます。

外務大臣
岸田 文雄





「2013上海・日本映画週間」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

本映画週間を通じ、上海の皆様をはじめとする中国の方々に、日本の文化、自然景観の美しさなどの日本の観光魅力について理解を深めていただければ幸甚です。

本映画週間を契機に、多くの方々に実際に日本を訪れていただくことを切に願っております。

日本国観光庁長官
井手憲文





映画は人々が自分の歴史、文化、情感を表現するには最も国際性を有するため、国と国、国民と国民の間の交流にとって最も有効な方法の一つと言えます。

近年、上海国際映画祭において毎年開催される「日本映画週間」では、情熱的で創造力に富んだ日本の映画人が自分の新作を私たちの映画祭に紹介するために持ち込み、この窓口を通して、中国の観客に日本の文化、生活をもっと理解させるようになりました。

今年も日本映画各ジャンルの12作品は、内容豊富で映画祭の活動に風格を導いてくれると同時に、映画創作に関わった主だった人の一部の方も我々の盛会に参加されること、私たちは歓迎の意を表します。上海国際映画祭はすでにますます多くの各国の映画人の信頼を頂き、この相互交流、相互学習のプラットフォームを通して、映画創作が更に繁栄、更に輝くように期待しています。

「上海・日本映画週間」が円満な成功を収められますよう、お祝い申しあげます。

上海国際映画祭執行副主席
上海映画（集団）有限公司総裁　任仲倫



◆◆◆◆ ご祝辞 ◆◆◆◆



「2013上海・日本映画週間」の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。
日本映画のレベルは年々向上しており、昨年の邦画興行収入は過去最高を記録しました。今回は、その中でも特に人気を博した12本の新作映画がここ上海で上映されます。この貴重な機会に、一人でも多くの中国の方に日本の秀逸な映画を鑑賞していただき、映像を通して日本に触れていただきたいと思います。
日中平和友好条約締結35周年の本年、今回のイベントをきっかけとして、日中間の文化交流が更なる拡大をとげ、日中両国間の相互理解が一層促進されることを期待します。
本イベントの御成功を心よりお祈り申し上げます。

在上海日本国総領事
泉 裕泰



平和、友好は日中両国人民の共同の心と美しい念願であり、両国の映画人は日中友好促進の使命を担わなければなりません。
お互いに力を合わせて春光明媚な時代を共に創造しましょう。「上海・日本映画週間」の円満な成功を収めますよう祝福申しあげます。

中国電影家協会主席
李前寛



上海日本映画週間が開催されますこと、喜びでいっぱいです。わたくしが中国の皆様と親しく交流できますのも映画のおかげと感謝しています。
映画を通じて、二つの国が、相互に理解を深め友情を誓う。この映画祭に携わるすべての方々に、尊敬の気持ちお伝えいたします。
政治、経済と文化交流は、密接であるという考え方があることは、承知していますが、 真の文化交流の火は、嵐の中でも、消えることはありません。心と心の交流、信頼は、意思の力で、より強くなると確信しています。今回の映画祭がその証明です。映画を愛するすべての皆様と共に、日中友好が、前進することを願ってご挨拶とさせていただきます。
最後に実行委員会理事長の耿忠さんの映画文化交流へのご貢献、ご功績に賛辞を送ります。

日中文化交流協会副会長
栗原小巻

◆◆◆ 開幕式① ◆◆◆

◆ 時間：6月16日（日）14:00～
◆ 会場：上海影城スクリーン1
◆ 動員人数：1091人


上海影城

■ VIPゲスト：

上海文広集団副总裁　何建華
在上海日本国総領事館総領事　泉裕泰
日中文化交流協会副会長　栗原小巻
上海国際映画祭执行副主席、上海電影集団总裁　任仲倫
中国電影資料館館長　付紅星
上海市文联对外連絡部主任　王蔚莉
上海美术電影制片厂厂長　钱建平
上海JNTO所長　小沼英悟
上海JETRO所長　三根伸太郎
上海商工クラブ文化委員会委員長　山本泉

■ 日本映画週間ゲスト：

映画「遺体～明日への十日間」　君塚良一監督
映画「今日、恋をはじめます」　古泽健監督、森川真行／平野隆 プロデューサー
映画「あなたへ」　キャスト 余貴美子
映画「カラカラ」　Claude Gagnon監督、主演工 藤夕贵
映画「映画 ひみつのアッコちゃん」　川村泰裕監督
映画「リトル・マエストラ」　雑賀俊郎監督

■ イベント内容：

6月16日午後1時30分、2013年上海国際映画祭～日本映画週間の開幕式が上海フィルム・アート・センター（上海影城）第1スクリーンで行われました。式典には在上海総領事館 泉裕泰総領事、上海メディア＆エンタテインメントグループ（上海文化広播影視集团）何建華副総裁、任仲倫副総裁が出席し、開会の挨拶をしました。

開会式の演目の一つとして、日本の子供たちによる合唱があり、今回の日本映画週間で上映される『おおかみこどもの雨と雪』の主題歌『おかあさんの歌』を、元気な声で歌いました。日中文化交流協会副会長で日本の人気女優栗原小巻氏に、この映画祭のために、上海フィルム・アート・センターでの開幕式に参加してもらいました。栗原氏は挨拶の中でこのように述べています。「私はかつてこの「日本映画週間」で大勢の方々と知り合い、その方々は今でも私の大切なお友達となっています。今日このイベントに出席される映画監督、俳優の方々はみな素晴らしい才能を持っていて、日本と中国の文化交流という重要な役割を果たすのに素晴らしい方々です。そして心と心を通わせることで、この文化交流という名の火を永遠に絶やさぬことを望みます。今日ここにご列席の皆様とともに、再び新たな歴史を創っていきましょう」

今年は日中平和友好条約が締結されて35年を迎えます。「日本映画週間」は日本と中国両国の文化交流の場として特別な意味があります。任中倫副総裁は率直に、今回上映される12本の作品は、そのスタイルもどれひとつとして同じものはなく、中国の観客が日本の人々の暮らしぶりを知るのに役立つでしょうし、日中両国のアーティストの交流を促すことになるでしょうと、語りました。さらに「今日、栗原小巻さんには特に感謝したいと思います。栗原さんは上海国際映画祭に以前にもお越しいただいたことがあり、出演された作品は日本映画週間で上映されています。日本と中国の映画人の交流がさらに活発になることを願っています」と話しました。

『おくりびと』『ディア・ドクター』で中国の観客にもよく知られている女優・余貴美子氏も開幕式に登場しました。今回上映される作品は、高倉健氏と共演した作品『あなたへ』です。余氏は映画とは言語という壁を超える力を持ち、両国の観客の距離を近くするものだと考えています。主演（の高倉健氏）が欠席したことにいて、余貴美子氏はこう説明しました。「主演の高倉健さんは、別件があってこちらに来ることはできませんでしたが、本人もとても残念に思っていらっしゃいました。でもこの作品が上海国際映画祭で上映されると知って、とても光栄なことであり、嬉しく思っていらっしゃいました」

今年のオープニング作品の『東京家族』は日本の有名監督・山田洋次氏の2013年の力作です。瀬戸内海の小さな島に住む夫婦が、東京に来て、成長した息子と娘と出会うという物語です。これは往年の名作のリメイクですが、時代を感じさせるものを入れています。たとえば、携帯電話や東京の今の様子、そして「3.11」の大津波、希望がもてない国、頑張っていこうと思わない若者たちなど。しかし、それは枝葉のことでしかなく、作品の中心には、家族を通して見る親子の愛情の温度差、親子づきあいの難しさ、人間の多面性、都会と地方の人情の違い、さらに老いることの孤独、子供に頼ることの難しさ、老いて連れ合いを亡くすことの侘しさなどがあります。全編を通じ、日本の姿が色濃く描かれています。

◆◆◆ 開幕式② ◆◆◆


在上海日本国総領事館総領事　泉裕泰


上海文広集団副总裁　何建華


日中文化交流協会副会長　栗原小巻


上海国際映画祭执行副主席
上海電影集団总裁　任仲倫















① 古澤健監督
② 川村泰裕監督
③ 君塚良一監督
④ 余貴美子
⑤ 工藤夕貴
⑥ Claude Gagnon監督
⑦ 雑賀俊郎監督

◆◆◆ 開幕式③ ◆◆◆



日中政府代表のご挨拶



ゲスト全員よりのご挨拶



日中子供たちより映画【おおかみこどもの雨と雪】
の主題歌「おかあさんの唄」を熱唱



日中の子供たちより
ゲストへの花束贈呈









◆◆◆ レセプション① ◆◆◆

◆ 時間：6月16日（日）18:30～20:30
◆ 会場：ルネッサンス揚子江上海ホテル 3F宴会場
◆ 総動員人数：437人


ルネッサンス揚子江上海ホテル

■ VIPゲスト：

在上海日本国総領事館総領事　泉裕泰
上海文広集団总裁　薛沛建
日中交流協会副会長　栗原小巻
上海市文联对外連絡部主任　王蔚莉
上海JNTO所長　小沼英悟
上海JETRO所長　三根伸太郎
上海商工クラブ文化委員会委員長　山本泉
五洲伝播出版社社長　李紅杰
大塚製薬宣伝部課長　上野隆信
日本航空上海分公司総経理　加藤洋樹
上海SNH48代表　王子杰
上海美术電影制片厂厂長　钱建平

■ 日本映画週間ゲスト：

映画「遺体～明日への十日間」　君塚良一監督
映画「今日、恋をはじめます」　古泽健監督、
森川真行／平野隆 プロデューサー
映画「カラカラ」　Claude Gagnon監督、主演工 藤夕貴
映画「映画 ひみつのアッコちゃん」　川村泰裕監督
映画「リトル・マエストラ」　雑賀俊郎監督

■ イベント内容：

「2013年上海・日本映画週間」のレセプションパーティーは６月16日、ルネッサンス揚子江上海ホテルにて行われました。会場には日本と中国のスターが顔を揃え、パーティーに華やかさを加えました。

在上海日本国総領事館の泉裕泰総領事、上海メディア＆エンタテインメントグループの薛培建総裁が出席し、歓迎の言葉を述べました。日中文化交流協会の栗原小巻副会長が、今回の日本映画週間を通じ、日本と中国の文化交流がさらに盛んになること、そしてこの映画週間の成功を希望します、という乾杯の挨拶を行いました。日本からのゲストは次の通りです。『遺体 明日への十日間』の監督の君塚良一氏、『今日、恋を始めます』の監督の古澤健氏、『カラカラ』の主演女優・工藤夕貴氏と監督のクロード・ガニオン氏、『ひみつのアッコちゃん』の監督の川村泰祐氏、『リトル・マエストラ』の監督の雑賀俊郎氏で、開幕式に出席しました。

パーティーのスペシャルゲストは、日本のトップアイドルグループAKB48の姉妹ユニットSNH48が『激流之戦（『RIVER』の中国語バージョン）』『無尽旋転（『ヘビーローテーション』の中国語バージョン）』の２曲を歌い、その活き活きとしたパフォーマンスに、会場は大いに盛り上がりました。





◆◆◆ レセプション② ◆◆◆



在上海日本国総領事館総領事　泉裕泰



上海文広集団总裁　薛沛建



日中交流協会副会長　栗原小巻






君塚良一監督


古澤健監督


雑賀郎監督


工藤夕貴


Claude Gagnon監督


川村泰裕監督

◆◆◆ レセプション③ ◆◆◆













「東京家族」の口ケ地となる大崎・上島からの皆様、
会場外で地元の特産と映画の記念品をご来場者に配布





パーティーの最後にご来場者全員にお土産を配布し、映画祭を
応援してくださった会社のPRをさせていただきました

2013上海・日本映画週間

◆◆◆◆ 上映作品一覧 ◆◆◆◆

★ オープニング映画



東京家族



あなたへ



天地明察



映画 ひみつのアッコちゃん



テルマエ・ロマエ



今日、恋をはじめます



桐島、部活やめるってよ



遺体～明日への十日間



ヒミズ



おおかみこどもの雨と雪



リトル・マエストラ



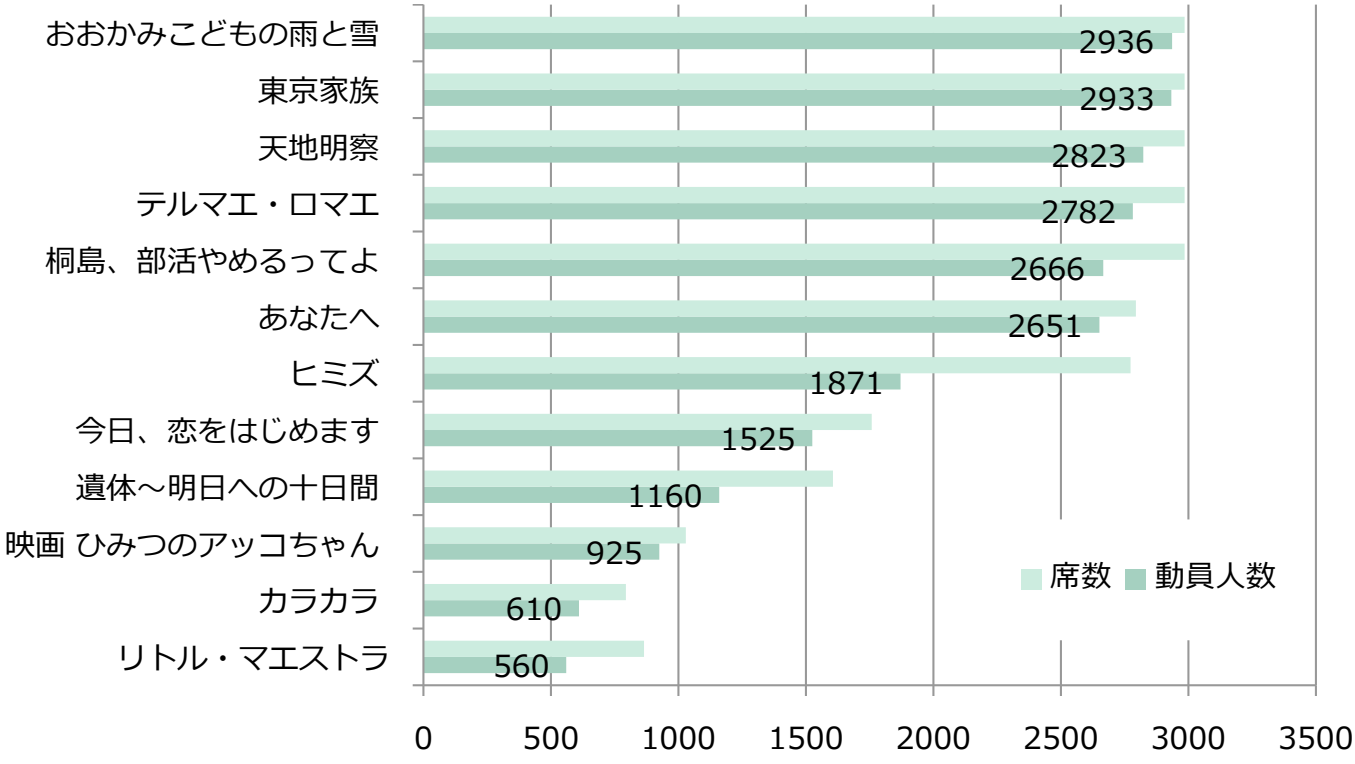
カラカラ

◆◆◆◆ 動員① ◆◆◆◆

① 各映画総動員人数及び平均動員率（各映画三回ずつ上映）

映画名	総動員人数	平均動員率
おおかみこどもの雨と雪	2936人	98.36%
東京家族	2933人	98.26%
あなたへ	2651人	94.88%
天地明察	2823人	94.57%
テルマエ・ロマエ	2782人	93.20%
映画 ひみつのアッコちゃん	925人	89.89%
桐島、部活やめるってよ	2666人	89.31%
今日、恋をはじめます	1525人	86.75%
カラカラ	610人	76.83%
遺体～明日への十日間	1160人	72.23%
ヒミズ	1871人	67.47%
リトル・マエストラ	560人	64.74%
	★総平均動員率	★85.54%

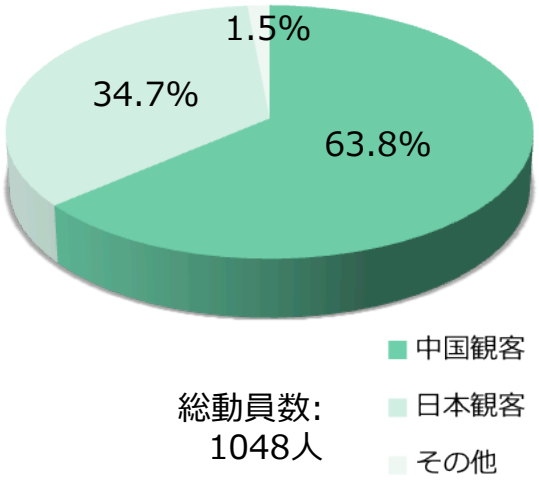
② 各映画総動員人数順



① 日本映画週間総動員数

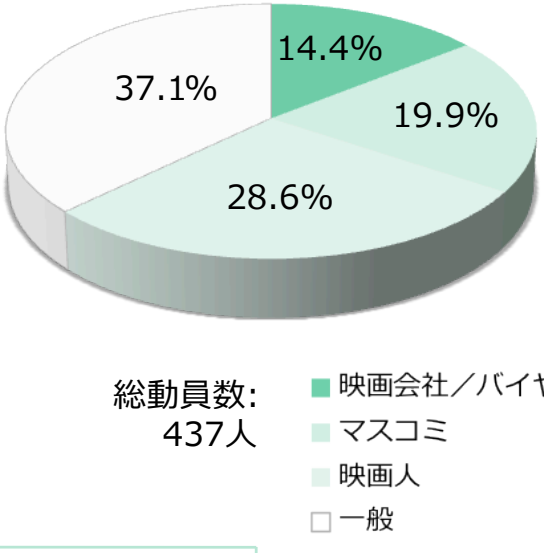
イベント名	動員人数
オープニングセレモニー	1048人
レセプションパーティー	437人
「おおかみこどもの雨と雪」上映	2936人
「東京家族」上映	2933人
「あなたへ」上映	2651人
「天地明察」上映	2823人
「テルマエ・ロマエ」上映	2782人
「映画 ひみつのアッコちゃん」上映	925人
「桐島、部活やめるってよ」上映	2666人
「今日、恋をはじめます」上映	1525人
「ヒミズ」上映	1871人
「遺体～明日への十日間」上映	1160人
「リトル・マエストラ」上映	560人
「カラカラ」上映	610人
「日本映画の旅」展	1023人
★ 総動員数	★27455人

開幕式出席比率



総動員数:
1048人

レセプション出席比率



総動員数:
437人

日本映画週間にご来場する中国映画配給会社一覧(48社)

No.	映画会社／映画館（院線）	担当者	No.	映画会社／映画館（院線）	担当者
1	中国国家新聞出版広電総局　映画管理局	劉春	25	江蘇東方影業有限責任公司	歐陽
2	中国電影集団公司	張強	26	江蘇幸福藍海院線有限責任公司	陳珊
3	上海電影集団公司	銭建平	27	上海聯和電影院線有限責任公司	任浩傑
4	北京新影聯影業有限責任公司	張書煜	28	上海大光明院線有限公司	蒋秋蓉
5	中影星美電影院線有限公司	馬媛	29	世紀環球電影院線発展有限公司	王甄
6	万達電影院線股份有限公司	荣容	30	深圳市深影院線有限公司	楊歓芝
7	大地時代電影文化伝播（北京）有限公司	牛林涛	31	遼宁北方電影院線有限責任公司	王冰
8	中影集団数字電影院線有限公司	烏蘭吐雅	32	河北中聯影業院線有限責任公司	楊先生
9	時代華夏今典電影院線発展有限公司	赵爱	33	天津銀光電影院線経営管理中心	喬誌偉
10	北京華夏聯合電影院線有限公司	張曙	34	温州雁荡電影院線有限公司	陳顯中
11	北京紅鯉魚数字電影院線	張黎黎	35	新疆維吾爾自治区電影公司	靳紅
12	北京九州中原数字電影院線有限公司	刘振昆	36	湖北銀兴院線影業有限責任公司	向玲
13	浙江横店電影院線	金楊輝	37	武漢天河影業有限公司	吳潔
14	吉林吉影電影院線公司	牛曙光	38	西安電影長安院線	趙亞天
15	湖南瀟湘影視伝播有限责任公司	鄒培嬰	39	河南奥斯卡院線有限责任公司	陳国敏
16	湖南楚湘影業有限责任公司	譚黄勁	40	重慶保利万和電影院線有限責任公司	陳貴民
17	四川太平洋電影院線有限公司	秦立為	41	江西星河電影院線有限公司	涂先生
18	四川峨眉電影発行放映院線有限責任公司	彭婷婷	42	華夏新華大地	李偉
19	福建中兴電影院線有限责任公司	莫云錦	43	内蒙古民族	馬経理
20	広東華影南方電影院線有限公司	楊文燦	44	中広国際	賈雷
21	広東金逸珠江電影院線有限公司	李和見	45	上海弘歌	朱雯琳
22	浙江時代電影大世界有限公司	沈琳潔	46	長城沃美	盧修斌
23	浙江星光電影院線有限公司	孫昉	47	山東魯信	張淼
24	山東新世紀電影院線有限公司	竇强	48	上海世茂	朱嫣雯

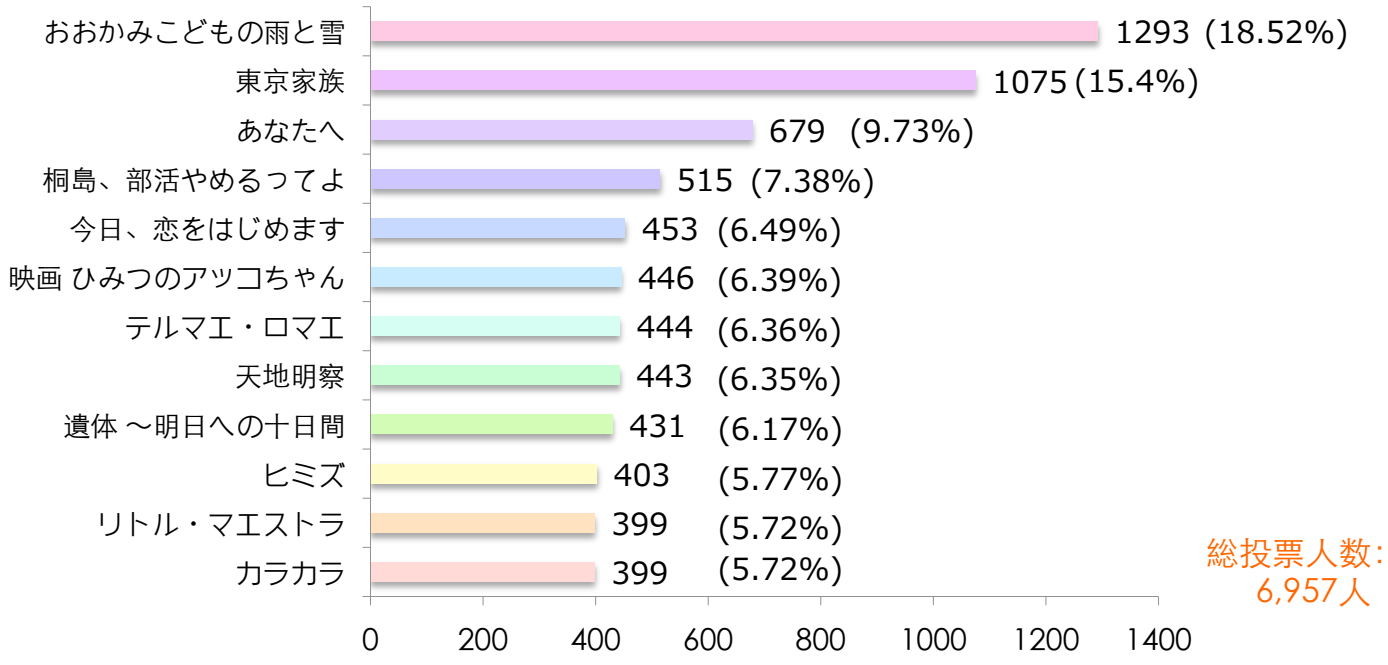
◆◆◆◆ 配給会社反応 ◆◆◆◆

★ 配給会社より「日本映画週間」へ出品する作品へ対する反応

①	東京家族	3社	
②	ひみつのあっこちゃん	7社	
③	今日恋をはじめます	6社	
④	おおかみこどもの雨と雪	11社	

● 各社が配給することに当たって、値段と配給枠のことを一番気にしていました。現在いろいろ打診中。

★ オンライン調査：人気映画ランキング © Sohu



総投票人数:
6,957人

◆◆◆ オープニング映画 ◆◆◆



【東京家族】（2013年）

監督：山田洋次／脚本：山田洋次 、平松恵美子／キャスト： 橋爪功、吉行和子、西村雅彦、夏川結衣、中嶋朋子、林家正蔵、妻夫木聡、蒼井優／ 配給：松竹／上映時間：146分／© 2012 “Tokyo Family” Film Partners

あらすじ：

瀬戸内海の小さな島で生活している夫婦、平山周吉（橋爪功）ととみこ（吉行和子）。東京にやって来た彼らは、個人病院を開く長男・幸一（西村雅彦）、美容院を営む長女・滋子（中嶋朋子）、舞台美術の仕事に携わる次男・昌次（妻夫木聡）との再会を果たす。しかし、仕事を抱えて忙しい日々を送る彼らは両親の面倒を見られず、二人をホテルに宿泊させようとする。そんな状況に寂しさを覚えた周吉は、やめていた酒を飲んで騒動を起こしてしまう。一方のとみこは、何かと心配していた昌次の住まいを訪ね、そこで恋人の間宮紀子（蒼井優）を紹介される。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：

もし大部分の小津安二郎の映画を「嫁に行く娘の姿」と一言でまとめてしまうなら、『東京物語』をリメイクした『東京家族』について当てはめると、この作品は「嫁に行く息子の姿」だと言ってもいいのかもしれません。山田洋次監督のデビュー50周年記念作品となる『東京家族』は、本来なら2011年の春にクランクインする計画でした。しかし、3.11の大震災のため、脚本を書き換え、制作スケジュールと公開日を延期しました。この映画の前半、『東京家族』では「長男と長女のシーン」となっているところは『東京物語』をほぼ忠実になぞらえています。そして後半、母親が突然死んでしまうエピソードをじっくりと掘り下げています。人生で最もつらい、生き別れになるくだりを約30分かけて真っ向から取り組みました。そして厳粛な父親が、未来の息子の嫁になることを認めて物語は終わります。次男のキャラクターは、オリジナルの『東京物語』は戦死しており、画面には登場しませんか。この『東京家族』には「復活」しており、その上、善良な嫁と一緒に登場しています。これはつまり後世に対する希望を意味し、『東京物語』のような悲壮感は漂っていません。しかし、人は悲しい結末に終わる物語に対してはっきりと記憶してしまうもので、『東京物語』のハッピーエンドのような結末には、おそらくこの先、名作として語り継がれず、『東京物語』を超えられないという運命から逃れられないのは、不幸中の幸いなのかもしれません。

「次男」のキャラクターは、現代の東京で生活しているとはいえ、昔を懐かしむような心理を抱えています。例えば、廃車寸前のようなイタリアの古い車を運転していることや、彼の仕事（舞台美術）に関していえば、最初のシーンは歌舞伎の場面であることなどから、こうしたシーンは60年代の「松竹映画」の冒頭と呼応しています。3.11の大震災のエピソードも次男を巻き込んでいき、父親が訪問した古い友人の家族が、岩手県で地震による津波の犠牲になったといい、父親は母親と別行動をとり、次男は未来の自分の妻と出会い、震災のボランティア活動に参加するときに、2人は恋に落ちるのです。これにより、映画の中では軽く言及するにとどめていますが、3.11の大震災が家族の絆を破壊する一方で、新しい家族を生み出してもいるということを描いています。このような描写は、震災後に書き加えられた日本の脚本の中では最も自然なものだといえるでしょう。別な角度から見れば、60年前の第二次世界大戦後のように、大震災によって日本社会は生まれ変わったともいえます。広島から東京の父母のもとに移住し（広島は本州の西にあります。大地震は本州の東北地方で発生していますが、東京は本州の中央部のやや東南寄りにあります）、その身体を合わせたようでもあります。

さらに、次男は今の日本で多く見られる「フリーター（定職につかず、アルバイトで暮らす若者）」の1人です。『東京家族』において、父親世代は、自分の子供がこのような仕事についていたら、多少なりとも不満を抱くでしょう。しかし、母親側は「自然に、ありのままに全部を受け入れることができる」とその性格を言い表し、これが「フリーター」の次男に対して最高の褒め言葉になるでしょう。そして山田洋次監督は、原作の中にある「父母に従うのが難しい現代人」という大きなテーマのもと、このような社会の変化を加えてることで、監督としての実力が全く衰えていないこと示し、それに驚かざるを得ません。そして母親と父親は喜んで次男の嫁を受け入れていきますが、これは山田洋次監督の旧作『息子』のテーマと同じです。

長男、長女が「家を出た」後の父親と母親が、横浜のホテルの一室で、窓の外に見える様々に色を変える観覧車をぼんやり眺めるカットは、おそらくこの年の日本映画の中で最も淋しいシーンかもしれません。父親が母親の遺骨を手に家に帰った後、隣近所からあれこれ世話を受けながらも、この先の暮らしを明るくするために、未来の次男の嫁に対しては「息子を頼んだ」と言います。『東京家族』は昭和の時代のような懐かしさがありますが、平成の世の新しさもあるのです。それは今の日本の社会や家族の中で見受けられる様々な現象を反映しており、悲しい雰囲気は漂っていますが、それは特に母親が死ぬシーンにあり、観客を半時間号泣させてしまうものであり、楽観できない世の中のようでありますが、ここ一、二年の日本のハートウォーミングな映画と同じく、人を励ますような内容となっているのです。

① 6／16 上海影城スクリーン1 13：30 ～　全1058席　動員人数1048人　（動員率：99.05%）
② 6／21 大光明電影院スクリーン1 20：45 ～　全1365席　動員人数1351人　（動員率：98.9%）
③ 6／22 新衡山電影院スクリーン1 15：45 ～　全562席　動員人数534人　（動員率：95.01%）
総動員人数2933人（平均動員率：98.26%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【天地明察】（2012年）

監督：滝田洋二郎／脚本：加藤正人、滝田洋二郎／原作：冲方丁／音楽： 久石譲／
出演：岡田准一、宮崎あおい／配給：松竹／上映時間：141分
© 2012 TENCHI: The Samurai Astronomer Film Partners

あらすじ：

江戸時代前期。安井算哲（岡田准一）の生まれた安井家は将軍に囲碁を教える名家であるものの、算哲自身は出世欲のない不器用な男だった。星の観測と算術の問いを解くことが好きで、あまりにも熱中しすぎて周囲が見えなくなることもしばしばだった。算哲は形ばかりの勝負となった囲碁に次第に疑問を抱き、真剣勝負の場に身を置きたいとの願いを持つようになる。そんな算哲を、将軍・徳川家綱の後見人である会津藩主・保科正之（松本幸四郎）は暦の誤りを正す任に抜擢する。800年にもおよび使われてきた中国・唐の時代の暦がずれてきたため新しい暦を作るいうこの計画には、星や太陽の観測をもとに膨大な計算を必要とし、さらには本来なら朝廷の司る改暦に幕府が口を出すという朝廷の聖域への介入という問題をはらんでいた。算哲は師や友人、算哲を慕いやがて妻となったえん（宮﨑あおい）や、彼のよき理解者であった水戸光圀（中井貴一）らに支えられながら、この難関に誠実に取り組んでいく……。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：

「面白い～特に前半はとても引きつけられました」

「映画音楽がとてもよかったです」

「この映画は監督がまるでこの物語が起きた時代に行って見てきたようです。見終わって思ったのが、この映画は日本のテレビドラマファンが見たら、もっとこの映画が面白かったのではと思いました」

「題材がとても興味深く、とてもおもしろかった」

「中井貴一の登場シーンがとてもよかった」

「昔の人はとても風雅だったんだなあ」

「大部分のキャラクターがとても可愛かった」

「物語はもちろん、音楽もとてもよかった」

「日本人は学ぶことにとても熱心です。かつては中国から、そして近代では西欧に学び、学んだ後はそれに改良を加える。個人的によくなるだけでなく、そして民族全部のためにもなるというのは本当にすごい、そして失敗すればその責任を負わなければならない。この作品の中では暦法について描かれていましたが、見終わった今では、昔の人たちは凄いと思いました」

「男性の主人公がとても可愛い！そしてBGMもいい！」

「（日本と中国の）映画の作品レベルの差は、この種の描きにくい題材を描くときに特に現れています。日本は天文学や算術のような題材をこんなにも上手く描くとは」

「音楽、物語、キャストともにとてもいい。全体的なストーリー展開はありきたりですが、天文学という非常に珍しい題材を扱ったことで大いに評価します。展開に緩急があり、一気に見させられます。岡田准一の駆け寄るところはとてもかわいく、本当に30歳なんでしょうか……？」

「とても純粋で、素晴らしい」

「見応えがあり、意義深い。マンネリ感のあるストーリー展開ですが、面白く元気づけられました。真理を追求する物語を描くだけでなく、その真理とはどんな人にも関係するというものです」

① 6／15 新衡山電影院スクリーン1 15：45 ～　全562席　動員人数524人　（動員率：93.24%）
② 6／16 大光明電影院スクリーン1 15：45 ～　全1365席　動員人数1286人　（動員率：94.21%）
③ 6／22 上海影城スクリーン1 15：45 ～　全1058席　動員人数1013人　（動員率：95.75%）
総動員人数2823人（平均動員率：94.57%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【あなたへ】（2011年）

監督：降旗康男／脚本：青島武／キャスト： 高倉健、田中裕子、佐藤浩市、草彅剛、余貴美子、綾瀬はるか、三浦貴大／配給：東宝／上映時間：110分

あらすじ：

北陸のある刑務所の指導技官・倉島英二のもとに、ある日、亡き妻・洋子が残した２枚の絵手紙が届く。そこには、一羽のスズメの絵とともに“故郷の海を訪れ、散骨して欲しい”との想いが記されていた。そして、もう１枚は、洋子の故郷・長崎県平戸市の郵便局への“局留め郵便”だった。その受け取り期限まで、あと十日。　刑務所に歌手として慰問にきていた洋子とは穏やかで幸せな夫婦生活を営んでいた。長く連れ添った妻とはお互いを理解し合えていたと思っていたのだが、妻はなぜ生前その想いを伝えてくれなかったのか・・・。

妻の真意を知るため、彼女の故郷を訪れることを心に決める。妻の故郷を目指すなかで出会う人々。彼らと心を通わせ、彼らの家族や夫婦の悩みや想いに触れていくうちに蘇る、洋子との心温かくも何気ない日常の記憶の数々。様々な人生に触れ、さまざまな想いを胸に目的の地に辿り着いた英二は、遺言に従い散骨する。そのとき、彼に届いた妻の本当の想いとは―。

© 2012 TOHO CO., LTD. / TV ASAHI CORPORATION / DENTSU INC. / Nikkei Inc. / GENTOSHA INC. / ASAHI BROADCASTING CORPORATION / NAGOYA BROADCASTING NETWORK CO., LTD. / TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd. / Yahoo Japan Corporation /NIPPON SHUPPAN HANBAI INC. / Kyushu Asahi Broadcasting Co., Ltd. / Hokkaido Television Broadcasting Co., Ltd. / Shizuoka Asahi Television Co., Ltd.

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：© Sohu

昨年の夏、カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞した『愛、アムール』は、死を前にした者の愛の形を示したものであり、抑制された静けさがあり、愛を信じることを目の当たりにします。そして、ヒロインの死に至るくだりは受け入れがたく、異を唱えたくなる人もいるでしょう。この『愛、アムール』が全世界を席巻するのと時を同じくして、中国で極めて有名で、そして随分前から知られている名優・高倉健と田中裕子が主演した作品で、同じように年老いた者たちの愛を描いた映画『あなたへ』が日本で公開されました。ストーリー展開からみると、『あなたへ』は『愛、アムール』のようには心を震わせることはありませんが、老いた人たちの愛情は、晩年までそれまでの互いを信じる気持ちは変わらず、どちらか一方が先に亡くなることになっても、そこに一体どんな価値があるのだろうかというのが、『あなたへ』を見る前の最大の懸念でした。しかし結果はとても意外なものとなりました・

冒頭、田中裕子が演じる妻は既に世を去っており、高倉健が演じる夫は妻の遺志を叶えるために、改造した自家用車で富山から1000キロもの道を走り、妻の故郷である薄香へ向かい、海に骨を撒きます。夫は妻の意図がどうしても理解することができず、ただ、妻の指示に従うだけでしたその道中で彼は自称妻を亡くした文学好きな車泥棒や、全国各地で車に乗ってお弁当を売る男や、港の小さな村で食堂を営む女といった人たちと出会います。通りすぎていく風景は、高倉健の心にある感情を抱かせます。妻と知り合った頃のことから、夫婦になった時、15年の結婚生活が、高倉健には長い人生のうちのほんの一部であり、人と人は別れをいうこともあるが、夫は自分の心を自由にして、まだ終わっていない人生という名の道路を走り続けたいと思うのです。

激しい雨と風がやんだばかりの穏やかな海の上で、高倉健は船の上で、妻の遺灰をひとつかみひとつかみ、大海原にはなっていきます。出航前、妻の絵葉書の上に描かれた灯台を見ながら、遺言が書かれた絵葉書を空中に撒き散らします。この演技は妻との別れをとても上手く描いたものです。最後シーンで、種田山頭火の俳句が画面に映しだされます。「このみちや　いくたりゆきし　われはふけゆく」そしてリュックを背負った高倉健が前に向かって歩き出し、フレームアウトすると画面がフェイドアウトします。

細かな感想をいうと、このような作品と、3.11の大震災の後に撮影された、地震と関係のあるなしに関わらず数本の作品は、表面的には死者へ対する気持ちは似たところがあります。亡くなった方がどんな風に亡くなったにせよ、生きている者は積極的に別れを告げて、生きて行かなければなりません。

本編中、田中裕子を回想するシーンが出てきますが、画面は黄色がかったトーンで、平凡ではあるけれど、人の心を動かす感じで、その上宮沢賢治が作詞作曲した『星めぐりの歌』が流れ、昭和の雰囲気が色濃く漂います。もし監督が降旗康男のようなベテラン監督でなければ、こんな懐かしさを生み出すことは難しいことだったでしょう。高倉健の演技は何十年も前から変わらず「無表情」ですが、彼が世に出た頃の、ヤクザを演じていた時より感情表現は豊かになっただけでなく、台詞も多くが常識を外れたものばかりですが、銀幕のスターとしての無口なタフな男というイメージを創りだしてから、ゆっくりと今のような姿に変化してきているのです。タフな男を除いて、高倉健の出演作品はまさに『あなたへ』のような、一種のハートウォーミングな感動的な映画が多いです。中国の観客がよく知っている『鉄道員』は、監督も降旗康男です。ここ2年の間で、長門裕之、原田芳雄、山田五十鈴、大滝秀治（この『あなたへ』で老船長を演じています）、森光子、夏八木勲、三國連太郎ら名優たちが世を去っています。この『あなたへ』が高倉健の最後の作品となって欲しくないですが、その可能性をただ願うだけですが、それがあたってしまったら一生残念でなりません。

① 6／15 和平影都4厅 20：45 ～　全371席　動員人数366人　（動員率：98.65%）
② 6／16 大光明電影院1厅 13：30 ～　全1365席　動員人数1312人　（動員率：96.1%）
③ 6／23 上海影城1厅 15：45 ～　全1058席　動員人数973人　（動員率：91.97%）
総動員人数2651人（平均動員率：94.88%）



【おおかみこどもの雨と雪】（2012年）

監督：細田守／脚本：奥寺佐渡子、細田守／原作：細田守
キャスト：宮﨑あおい、大沢たかお／上映時間：110分
© 2012 “WOLF CHILDREN” FILM PARTNERS

あらすじ：
19歳の大学生花は、おおかみおとこと運命的な恋に落ちました。やがて雪と雨という二人の“おおかみこども”を授かりますが、そんな矢先、家族を襲った突然の父の死。まだ幼い“おおかみこども”を抱えた花は、人間かおおかみか、どちらでも選べるように、人里離れた田舎で二人を育てる決意を固めます。花とこどもたちの１３年にわたる物語。一家を取り巻く様々な出来事が、美しくも厳しい自然の中で綴られます。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：©Sohu

昨年度、日本の興行成績ランキングで『おおかみこどもの雨と雪』はシリーズもの意外のアニメ映画の中でトップの作品でした。『おおかみこどもの雨と雪』は3.11の大震災を経験した後、日本が復興をはじめて一年後の夏に公開され、観客に単なるアニメ映画以上のものを与えた作品となりました。この物語の中で、ヒロインは子供を連れて故郷で生き抜いていくという強烈な信念を持つ女性で、それが今の世の中にとって最高に元気を与えることになったのです。

日本のアニメ映画における新たな巨匠の誕生

ここ２、３年で、日本のアニメ映画界は変化が起きています。『エヴァンゲリヲン新劇場版』シリーズと『ワンピース』劇場版シリーズの興行成績が生み出し、『ポケットモンスター』劇場版、『名探偵コナン』劇場版、『ドラえもん』劇場版の３シリーズが、さらに盛り上げました。（毎年この３タイトの合計は100億元（約６億円）以上の興行成績に達しています）。ベテラン宮崎駿監督はすぐに引退するかどうかはっきりせず、ジブリはもはや無敵の制作会社ではなく、新人・米林宏昌監督（『借りぐらしのアリエッティ』）を全力で売り出し、宮崎吾朗監督にもう一度チャンスを与え（『コクリコ坂から』）ましたが。この２度の試みは、自分たちのブランドを傷つけかねないことになりました。アニメを最も知り抜いた今敏監督は2011年に世を去り、押井守監督は一本一本実写版映画を撮り続けています。大友克洋はもう何年も長編アニメ映画を創っておらず……こんな日本のアニメ界は新しい巨匠、１人が呼べば100人が答えるようなアニメの監督を必要としていました。

テレビアニメの劇場版の監督から抜けだした細田守監督と原恵一監督は、その作品の評価は高いです。（小さなエピソードを積み重ねる新海誠監督はアニメ界のメインストリームに入っていないと思います。申し訳ありませんが、私はそう考えています）しかし、いつも女性を主人公にして、地方を舞台にすえて、話のテンポも軽快な細田守監督は、『時をかける少女』『サマー・ウォーズ』『おおかみこどもの雨と雪』の３作品で大きくジャンプアップして、国民的なアニメ監督の地位に近づきました。『おおかみこどもの雨と雪』の最終的な興行成績は、『コクリコ坂から』をはるかに上回り、細田守監督が宮崎駿監督の後継者だとしても過言ではないでしょう。

命の大切さと、都市からの離脱

『おおかみこどもの雨と雪』は冒頭である人物がなくなります。その後、100分近い時間をかけて、大切な人を失うことを描いたあと、ヒロインはなんとしても「おおかみこども」を連れて生きていきます。人間と狼の間の恋という設定は一部の観客を納得させるのは難しいことですが、現実世界でも妊娠しても堕してしまうことが起きているのに比べ、映画の中でのヒロインと「おおかみおとこ」が、喜んで２人の「おおかみこども」を産んでいることは、生命の尊重につながっています。「おおかみおとこ」が突然亡くなり、ヒロインは夫を亡くした悲しみに襲われながらも、どうやって生きていくかという大きな難問に直面します。そこで彼女は都会を離れ、田舎暮らしを始めることを選択するのです。このことも、他のアニメ映画に比べると、立派な目的とその原因があるとおもいます。

現代都市は隣近所との距離が近く、それがたやすく揉め事を引き起こすことになる一方で、人と人との関係は冷淡なものになっています。田舎での生活は便利ではないものの、『おおかみこどもの雨と雪』のヒロインは、田舎の人たちから世話になりながら、落ち着いた幸せな暮らしを営みます。都市生活者の考え方に違いをもたらし、そして実態はないけれど癒しの効果を与えます。

子供からの母親賛歌

この作品の中で、かなりの部分を占めるのが、ヒロインが大学生から１人の母親になっていく困難を描くシーンです。彼女はお手伝いさんであり、修理屋さん、アルバイト、農家など様々な仕事をしますが、いずれも「おおかみこども」に、最適な暮らしを見つけるためでした。もちろん、理想化しすぎている部分がないわけではないですが、田舎に移り住んでからは、想像するような困難はありません。２人の子どもたちは宮崎駿が描く主人公に似ていて、まだ小さな子どものうちに、自分だけで進むべき路を決めてしまいます。10歳になる頃、１人は狼として大自然の中で暮らしていくことを選び、１人は寄宿舎のある中学校に進学することを選びます。３人のキャラクターは人を感服させ、そして勇気を与えるのです。

① 6／15 上海影城スクリーン1　10：00 ～　全1058席　動員人数1058人　（動員率：100%）
② 6／16 新衡山電影院スクリーン1　18：30 ～　全562席　動員人数527人　（動員率：93.77%）
③ 6／23 大光明電影院スクリーン1　13：30 ～　全1365席　動員人数1351人　（動員率：98.97%）
総動員人数2936人（平均動員率：98.36%）



2013上海・日本映画週間

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆

【テルマエ・ロマエ】（2012年 ）

監督：武内英樹／脚本：武藤将吾／原作：ヤマザキマリ／キャスト：阿部寛、上戸彩、北村一輝、竹内力、宍戸開、笹野高史、市村正親／ 配給：東宝／上映時間：108分
© 2012 "THERMAE ROMAE" Film Partners
あらすじ：
古代ローマの浴場設計技師ルシウス（阿部寛）は、生真面目すぎる性格から時代の変化についていけず、職を失ってしまう。落ち込んだ彼は友人に誘われて訪れた公衆浴場で、突然現代日本の銭湯にタイムスリップしてしまう。そこで出会ったのは、漫画家志望の真実（上戸彩）たち“平たい顔族”、つまり日本人だった。日本の風呂文化に衝撃を受けたルシウスは古代ローマに戻って、そのアイデアを使い大きな話題を呼ぶ。タイムスリップを繰り返すルシウスは、浴場技師としての名声をローマで得ていくのだが……。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：© Sohu

一風変わったタイムスリップ型コメディの『テルマエ・ロマエ』の笑いのツボは、日本の観客にとってみれば、それは去年中国で大ヒットした『人再囧途之泰囧（Lost in Tailand 日本未公開作品）』と似たようなものでしょう。違うのは、『テルマエ・ロマエ』が文化的な要素を強く持っていることであり、物語は紀元130年の浴場を設計する建築技師ルシウスの生活ですが、彼は現代日本にタイムスリップすることで浴場づくりのアイディアを得るというものです。この作品は日本において、シリーズものでない映画では去年最高にヒットしています。日本で去年の4月に公開されると、成績は伸び続け、配給元の予想をはるかに上回り、たちまち続編の企画が立ち上がったほどです。

この映画を理解するのに、物語の背景を少し説明しておきます。『テルマエ・ロマエ』の舞台となる「公共浴場」とは紀元前4世紀のギリシャに生まれ、紀元後３世紀に至ると、ローマ帝国に2000人以上が同時に入れる「カラカラ大浴場」まで出来ました。当然、入る人が多ければ混乱も起き、ローマの公衆浴場は酔っぱらいや売春の客引き、遊び人たちが集まる場になってしましました。その後、キリスト教が信者を厳しく指導するようになり、公衆浴場は次第に庶民の暮らしの中から消えて行きました。中世に入り十字軍が登場すると再びこのような入浴の習慣が取り入れられましたが、キリスト教ではこれを異教徒のやることとみなし、厳しく非難しました。また、梅毒や疫病が浴場を通じて極めて簡単に広がったこともあり、公衆浴場は衰退していきました。入浴する代わりに、王室や貴族の人々は香水を使って体臭をカバーするようになりましたが、このことがパリを中心とするフランスの都市で、公共衛生を著しく悪化させた原因の１つになりました。その後、19世紀にイギリス人がシャワーを発明すると全世界に広がりました。

今も公共浴場がある日本は、ローマ時代の大浴場について、ある種の似たもの同士的な好感をもって『テルマエ・ロマエ』のようなストーリーを受け入れました。お湯に入ることは日本文化の一部であり、日本人にとって身体を熱いお湯に入れることは、心身をリフレッシュすることだけでなく、治療行為、あるいは娯楽や社交の場とも考えています。日本語で「銭湯」という公衆浴場は、平安末期の京都で誕生し、江戸時代後期に最も普及しました。『テルマエ・ロマエ』の中で主人公ルシウスが初めて現代の日本にタイムスリップした時、彼は日本のどこにでもある、しかし商売上はあまり儲かっていない、古代から進化した形の公衆浴場に現れました。今の公衆浴場の景気がよくない理由は、ルシウスが次にタイムスリップした先で見た、20世紀に入り日本に普及した内風呂にあります。風呂場は極めて狭く、バスタブには保温効果のある折りたたみ式の蓋
（この蓋の形は、今、ipadのカバーで用いられているものと同じです）が使われているなど、今の日本の普通の家庭やホテルで見かけるものです。さらに高級化すると、バブルバスがあったり、テレビを見ることや音楽が楽しめたりするなど設備が豪華になります。ルシウスは３度目にタイムスリップした時に、この21世紀の浴室を目にすることになります。

『テルマエ・ロマエ』の制作上、最も費用がかかったのは、ルシウスが４度目にタイムスリップする時に遭遇する温泉でした。温泉は今、日本の文化を体験するときに絶対に欠かせないものであるとはいえ、温泉も衰退傾向にあります。2008年、石井克人監督が、清水宏監督の代表作『按摩と女』が『山のあなた～徳市の恋～』としてリメイクされた時、その作品の中で見られた「温泉街」は今ではもう見かけることはできません。『テルマエ・ロマエ』のヒロインの実家は温泉を営んでいますが、長きにわたる赤字経営に耐えられず、廃業を決意しています。『山のあなた～徳市の恋～』の「温泉街」に対する懐かしさは、まさに最近の日本映画界で流行している「昭和趣味」の１つといえるでしょう。しかし『テルマエ・ロマエ』では、このような「昭和趣味」が描き出されているだけでなく、そこにローマ時代の大浴場に対するあこがれがあります。さらに凄いのは、ヒロインの実家の温泉の常連客である老人たちも、古代ローマ時代にタイムスリップして、ハドリアヌスたちが北方の蛮族（ユダヤ人）との戦場において、温泉治療をすることでその力を存分に発揮してしまうのです。このような「ありえない」展開も、ただ笑えるだけではありません。

ルシウスは２つのタイプの内風呂にタイムスリップします。先にタイムスリップしたところでは、ルシウスは老人の訪問介護士と誤解され、次に跳んだ先では、バスタブメーカーのショールームであり、そのセールスマンたちに追われます。この２つのシーンで進んでいることは、漫画の才能を完全に否定され、アルバイト先でオーナーに首にされるという展開です。この明確に対比されるのは、ルシウスはローマの公衆浴場でもそうであったように、温泉でも入浴客に親切にされるということで、どちらも公衆浴場はのんびりした場であるということです。その一方で、現代都市の内風呂は、個人で楽しむものとして大切にされていますが、どこか冷たい気分が漂い、それは人の心が冷たいことを示唆しています。しかし大衆浴場では誰もが開放的になり、そして豪華な設備やサービスに、心の底から温かい気分になります。多分、お湯に入るということは本来、個人的なことではなく、大勢で入ることこそ、本当の「入浴」ではないでしょうか。

① 6／15 大光明電影院スクリーン1　15：45 ～　全1365席　動員人数1239人　（動員率：90.77%）
② 6／17 新衡山電影院スクリーン1　18：30 ～　全562席　動員人数541人　（動員率：96.26%）
③ 6／23 上海影城スクリーン1　13：30 ～　全1058席　動員人数1002人　（動員率：94.7%）
総動員人数2782人（平均動員率：93.20%）



2013上海・日本映画週間

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆

【桐島、部活やめるってよ】（2012年 ）

監督：吉田大八／脚本：喜安浩平、吉田大八／原作：朝井リョウ
キャスト：神木隆之介、橋本愛、大後寿々花／上映時間：103分
© 2012 “Kirishima” Film Club © Ryo Asai / SHUEISHA

あらすじ：
いつもと変わらぬ金曜日の放課後、バレー部のキャプテンで成績優秀、誰もがスターとして一目置いていた桐島が突然部活を辞めたというニュースが学校内を駆け巡る。桐島の恋人でさえ彼と連絡が取れないまま、桐島と密接に関わっていた生徒たちはもちろんありとあらゆる生徒に波紋が広がっていく。人間関係が静かに変化し徐々に緊張感が高まっていく中、桐島とは一番遠い存在だった映画部の前田（神木隆之介）が動き出す……。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：© Sohu

普通の映画のタイトルとは違っているし、よくわからないことは、この『桐島、部活やめるってよ』がどんな話なのか、そして今年の日本映画週間で最も面白い映画だということです。これは日本アカデミー賞の最優秀作品賞を受賞し、日本で最も権威のある雑誌『キネマ旬報』から、マニアックな雑誌の『映画秘宝』に至るまで、年間のベスト10に選ばれているということです。中国の観客にとって、これは日本で最もレベルの高い青春映画の１つであり、見た人は誰でも、青春の頃の感情を思い起こさせるのです。

くたばれ「青春時代の残酷さ」　大島渚監督の『青春残酷物語』から始まった、あるいは岩井俊二監督の『リリィ・シュシュのすべて』からだとも言われますが、青春映画について語る時、特に日本の青春映画の場合、どんな物語であるかは語る必要はありません。人々はこんな風にたとえるのです。「青春とは残酷だ」と。きっとこれが口癖のようなっているのではありませんか？青春とは一体何でしょうか？

『桐島、部活やめるってよ』の主人公たちは、あと残り半年で高校２年が終わろうとしている17～18歳であり、まさに青春の中にあり、進学するかしないか考えています。（日本社会では、多くは大学に進学せず、高卒のアルバイトが多いです）、さらに学校を離れ、社会に入ることを準備する時期です。微妙に変化したり複雑な時期であり、大人からすると、とても愚かに見えてしまうのです。

高校生にとって卒業が近づくにつれて、落ち着いた大人になっていくと言い、°子供時代の影」といったものは、高校以降は失われていきます。この時、人は、大人になるために、徹底的に子供時代の、自己中心的な、閉ざされた世界にわかれを告げて、意識的に自分の周りの世界を認めるだけでなく、その世界へと入っていこうとします。同時に、他人との関係、例えば恋愛関係や友人関係といったものを築く必要があります。この種の関係ができると、自分はどんな人間であるかも決定づけられ、他の人にどのように映るのかにも及んでいきます。『桐島、部活やめるってよ』の主人公はバレーボール部員だったり、バトミントン部だったり、野球部だったり、ブラスバンド部、映画部、それに帰宅部（どこにも所属せず、放課後まっすぐ帰宅する生徒）や、剣道部をやめたものもいる。体育会系に所属する者は、運動が苦手な人を見下し、それは文化系の生徒たちにもいえることで、ブラスバンド部員は映画部員を見下す。バレー部の中にもスター選手と、補欠でしかない部員がいる。この複雑さは学校の外の社会階層の区別には全く見られないものです。運動が得意なことに何の意味があるのだろうか？自分は見下される人でどんな意味があるというのか？どの登場人物にも、特に意義のない事情を抱えていることが見て取れます。たとえば、桐島がなぜ退部するのかその理由を知りたがっているのに、「桐島」という主人公は本編に登場しないのである。

努力することは馬鹿だ

多くの青春映画で、物語は１人か２人の人物の上に集中して展開するので、観客はその人物の視点からしか見ることができません。『桐島、部活やめるってよ』は、編集によって物語を展開させていく手法をとっており、観客は１人か２人の視点にとどまるか、神の視点で見るだけでなく、何度も「金曜日」の事件の中で、何人もの主人公の視点から見ることになります。そして多くの人が、自分に近いもう１つの視点を見出すことになるのです。映画館で見れば、たやすく共感することができるし、そしてかつての自分や（あるいは今の自分が）、こんなにも愚かであったことを見出すことでしょう。この『桐島、部活やめるってよ』は技術的に高い水準にあり、その点からも、他の青春映画と区別されますが。このことは容易に『羅生門』『告白』を思い起こさせる理由になるでしょう。初見ではなんのことかわからず、何度も繰り返して見てしまい、そして見終わった後、さらにもう一度繰り返して見てしまうのです。

もしこの『桐島、部活やめるってよ』にわくわくさせるような点があるなら、それは最も見下された映画部のことでしょう。映画部員はジョージ・A・ロメロの作品を神のように崇め、映画部の顧問が『君よ熱き涙を拭え』の続編を撮るように命じるがそれに反発し、必ず自分のゾンビ映画を撮ろうと思っている。この8ミリのゾンビ映画は何も彼らに与えないが、もしこの努力する気持ちがなければ、外見はかっこいいが、友達を喧嘩別れをしたあと、何をしていいかわからない宏樹（東出昌大）と変わらない存在になっていたでしょう。これが正しいのは、宏樹が前田（神木隆之介）のことを褒めて、自分のことが恥ずかしく、そして涙をながすことに動機につながります。全編を通じ、『桐島、部活やめるってよ』の意義、そして言いたいことは、自分たちはこの世界で生き続けなければならない、だから自分が最も関心をもって取り組みたいことを探し、ちゃらんぽらんでいい加減な暮らしをしたくないと思うのです。

映画ファンとしてのプライド

今述べたように、ジョージ・A・ロメロを崇拝していることから、『桐島、部活やめるってよ』でも塚本晋也や、クェンティン・タランティーノ、満島ひかり、『映画秘宝』を非常に支持しています。ラストの戦いは、ただ「映画万歳！」と飛び上がって叫びだしたくなります。立教大学映画部でインディペンデント映画を撮るという７年前の作品『カミュなんて知らない』は、相米慎二、溝口健二、『ベニスに死す』等の時代の映画人や、名作にリスペクトしています。こういった作品は映画に対する愛を描いた作品で、映画ファンの心にあるそんな気持ちをかきたててしまうのです

映画化に際し、原作小説に登場している『映画秘宝』は『映画旬報』になり、2012年ベスト10の中では、『桐島、部活やめるってよ』は第一位の座を他の作品（第一位は北朝鮮の現実を描いた『かぞくのくに』）に譲り渡しましたが、けちくさいことを言わざるをえなくなりました。愛を語るわけでもなく、喧嘩して騒ぐ話でもないこの『桐島、部活やめるってよ』は、自分をじっくり見つめさせる、そんな力をもった、映画への愛が込められたインディペンデント映画のような雰囲気を持つ青春映画で、タイトルが風変わりであっても決して見逃せない作品なのです。

① 6／15 新衡山電影院スクリーン1　20：45 ～ 全562席　動員人数540人 （動員率：96.09%）
② 6／17 大光明電影院スクリーン1　18：30 ～ 全1365席　動員人数1129人 （動員率：82.71%）
③ 6／22 上海影城スクリーン1　10：00 ～ 全1058席　動員人数997人 （動員率：94.23%）
総動員人数2666人（平均動員率：89.31%）



2013上海・日本映画週間

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆

【遺体～明日への十日間】（2012年 ）

監督：君塚良一／脚本：君塚良一／原作：石井光太／キャスト： 西田敏行
配給： ファントム・フィルム／上映時間：105分
© 2013 Fuji Television Network

あらすじ：
東日本大震災の発生直後。定年まで葬儀関係の仕事に就いていた相葉常夫（西田敏行）は、遺体に接する機会が多かったことから、遺体安置所でボランティアとして働くことになる。一人一人の遺体に優しく話し掛ける相葉の姿を見て、膨大な数の遺体に当初は戸惑っていた市職員たちも、一人でも多く家族のもとに帰してあげたいという気持ちで動き始める。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：© Sohu

「完全に傍観者のような視点でこの映画を見ていたので、最初は西田敏行が演じるキャラクターは話し方がくどくとしていて、ちょっと耐え切れない感じでしたが、その後はすっかり魅せられてしまいました。最高のキャスティングでした。

行方不明者を探す掲示板、犠牲者を覆う清潔な毛布、犠牲者を安置している場所、遺体をマッサージするところ、泥だらけの地面を掃除するところ、祭壇をつくる遺族、犠牲者へのおとむらい、棺を用意すること、そして最後の別れ。実際、日本人も普通の人たちであり、多くの人が言うように、秩序だったことをしているわけではなく、混乱をきたしたり、脇目もふらずに遺体安置所で家族を探しまわったり、順番に素直に従わずに親しい人を探しまわるのです。ただ、大災害に遭ったということで、そのことが心理が影響していることを注意しなければなりませんが。

子供の遺体を見たとたん、私の涙腺はついに決壊しました。現れた時は、他の遺体は複数の人で運び込まれるのですが、その子は１人で運び込まれていました。そのようにして遺体安置所に入り、そしてのちにこの様子に泣くことになります。「どうして私は生きているんだろう」と言い、未来のこの有様を変えたいとたまりません。棺が来るのを待つ間、西田さんはその子に決まった言葉ではなくいろんなことを尋ねます。そして亡くなった方の尊厳を守りつつ、個人的なことに立ち入っていきます。しかし、最後には遺体を火葬しなければならず、その時になっても家族が迎えに来てくれません。西田さんは棺を抱きしめるようにして、しかもそれがとても小さなサイズの棺なのですが、こう言います。「頑張るんだぞ」私の涙腺は完全に壊れました。涙を止めることはできませんでした。まるでこのような災害にあっていないように、子供がたった一人、街なかで道に迷って、家族とはぐれてまったように、西田さんはこの子を慰め、そして家族が迎えに来るのを待っているかのように言うんです。「この方たちも私たちと同じ人なんです。ならばその尊厳を守るべきでしょう」と。この言葉は私の脳裏に深く刻まれ、絶対に忘れることはないでしょう。

この映画は『おくりびと』ではありません。『おくりびと』は人と人の絆を描いた作品ですが、この『遺体』は人に対する尊厳を描いた作品です。

「この映画についていえば、災害を題材にした作品といえるでしょう。しかし、ハリウッドの大作のような特撮とは全く関係がありません。あの地震の時、ただ部屋にいてテーブルの下で震えていました。そして一本の電話で大災害が起きたことを知ったのです」監督はこの映画の重点はすべて人と、亡くなった人の中にあると言います。この点についていえば、スペインの話題作『インポッシブル』とくらべられますが、こちらは極限まで突き詰めました。

「遺体」こそ、作品の全編を貫く存在であり、遺体がこの映画の本当の主人公なのです。目の前に現れる遺体は、子供、お年寄り、家族、友達を問いません。このように次々と運び込まれる遺体をまのあたりにすると、観客の心も、一体一体現れるにつれて震えが止まらなくなります。

どんな方が亡くなったのか、そのことが観客の心を的確にとらえ、そして時を問わず涙を流させるのです。遺体にマッサージを施すとき、お腹の中に赤ちゃんがいる遺体、夫婦、そういった亡くなった方がどんな人であったのか、ということが、涙腺を刺激するだけでなく、亡くなった方への「尊厳」とは何かをより理解させることになるのです。

この作品を拡大して言うことができるなら、私たちが住む中国というところは、お隣の国とは遥かに違う場所です。突発的な事件については政府の問題だということはひとまず置いておくとしても、人と人の関係にあるということは言えるでしょう。日本と同じように、中央が権力を持つ国なのに、人と人どうし、互いに尊重しあうことがどうしてできるでしょう。この人たちは「死体」ではなく、犠牲になった方々です。この人たちはみんな今の今まで、元気に生きていた人たちなのです。日本は100年かけてそのような社会的な責任感を育むことができ、遺体に接するときも、ただの作業員ではなく、自らを神聖な仕事に従事するものだと変えることができるのです。これも私が最も感動したところです。映画を見た時、死がとても身近に迫っているように感じたのですが、映画の中では役者たちが遺族のためにこのように接してくれるのをみて、まるで死こともどうして怖いとおもうようになるでしょう。そして、自分が中国に住んでいることが、とても恐ろしく思えるようになりました。

① 6／15 世紀大上海電影院スクリーン1　18：30 ～　全198席　動員人数152人　（動員率：76.77%）
② 6／16 永華電影城スクリーン1　15：45 ～　全350席　動員人数267人　（動員率：76.29%）
③ 6／19 上海影城スクリーン1　10：00 ～　全1058席　動員人数741人　（動員率：70.04%）
総動員人数1160人（平均動員率：72.23%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【ヒミズ】（2011年 ）

監督：園子温／脚本：園子温／原作：古谷実／キャスト：染谷将太、二階堂ふみ
配給：GAGA／上映時間：129分
© 2011 “HIMIZU” FILM PARTNERS
あらすじ：
15歳の少年・住田祐一は、実家の貸しボート屋に集まる、震災で家を失くした夜野、田村たちと平凡な日常を送っていた。住田のクラスメイトの茶沢景子は、大人びた雰囲気の住田が好きで猛アタックをかける。疎まれながらも彼との距離を縮めていく茶沢。ある日、借金を作り蒸発していた住田の父が帰って来た。金をせびりながら殴りつける父親の暴力に耐える住田。ほどなく母親も中年男と駆け落ちしてしまい、住田は天涯孤独となってしまう。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：© Sohu

『ヒミズ』は園子温監督の最新作ではなく、最もエロティックでも最も暴力的でもない作品ですが、それでも見どころにあふれた作品です。この作品は本来2011年にクランクインする計画でしたが、3月11日の東日本大震災が起き、急遽脚本を修正し、撮影スケジュールを延期したので、原作の漫画にはない、災害に遇うくだりが強制的に盛り込まれています。原作ではとても暗いエピソードが、積極的なものになり、園子温監督の作品の中では数少ない、元気を与えられるような映画になっています。しかし、それでも園子温監督独特の、爆発的な暴力や、大量の台詞、クラッシック音楽を使ったり、父権の崩壊が引き起こす破壊的な性格を盛り込んだり、神経質で悪趣味で、何かを暗示するような暴力的なシーンは健在です。積極的な一面とは、主人公の住田が、父親を殺したあと、ヒロインの茶沢を説き伏せられて自首するくだりです。これは中国大陸の審査的な結末ですが、おそらくこのことが、園子温監督の作品が大陸で行われる日本映画週間で上映されること理由の１つになったのではないでしょうか。

3.11大震災が起きたあと、日本では少なからず映画監督が大震災を題材とするドキュメンタリーや劇映画を撮影し始めたり、あるいは、書きあがっていた脚本を抑えめの表現にしたり、書き換えたりしました。日本でもっともとらえどころのない、発言も不遜なことが多い園子温監督も、震災と関係のある作品づくりを思いたち、極めて早い速度で、被害の大きい福島に向かい、風景を撮影し、『ヒミズ』の中にそのカットを使っています。もし3.11大震災が起きていなければ、この『ヒミズ』は全く別な映画になってはずで、私たちが今見ている『ヒミズ』は、園子温の宿命であり、この映画がもっと生まれた宿命であったと言わざるを得ません。

『ヒミズ』とは、もぐらの一種のことで、「日見ず」ともいいます。主人公の住田の父親は金のことしか頭にないチンピラで、彼は住田が幼い頃に、突然溺れて死んだということにして、保険金を手に入れました。住田の母親はあまり儲かっていない貸しボート屋を営み、外で男を作っていましたが、大震災のあと、その男とともに家出してしまい、住田は捨てられました。家族が崩壊し、苦労して生活しながら、住田は普通の少年のように成長することはできなくなってしまいました。そして彼が一番望んでいたのは、自分がある日ヒミズに変身して、普通の人にはまず見えない暮らしをしたいと思っていた。しかし、大地震がもたらした社会の変化によって、金を始終せびりに来る父親と、家出した母親の存在が、住田を普通の状態にすることができなくさせたのです。そしてある雨の降る夜、彼は父親を殺してしまうのです。彼は自首することも自殺することもできず、その一方で、罪を償うために、彼は社会に役に立つことをしようと決心します。それは、安全な社会に危害を加える人を阻止し、必要なときには自らその人を殺そうというものでした。

本編中、何人か社会に危害を加える人が登場します。それは、日本で現実にあったような路上の無差別殺人犯などです。その中の１人が、バスの中でシルバーシートに座り、妊婦が前にたっても譲ろうとせず、妊婦の母親が我慢できなくなって大声でその非道徳的なふるまいをなじったところ、刃物で刺し殺したという若い男です。現実の生活の中で、バスや地下鉄などの中で、席を譲らなければならない状況はありますが、どんな人も、たとえば疲れすぎていたといったことが原因で、譲りたくないと思うことがあるものです。こんなとき、心のなかでは良心が駆け引きをしているもので、特に若者に対して、席を譲るべきだとか、誰かに責められたりすれば、道徳心はたちまちねじまがり、譲ろうと喉元まででかかっていたのに、身体の中に「悪」がひろがり、抑えきれない状態になります。『ヒミズ』の中で起きたのはこういうことです。この作品の台湾でのタイトルは『不道徳的秘密』というのでもう少しわかりやすいかもしれません。園子温監督の作品で「悪」が生まれ、人の心をねじ曲がってしまう原因は、とりわけ大地震の影響でさらに大きく非日常的な『ヒミズ』の世界の中では、主人公は何度か悪い行為をするのですが、「悪をもって悪を懲らしめる」といえるでしょう。たとえば夜野社長とイケメンのスリに窃盗する人が、ドラッグの売人で原発を支持する「ヒトラー」であるというふうに。

この『ヒミズ』の中で最も輝いているシーンは同級生の茶沢との恋でしょう。住田ははじめのうちはそんな気分ではなかったものの、最後には受け入れます。２人は平手打ちをするような関係であり、「嫌い嫌いも好きのうち」という理屈をそのまま描き出しています。この２人を演じた染谷将太と二階堂ふみの、正気を逸したような演技は、ベネチア国際映画祭で最優秀新人賞を受賞するだけでなく、本編中で教師の台詞にあるように「２人は日本の未来である」であり、「日本映画の未来」でもあるのです。

① 6／15 大光明電影院スクリーン1　10：00 ～　 全1365席　動員人数983人 （動員率：72.01%）
② 6／20 上海影城スクリーン1　18：30 ～　 全1058席　動員人数681人 （動員率：64.37%）
③ 6／22 永华電影城スクリーン1　15：45 ～　 全350席　動員人数207人 （動員率：59.14%）
総動員人数1871人（平均動員率：67.47%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【今日、恋をはじめます】（2012年）

監督：古澤健／脚本：浅野妙子／原作：水波風南
キャスト：武井咲、松坂桃李／配給：TBS／上映時間：121分
© 2012 “Love for Beginners” Film Partners

あらすじ：
日比野つばき（16）は地味でガリ勉で恋愛に縁のない女の子。そんなつばきが、高校生活最初の日に出会ったのは、秀才でイケメンだけど、ロン毛のチャラチャラした学校一のモテ男、椿京汰（16）。そんな京汰に“昭和女”とバカにされた上、いきなりファーストキスまで奪われてしまう！突然のキスにとまどい、反発しながらも、京汰の意外な一面を見て、次第に惹かれてゆくつばき…。初めてのデート、初めてのキス、初めてだらけの経験に悩み苦しみながらも、好きな人との瞬間を重ねることで、少しずつ変わっていく。果たしてつばきと京汰の恋の行方は…？

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：

「よかったです。純粋な恋をしたいと気持ちが呼び覚まされました。まるで初めて恋をした時のようで、気持ちが揺さぶられました。一番重要なのは、どのように応じるかであり、消極的にも積極的にも自分を見つめていました。あと音楽がとてもよかったです」

「タイトルどおりで、いいかどうかはわかりませんが、ごく普通の初恋とはそういうものです」

「純愛を描いたとてもいい作品で、不治の病や感情に溺れることもなく、甘ったるい物語になってもいなかったです」

「ごく普通の日本の若者の静かであっさりした暮らしを描き、それでもとても可愛いかったです」

「典型的な日本の青春学園ラブストーリーもので、テーマがはっきりしていて、特に原作の影響を色濃く受けていました。日本の漫画のテイストを保ちつつ、漫画にもあり、そして映画で積極的に向上しようというテーマをさらに深く打ち出していました。この作品では中学生活の特色を保ち、原作を尊重しています。主人公のキャラクター造形も重視されていて、ヒロインやヒーロー選びにも、その一端が伺えました」

「要点をついた映画だと思います。漫画を実写化した日本風の青春恋愛映画で、たとえば『致我们终将逝去的青春（So Young）』（日本未公開作品）のような中国映画で見られるようなデフォルメしすぎたエピソードや強烈すぎる人物造形などの問題がありません。美しく、純真で、活気があり、そしてロマンティックでした」

「このようなアニメや漫画を原作にした実写版の日本映画は、多くが「二次元」的な影響から逃れようと懸命になりますが、この種の作品の中心にあるのは可愛らしさであり、それがむしろ日本の学園ラブストーリー映画の独自性であり、その雰囲気をなくすべきではないと思います」

① 6／15 上海影城スクリーン1　15：45 ～　全1058席　動員人数925人　（動員率：87.43%）
② 6／16 曲阳影都スクリーン1　18：30 ～　全384席　動員人数313人　（動員率：90.82%）
③ 6／22 星美正大影城スクリーン3　15：45 ～　全316席　動員人数287人　（動員率：83.86%）
総動員人数1525人（平均動員率：86.75%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【映画 ひみつのアッコちゃん】（2012年）

監　　督：川村泰祐
脚　　本：山口雅俊、大森美香
原　　作：赤塚不二夫
キャスト：綾瀬はるか、岡田将生
上映時間：124分
© 2012 “AKKO-CHAN: The Movie” Film Partners

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

あらすじ：

10才の小学生・加賀見あつ子。ある日鏡の精から《魔法のコンパクト》をもらい、22歳の大学生に大変身！22歳に変身したアッコは、ある日、化粧品会社のエリート社員、尚人にスカウトされ、同じ会社でアルバイトすることに。やがて二人に芽生えたほのかな恋心…。しかし、アッコは魔法のコンパクトでオトナに変身した小学生という秘密は誰にも言えない。もしこの秘密がバレたら、二度と元の世界には戻れない。大切な恋も終わってしまう…。そんな中、尚人の会社が買収されるという危機が訪れる!!　新商品開発で会社を立て直そうとがんばる彼のため、アッコは奇想天外なアイディアで、ある行動に出るが…。

★ レビュー：

「単純な都市型童話で、小学生の心で大人の世界を見るというもの。「学ぶことに近道はない」、自分が心から大切にしていることを守るために、言いたいことも飲み込んで、いわゆる大人とは一生懸命仕事に努力することを指す。つらかったのは、あるいは身を呈して自分が大事にしているものを守れる人であろうか？自分が思い描いた人になっているだろうか？」

「子役の吉田里琴ちゃんの演技は、子役の中でも一二に数えられるもので、この子の演じる精神年齢はもう少し上の人物に合ってると思う」

「まつげの長い小さな女の子が10年後の自分をあらかじめ体験してしまうのですが、自分たちが10年後、思い描いた自分になっているだろうか。最初はただ大きくなりたいと思うものだ。それが映画の中のこんな台詞で証明されています。およそすべての良い事と悪いことには、大人の世界においてはとても多くのつまらないことがそこに結びついているものだ、しかし都合いいことに自分にとっては使いどころがとてもあるからそこにありつづけるのだ」

「終わり方がよかったです。『時をかける少女』のように「未来はあなたを待っている」といったような意味があるようでした」

「綾瀬はるかの演技はどこにも違和感がありませんでした」

① 6／15 環芸電影城スクリーン2 15：45 ～　全354席　動員人数331人　（動員率：93.5%）
② 6／16 UME新天地国際影城スクリーン1 15：45 ~全325席　動員人数284人　（動員率：87.4%）
③ 6／23 永華電影城スクリーン1 15：45 ～　全350席　動員人数310人　（動員率：88.57%）
総動員人数925人（平均動員率：89.89%）

◆◆◆ 上映作品紹介 ◆◆◆



【カラカラ】（2011年 ）

監督：クロード・ガニオン／脚本：クロード・ガニオン／キャスト： ガブリエル・アルカン、工藤夕貴、富田めぐみ／ 配給： ククルビジョン／上映時間：104分／© 2013 KARAKARA PARTNERS & ZUNO FILMS

あらすじ：

文学教授の職を引退し、念願のアジアへやってきたピエール。気功のワークショップを終え、残り一週間を沖縄の島々を旅して過ごそうと考えていた彼は、那覇在住の主婦、純子に出会い、一日の観光ガイドをしてもらう。それきりの縁に思えたが、夫の暴力に苦しむ純子がピエールの旅に同行すると言い出して……。

思いがけない展開に戸惑う初老のピエールと、久しぶりに味わう開放感に胸を躍らせる純子。性格も境遇もまったく異なるふたりの道中は、様々なカルチャーギャップと静かな内省を繰り返しながら、ゆったりと進んでいく。

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：

「観客も多く良かったです」

「最後の四分の一の部分が、ピエール１人が自由を満喫しているアップのカットが多く、静かに座って、農婦たちが手足を素早く動かして、芭蕉の葉を集めている様子を眺めている目はまるで子どものように純真でした。私はどうしてピエールが、もしくは監督が日本に興味を持ったのかその理由を知りたいです。１人の西洋人が、原始的で活力に満ちた長寿の国で新たな希望を見出す、体内に満ちていた酒をきれいに空にして、まるで空き瓶になったような気持ちで、揺れ動く、カラカラという音は無限の期待を表しているようです」

「いろんなものが入り混じった監督が、自分の人生観や世界観で切り取った沖縄の観光映画のようです」

「異国情緒あふれる観光映画で、人間国宝の心持ちとは本当に偉大です」

「平凡な中に真実がある。自分が持つ時の流れの感覚で、ゆっくりと穏やかな心を見出していました」

「まるで穏やかな風が頬を撫でていくような感覚の映画です」

「明美の祖母が語る言葉が感動的でした。」

「人は振り返ることは必要ない、前を向くことが必要です。生活は変わるもので、男も変わる、彼の旅はまだまだ続き、自分たちもまた同じ道の途中にあります。今を生きる力こそ最強！まるごと楽しむことが大切です」

「オリジナルサウンドがとてもいいです。エンディングの三味線の歌が本当に素敵でした。音楽的にもとてもいい作品です」

① 6／16 国泰電影院スクリーン2　15：45 ～　全236席　動員人数211人　(動員率：89.41%)
② 6／19 世紀友誼影城スクリーン6　18：30 ～　全301席　動員人数239人　(動員率：79.40%)
③ 6／22 上海万達国際電影城スクリーン7　20:45 ～ 全257席 動員人数160人　(動員率：62.26%)
総動員人数610人（平均動員率：76.83%）



【リトル・マエストラ】（2012年）

監督：雑賀俊郎
脚本：坂口理子
原作：いずみ♡組
キャスト：有村架純、釈由美子
配給：アルゴ・ピクチャーズ
上映時間：108分
© 2012 “Little Maestra” Film Partners

あらすじ：
　漁獲量も落ち過疎化が進む志賀町福浦は日本海に面した雪景色も美しい港町。ここには数十年続くアマチュアオーケストラがあった。その名も“福浦漁火オーケストラ”、メンバーはここで働く漁師たちや町の人々など30～70代が中心。得意な曲はエドワード・エルガーの「威風堂々」のみ。しかし老指揮者・吉川が急死し、求心力を失ったオケは解散の危機に。そこで急遽、孫娘の高校生・美咲が呼びよせられ、「天才少女指揮者リトル・マエストラ出現！」と町の人々は大喜びするが……

※ 来場者：中国の映画配給会社、製作会社のプロデューサー／バイヤー／一般観客／マスコミ等

★ レビュー：

「映画週間の作品には、笑えるもの、泣けるもの、そして残念な過去を持つ可愛い子が出ているものが有りました。きめ細かくて、ちょっとテンポが遅いと思うようなところもそれでだけで、ストーリー展開は簡単でお約束通りでしたが、私にとってはお気に入りの作品でした」

「物語はありきたりですが、中高年のオーケストラ団員がとてもかわいらしく、特に何人かの短気なおじさんたちや、かわいい女の子、男の子がとてもよかったです」

「音楽がいろんな面をカバーしていました」

「展開は普通ですが、結末がいいで、上映が終わると、劇場は拍手に包まれていました。エンディングの音楽は満点です」

「日本映画はよくこの悲喜劇を１つにした作品が見受けられます」

① 6／15 新世紀影城スクリーン4　20：45 ～　全195席　動員人数131人　（動員率：67.18%）
② 6／16 環芸電影城スクリーン2　15：45 ～　全354席　動員人数286人　（動員率：80.79%）
③ 6／22 上海南橋海上国際影城スクリーン4 15：45 ～ 全316席 動員人数143人（動員率：45.25%）
総動員人数560人（平均動員率：64.74%）

◆◆◆◆ 舞台挨拶① ◆◆◆◆

◆ イベント名：**「あなたへ」舞台挨拶**
◆ 時間：6月15日（土）20:45～
◆ 映画館：和平影都スクリーン4
◆ 総動員人数：371人

■ 登壇ゲスト：
キャスト：余貴美子

■ 作品情報：
監督：降旗康男
脚本：青島武
キャスト： 高倉健、田中裕子、佐藤浩市、草彅剛、余貴美子、綾瀬はるか、三浦貴大
製作年：2012年
配給：東宝
上映時間：110分





あらすじ：
北陸のある刑務所の指導技官・倉島英二のもとに、ある日、亡き妻・洋子が残した２枚の絵手紙が届く。そこには、一羽のスズメの絵とともに“故郷の海を訪れ、散骨して欲しい”との想いが記されていた。そして、もう１枚は、洋子の故郷・長崎県平戸市の郵便局への“局留め郵便”だった。その受け取り期限まで、あと十日。　刑務所に歌手として慰問にきていた洋子とは穏やかで幸せな夫婦生活を営んでいた。長く連れ添った妻とはお互いを理解し合えていたと思っていたのだが、妻はなぜ生前その想いを伝えてくれなかったのか・・・。　妻の真意を知るため、彼女の故郷を訪れることを心に決める。妻の故郷を目指すなかで出会う人々。彼らと心を通わせ、彼らの家族や夫婦の悩みや想いに触れていくうちに蘇る、洋子との心温かくも何気ない日常の記憶の数々。様々な人生に触れ、さまざまな想いを胸に目的の地に辿り着いた英二は、遺言に従い散骨する。そのとき、彼に届いた妻の本当の想いとは―。


余貴美子様舞台挨拶


会場様子


ファンよりプレゼント贈呈

■ イベント内容：

『あなたへ』の主演・余貴美子氏はこの日、和装で、満面の笑顔を浮かべながら舞台挨拶に登場しました。そして撮影時の様子、中国で極めて高い知名度がある高倉健氏との共演についての感想、ロケ地の長崎のこと、そして今年の日本アカデミー最優秀助演女優賞を受賞したことについての感想を語りました。そして、海で夫を亡くした女性の姿を演じたこと、そして長崎弁のセリフに苦労したことを観客に話しました。

■ レビュー：© Sohu

昨年の夏、カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞した『愛、アムール』は、死を前にした者の愛の形を示したものであり、抑制された静けさがあり、愛を信じることを目の当たりにします。そして、ヒロインの死に至るくだりは受け入れがたく、異を唱えたくなる人もいるでしょう。この『愛、アムール』が全世界を席巻するのと時を同じくして、中国で極めて有名で、そして随分前から知られている名優・高倉健と田中裕子が主演した作品で、同じように年老いた者たちの愛を描いた映画『あなたへ』が日本で公開されました。ストーリー展開からみると、『あなたへ』は『愛、アムール』のようには心を震わせることはありませんが、老いた人たちの愛情は、晩年までそれまでの互いを信じる気持ちは変わらず、どちらか一方が先に亡くなることになっても、そこに一体どんな価値があるのだろうかというのが、『あなたへ』を見る前の最大の懸念でした。しかし結果はとても意外なものとなりました・

冒頭、田中裕子が演じる妻は既に世を去っており、高倉健が演じる夫は妻の遺志を叶えるために、改造した自家用車で富山から1000キロもの道を走り、妻の故郷である薄香へ向かい、海に骨を撒きます。夫は妻の意図がどうしても理解することができず、ただ、妻の指示に従うだけでしたその道中で彼は自称妻を亡くした文学好きな車泥棒や、全国各地で車に乗ってお弁当を売る男や、港の小さな村で食堂を営む女といった人たちと出会います。通りすぎていく風景は、高倉健の心にある感情を抱かせます。妻と知り合った頃のことから、夫婦になった時、15年の結婚生活が、高倉健には長い人生のうちのほんの一部であり、人と人は別れをいうこともあるが、夫は自分の心を自由にして、まだ終わっていない人生という名の道路を走り続けたいと思うのです。

激しい雨と風がやんだばかりの穏やかな海の上で、高倉健は船の上で、妻の遺灰をひとつかみひとつかみ、大海原にはなっていきます。出航前、妻の絵葉書の上に描かれた灯台を見ながら、遺言が書かれた絵葉書を空中に撒き散らします。この演技は妻との別れをとても上手く描いたものです。最後シーンで、種田山頭火の俳句が画面に映しだされます。「このみちや　いくたりゆきし　われはふけゆく」そしてリュックを背負った高倉健が前に向かって歩き出し、フレームアウトすると画面がフェイドアウトします。

細かな感想をいうと、このような作品と、3.11の大震災の後に撮影された、地震と関係のあるなしに関わらず数本の作品は、表面的には死者へ対する気持ちは似たところがあります。亡くなった方がどんな風に亡くなったにせよ、生きている者は積極的に別れを告げて、生きて行かなければなりません。

本編中、田中裕子を回想するシーンが出てきますが、画面は黄色がかったトーンで、平凡ではあるけれど、人の心を動かす感じで、その上宮沢賢治が作詞作曲した『星めぐりの歌』が流れ、昭和の雰囲気が色濃く漂います。もし監督が降旗康男のようなベテラン監督でなければ、こんな懐かしさを生み出すことは難しいことだったでしょう。高倉健の演技は何十年も前から変わらず「無表情」ですが、彼が世に出た頃の、ヤクザを演じていた時より感情表現は豊かになっただけでなく、台詞も多くが常識を外れたものばかりですが、銀幕のスターとしての無口なタフな男というイメージを創りだしてから、ゆっくりと今のような姿に変化してきているのです。タフな男を除いて、高倉健の出演作品はまさに『あなたへ』のような、一種のハートウォーミングな感動的な映画が多いです。中国の観客がよく知っている『鉄道員』は、監督も降旗康男です。ここ2年の間で、長門裕之、原田芳雄、山田五十鈴、大滝秀治（この『あなたへ』で老船長を演じています）、森光子、夏八木勲、三國連太郎ら名優たちが世を去っています。この『あなたへ』が高倉健の最後の作品となって欲しくないですが、その可能性をただ願うだけですが、それがあたってしまったら一生残念でなりません。

◆◆◆◆ 舞台挨拶② ◆◆◆◆

◆ イベント名：
「遺体～明日への十日間」舞台挨拶
◆ 時間：6月16日（周六）15:45～
◆ 会場：永華電影城スクリーン1
◆ 総動員人数：267人

■ 登壇ゲスト：
監督：君塚良一

■ 作品情報：
監督：君塚良一
脚本：君塚良一
原作：石井光太
キャスト： 西田敏行
製作年：2012年
配給： ファントム・フィルム
上映時間：105分





あらすじ：
　東日本大震災の発生直後。定年まで葬儀関係の仕事に就いていた相葉常夫（西田敏行）は、遺体に接する機会が多かったことから、遺体安置所でボランティアとして働くことになる。一人一人の遺体に優しく話し掛ける相葉の姿を見て、膨大な数の遺体に当初は戸惑っていた市市職員たちも、一人でも多く家族のもとに帰してあげたいという気持ちで動き始める。



舞台挨拶



君塚良一監督舞台挨拶



会場様子

■ イベント内容：　6月16日午後、スーツ姿の君塚監督は重い表情で『遺体 明日への十日間』の上映前舞台挨拶に出席しました。この作品は、大地震の後犠牲となった方の遺体とどのように向き合ったか、どのように亡くなった方の尊厳を守り見送ったかというものです。監督は、この映画は確かに『おくりびと』と似た作品だと認めた上で、全体のトーンはさらに重く、エピソードや台詞はどれも現実を踏まえたものであると語りました。上映後、会場からは２度大きな拍手が沸き起こりました。

■ レビュー：© Sohu
　「完全に傍観者のような視点でこの映画を見ていたので、最初は西田敏行が演じるキャラクターは話し方がくどくとしていて、ちょっと耐え切れない感じでしたが、その後はすっかり魅せられてしまいました。最高のキャスティングでした。
　行方不明者を探す掲示板、犠牲者を覆う清潔な毛布、犠牲者を安置している場所、遺体をマッサージするところ、泥だらけの地面を掃除するところ、祭壇をつくる遺族、犠牲者へのおとむらい、棺を用意すること、そして最後の別れ。実際、日本人も普通の人たちであり、多くの人が言うように、秩序だったことをしているわけではなく、混乱をきたしたり、脇目もふらずに遺体安置所で家族を探しまわったり、順番に素直に従わずに親しい人を探しまわるのです。ただ、大災害に遭ったということで、そのことが心理が影響していることを注意しなければなりませんが。
　子供の遺体を見たとたん、私の涙腺はついに決壊しました。現れた時は、他の遺体は複数の人で運び込まれるのですが、その子は１人で運び込まれていました。そのようにして遺体安置所に入り、そしてのちにこの様子に泣くことになります。「どうして私は生きているんだろう」と言い、未来のこの有様を変えたいとたまりません。棺が来るのを待つ間、西田さんはその子に決まった言葉ではなくいろんなことを尋ねます。そして亡くなった方の尊厳を守りつつ、個人的なことに立ち入っていきます。しかし、最後には遺体を火葬しなければならず、その時になっても家族が迎えに来てくれません。西田さんは棺を抱きしめるようにして、しかもそれがとても小さなサイズの棺なのですが、こう言います。「頑張るんだぞ」私の涙腺は完全に壊れました。涙を止めることはできませんでした。まるでこのような災害にあっていないように、子供がたった一人、街なかで道に迷って、家族とはぐれてまったように、西田さんはこの子を慰め、そして家族が迎えに来るのを待っているかのように言うんです。「この方たちも私たちと同じ人なんです。ならばその尊厳を守るべきでしょう」と。この言葉は私の脳裏に深く刻まれ、絶対に忘れることはないでしょう。
　この映画は『おくりびと』ではありません。『おくりびと』は人と人の絆を描いた作品ですが、この『遺体』は人に対する尊厳を描いた作品です。「この映画についていえば、災害を題材にした作品といえるでしょう。しかし、ハリウッドの大作のような特撮とは全く関係がありません。あの地震の時、ただ部屋にいてテーブルの下で震えていました。そして一本の電話で大災害が起きたことを知ったのです」監督はこの映画の重点はすべて人と、亡くなった人の中にあると言います。この点についていえば、スペインの話題作『インポッシブル』とくらべられますが、こちらは極限まで突き詰めました。
　「遺体」こそ、作品の全編を貫く存在であり、遺体がこの映画の本当の主人公なのです。目の前に現れる遺体は、子供、お年寄り、家族、友達を問いません。このように次々と運び込まれる遺体をまのあたりにすると、観客の心も、一体一体現れるにつれて震えが止まらなくなります。
　どんな方が亡くなったのか、そのことが観客の心を的確にとらえ、そして時を問わず涙を流させるのです。遺体にマッサージを施すとき、お腹の中に赤ちゃんがいる遺体、夫婦、そういった亡くなった方がどんな人であったのか、ということが、涙腺を刺激するだけでなく、亡くなった方への「尊厳」とは何かをより理解させることになるのです。
　この作品を拡大して言うことができるなら、私たちが住む中国というところは、お隣の国とは遥かに違う場所です。突発的な事件については政府の問題だということはひとまず置いておくとしても、人と人の関係にあるということは言えるでしょう。日本と同じように、中央が権力を持つ国なのに、人と人どうし、互いに尊重しあうことがどうしてできるでしょう。この人たちは「死体」ではなく、犠牲になった方々です。この人たちはみんな今の今まで、元気に生きていた人たちなのです。日本は100年かけてそのような社会的な責任感を育むことができ、遺体に接するときも、ただの作業員ではなく、自らを神聖な仕事に従事するものだと変えることができるのです。これも私が最も感動したところです。映画を見た時、死がとても身近に迫っているように感じたのですが、映画の中では役者たちが遺族のためにこのように接してくれるのをみて、まるで死こともどうして怖いとおもうようになるでしょう。そして、自分が中国に住んでいることが、とても恐ろしく思えるようになりました。

◆◆◆◆ 舞台挨拶③ ◆◆◆◆

◆ イベント名：
「映画 ひみつのアッコちゃん」舞台挨拶
◆ 時間：6月15日（土）15:45～
◆ 会場：環芸電影城スクリーン２
◆ 総動員人数：331人

■ 登壇ゲスト：
監督：川村泰裕

■ 作品情報：
監督：川村泰祐
脚本：山口雅俊、大森美香
原作：赤塚不二夫
キャスト：綾瀬はるか、岡田将生
製作年：2012年
映時間：124分





あらすじ：
10才の小学生・加賀見あつ子。ある日鏡の精から《魔法のコンパクト》をもらい、22歳の大学生に大変身！22歳に変身したアッコは、ある日、化粧品会社のエリート社員、尚人にスカウトされ、同じ会社でアルバイトすることに。やがて二人に芽生えたほのかな恋心…。しかし、アッコは魔法のコンパクトでオトナに変身した小学生という秘密は誰にも言えない。もしこの秘密がバレたら、二度と元の世界には戻れない。大切な恋も終わってしまう…。そんな中、尚人の会社が買収されるという危機が訪れる!!　新商品開発で会社を立て直そうとがんばる彼のため、アッコは奇想天外なアイディアで、ある行動に出るが…。


会場様子


川村泰裕監督舞台挨拶


舞台挨拶

■ イベント内容：
６月15日午後、日本映画週間上映作品『ひみつのアッコちゃん』の監督・川村泰祐氏が上映前舞台挨拶に登場し、撮影時のエピソードを語り、人気女優の綾瀬はるか、岡田将生の両氏の演技を絶賛しました。まず川村監督は懸命に練習した中国語で「大家好，我叫川村泰祐，非常高兴来到上海（みなさんこんにちは、私は川村泰裕といいます。上海に来てとても嬉しいです）」と挨拶。そして、この映画が1960年代、日本の著名な漫画家・赤塚不二夫氏の作品を原作にしていて、漫画の誕生の50周年を記念したものであるということを語りました。この映画は、大人になりたくてたまらない10歳の女の子が、鏡の精から自由に変身ができる魔法のコンパクトをもらい、大人になります。彼女はたまたま化粧品会社に入社することになり、そこで仕事と恋をします。さらに大人の気持ちを知り、そして自分も成長することになります。監督はさらにこう続けています。この原作の漫画は過去に3回アニメ化されていますが、それを見た人たちもすでに4～50代になっており、『アッコちゃん』に対する記憶もまちまちであり、こうした観客に対して、どのような表現方法をすれば、原作で描かれている人物の心理を伝えることができるのか、それが実際、難しいところでした。監督自身、ジャッキー・チェンの映画を見て育ち、チャン・イーモウ、チェン・カイコーの両監督の作品がとても好きなので、この偉大な監督を育んだ土地で自分の映画が上映されるということは、とても嬉しいです、と話しました。

■ レビュー：
「単純な都市型童話で、小学生の心で大人の世界を見るというもの。「学ぶことに近道はない」、自分が心から大切にしていることを守るために、言いたいことも飲み込んで、いわゆる大人とは一生懸命仕事に努力することを指す。つらかったのは、あるいは身を呈して自分が大事にしているものを守れる人であろうか？自分が思い描いた人になっているだろうか？」

「子役の吉田里琴ちゃんの演技は、子役の中でも一二に数えられるもので、この子の演じる精神年齢はもう少し上の人物に合ってると思う」

「まつげの長い小さな女の子が10年後の自分をあらかじめ体験してしまうのですが、自分たちが10年後、思い描いた自分になっているだろうか。最初はただ大きくなりたいと思うものだ。それが映画の中のこんな台詞で証明されています。およそすべての良い事と悪いことには、大人の世界においてはとても多くのつまらないことがそこに結びついているものだ、しかし都合いいことに自分にとっては使いどころがとてもあるからそこにありつづけるのだ」

「終わり方がよかったです。『時をかける少女』のように「未来はあなたを待っている」といったような意味があるようでした」

「綾瀬はるかの演技はどこにも違和感がありませんでした」

◆◆◆◆ 舞台挨拶④ ◆◆◆◆

◆ イベント名：
「今日恋をはじめます」舞台挨拶
◆ 時間：6月15日（土）15:45～
◆ 会場：上海影城スクリーン1
◆ 総動員人数：925人

■ 登壇ゲスト：
監督：古澤健
プロデューサー：平野隆、森川真行

■ 作品情報：
監督：古澤健
脚本：浅野妙子
原作：水波風南
キャスト：武井咲、松坂桃李
製作年：2012年
配給：TBS
上映時間：121分




上海影城

あらすじ：
日比野つばき（16）は地味でガリ勉で恋愛に縁のない女の子。そんなつばきが、高校生活最初の日に出会ったのは、秀才でイケメンだけど、ロン毛のチャラチャラした学校一のモテ男、椿京汰（16）。そんな京汰に"昭和女"とバカにされた上、いきなりファーストキスまで奪われてしまう！突然のキスにとまどい、反発しながらも、京汰の意外な一面を見て、次第に惹かれてゆくつばき…。初めてのデート、初めてのキス、初めてだらけの経験に悩み苦しみながらも、好きな人との瞬間を重ねることで、少しずつ変わっていく。果たしてつばきと京汰の恋の行方は…？


司会　佐藤愛


古澤健監督／平野隆、森川真行
プロデューサーより舞台挨拶


会場様子

■ イベント内容：
青春ラブストーリー『今日、恋を始めます』は、上海フィルム・アート・センターで上映前舞台挨拶が行われました。その際、監督は次のように語りました。「この映画は、胸がドキドキしてくるような作品です。本編中で描かれる主人公のつばきが頑張る様子に、普通の女の子たちも励まされるでしょう」。プロデューサーの平野隆氏は「この作品は、今年のお正月の興行成績1位を記録しました。10代の女の子たちは基本的にみんなこの映画を見たことになります。だから上海の女の子たちやカップルにこの映画を見てもらい、日本と中国の友好の架け橋になることを願っています」。また森川真行プロデューサーは、「この映画は900万部というベストセラーの少女漫画を原作にした実写版です。若い人たちの間で大ヒットしました。そして武井咲さんと松坂桃李さんもこの映画で人気スターになったので、是非この映画の中の2人の演技に注目してください」と話しました。

■ レビュー：
「よかったです。純粋な恋をしたいと気持ちが呼び覚まされました。まるで初めて恋をした時のようで、気持ちが揺さぶられました。一番重要なのは、どのように応じるかであり、消極的にも積極的にも自分を見つめていました。あと音楽がとてもよかったです」
「タイトルどおりで、いいかどうかはわかりませんが、ごく普通の初恋とはそういうものです」
「純愛を描いたとてもいい作品で、不治の病や感情に溺れることもなく、甘ったるい物語になってもいなかったです」
「ごく普通の日本の若者の静かであっさりした暮らしを描き、それでもとても可愛いかったです」
「典型的な日本の青春学園ラブストーリーもので、テーマがはっきりしていて、特に原作の影響を色濃く受けていました。日本の漫画のテイストを保ちつつ、漫画にもあり、そして映画で積極的に向上しようというテーマをさらに深く打ち出していました。この作品では中学生活の特色を保ち、原作を尊重しています。主人公のキャラクター造形も重視されていて、ヒロインやヒーロー選びにも、その一端が伺えました」
「要点をついた映画だと思います。漫画を実写化した日本風の青春恋愛映画で、たとえば『致我们终将逝去的青春（So Young）』（日本未公開作品）のような中国映画で見られるようなデフォルメしすぎたエピソードや強烈すぎる人物造形などの問題がありません。美しく、純真で、活気があり、そしてロマンティックでした」
「このようなアニメや漫画を原作にした実写版の日本映画は、多くが「二次元」的な影響から逃れようと懸命になりますが、この種の作品の中心にあるのは可愛らしさであり、それがむしろ日本の学園ラブストーリー映画の独自性であり、その雰囲気をなくすべきではないと思います」

◆◆◆◆ 舞台挨拶⑤ ◆◆◆◆

◆ イベント名：**「カラカラ」舞台挨拶**
◆ 時間：6月16日（日）15:45～
◆ 会場：国泰電影院スクリーン２
◆ 総動員人数：187人

■ 登壇ゲスト：
監督：Claude Gagnon
主演：工藤夕貴

■ 作品情報：
監督・脚本：クロード・ガニオン
キャスト： ガブリエル・アルカン、
　　工藤夕貴、富田めぐみ
製作年：2012年
配給： ククルビジョン
上映時間：104分





あらすじ：
　文学教授の職を引退し、念願のアジアへやってきたピエール。気功のワークショップを終え、残り一週間を沖縄の島々を旅して過ごそうと考えていた彼は、那覇在住の主婦、純子に出会い、一日の観光ガイドをしてもらう。それきりの縁に思えたが、夫の暴力に苦しむ純子がピエールの旅に同行すると言い出して……。
　思いがけない展開に戸惑う初老のピエールと、久しぶりに味わう開放感に胸を躍らせる純子。性格も境遇もまったく異なるふたりの道中は、様々なカルチャーギャップと静かな内省を繰り返しながら、ゆったりと進んでいく。


Claude Gagnon監督と工藤夕貴舞台挨拶


ファンと記念撮影


会場様子

■ イベント内容：
チケットが完売となった6月16日の『カラカラ』。その上映前舞台あいさつに、クロード・ガニオン監督と主演の工藤夕貴氏が出席しました。監督は工藤夕貴氏の映画の理解力をたたえ、それ故、キャラクターを正確に掴んでいたと語りました。また工藤夕貴氏も、監督を信頼していると話しました。そしてこの作品が主人公の男女が沖縄への旅を通じて、自由を探すという物語だと説明しました。その後、監督は劇場の片隅でじっと映画を見て、観客の反応を観察していました。中国の観客はこの映画を理解したことを非常にたたえていました。

■ レビュー：
「観客も多く良かったです」

「最後の四分の一の部分が、ピエール１人が自由を満喫しているアップのカットが多く、静かに座って、農婦たちが手足を素早く動かして、芭蕉の葉を集めている様子を眺めている目はまるで子どものように純真でした。私はどうしてピエールが、もしくは監督が日本に興味を持ったのかその理由を知りたいです。１人の西洋人が、原始的で活力に満ちた長寿の国で新たな希望を見出す、体内に満ちていた酒をきれいに空にして、まるで空き瓶になったような気持ちで、揺れ動く、カラカラという音は無限の期待を表しているようです」

「いろんなものが入り混じった監督が、自分の人生観や世界観で切り取った沖縄の観光映画のようです」

「異国情緒あふれる観光映画で、人間国宝の心持ちとは本当に偉大です」

「平凡な中に真実がある。自分が持つ時の流れの感覚で、ゆっくりと穏やかな心を見出していました」

「まるで穏やかな風が頬を撫でていくような感覚の映画です」

「明美の祖母が語る言葉が感動的でした。」

「人は振り返ることは必要ない、前を向くことが必要です。生活は変わるもので、男も変わる、彼の旅はまだまだ続き、自分たちもまた同じ道の途中にあります。今を生きる力こそ最強！まるごと楽しむことが大切です」

「オリジナルサウンドがとてもいいです。エンディングの三味線の歌が本当に素敵でした。音楽的にもとてもいい作品です」

◆◆◆◆ 舞台挨拶⑥ ◆◆◆◆

◆ イベント名：**「リトル・マエストラ」舞台挨拶**
◆ 時間：6月16日（日）15:45～
◆ 会場：環芸電影城スクリーン２
◆ 総動員人数：229人

■ 登壇ゲスト：
監督：雑賀俊郎

■ 作品情報：
監督：雑賀俊郎
脚本：坂口理子
原作：いずみ♡組
キャスト：有村架純、釈由美子
製作年：2012年
配給：アルゴ・ピクチャーズ
上映時間：108分





あらすじ：
漁獲量も落ち過疎化が進む志賀町福浦は日本海に面した雪景色も美しい港町。ここには数十年続くアマチュアオーケストラがあった。その名も“福浦漁火オーケストラ”、メンバーはここで働く漁師たちや町の人々など30～70代が中心。得意な曲はエドワード・エルガーの「威風堂々」のみ。しかし老指揮者・吉川が急死し、求心力を失ったオケは解散の危機に。そこで急遽、孫娘の高校生・美咲が呼びよせられ、「天才少女指揮者リトル・マエストラ出現！」と町の人々は大喜びするが……


観客入場


雑賀俊郎監督舞台挨拶


会場様子

■ イベント内容：
6月16日、『リトル・マエストラ』の上映前舞台挨拶に、雑賀俊郎監督が出席しました。監督は、この作品のあらすじと、撮影時のエピソードといったことを紹介しました。そして、これは人気小説の映像化で、原作は主人公のラブストーリーに重点を置いていますが、監督の当初の考えは、年齢や国籍も関係ない音楽映画にしたいというもので、それ故、この映画は観客の年齢層はさらに広がっています、ということを話しました。

■ レビュー：
「映画週間の作品には、笑えるもの、泣けるもの、そして残念な過去を持つ可愛い子が出ているものが有りました。きめ細かくて、ちょっとテンポが遅いと思うようなところもそれでだけで、ストーリー展開は簡単でお約束通りでしたが、私にとってはお気に入りの作品でした」

「物語はありきたりですが、中高年のオーケストラ団員がとてもかわいらしく、特に何人かの短気なおじさんたちや、かわいい女の子、男の子がとてもよかったです」

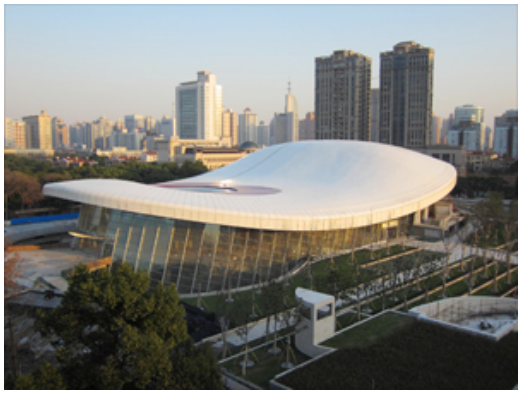
「音楽がいろんな面をカバーしていました」

「展開は普通ですが、結末がいいで、上映が終わると、劇場は拍手に包まれていました。エンディングの音楽は満点です」

「日本映画はよくこの悲喜劇を１つにした作品が見受けられます」

◆◆ レッドカーペット参加① ◆◆

◆ イベント名：第１６回上海国際映画祭レッドカーペット式典
◆ 時間：6月15日（土）18:30～20:00
◆ 会場：上海文化広場


上海文化広場 ▶

■ 日本映画週間ゲスト

映画「今日、恋をはじめます」　古泽健監督
　　森川真行／平野隆 プロデューサー
映画「あなたへ」　キャスト 余貴美子
映画「カラカラ」　Claude Gagnon監督、主演工藤夕貴
映画「映画 ひみつのアッコちゃん」　川村泰裕監督
映画「リトル・マエストラ」　雑賀俊郎監督
NPO法人 日中友好映画祭実行委員会　耿忠

■ その他の出席ゲスト

アメリカ監督Oliver Stone、Taylor Hackford；イギリス女優Helen Mirren、イタリア女優Maria Grazia Cucinotta；韓国女優金荷娜；中国著名監督：徐克、杜琪峰、贾樟柯；俳優：周润发、甄子丹、刘德华，周杰伦、黄晓明、徐峥；女優楊幂、秦怡；及びイギリス監督Tom Hooperをはじめとするコンペティション部門審査委員団等400以上の映画人がレッドカーペットを歩きました。

■ イベント内容：

　上海国際映画祭とは映画人のパーティーであり、映画ファン垂涎のイベントです。上海という国際的な大都市の文化的代名詞でもあり、どんなものでも受け入れ、自分のものに取り込む上海文化の縮図でもあります。中国の映画産業は発展を続け、現在では中国全域で既に1万3000スクリーンを擁し、年間総興行収入は170億元（約2550億円）でアメリカに次ぐ市場規模になっています。ここ20年で、上海国際映画祭はアジアで最も重要な映画祭となり、中国と海外の最も重要な映画人の交流の場となりました。

　これまでとくらべても、第16回上海国際映画祭は、出品作品数、フィルムマーケットへの参加数、投資作品数、そしてレッドカーペットやフォーラムへの参加ゲストの数、さらに映画祭に関する報道数も、記録を更新しています。アジア太平洋地域では最大規模かつ最も影響力を持つ映画祭です。









■ 上海テレビ局生中継



「あなたへ」余貴美子



「カラカラ」Claude Gagnon監督、工藤夕貴



「リトル・マエストラ」雑賀俊郎監督



「映画 ひみつのアッコちゃん」川村泰裕監督



日中友好映画祭実行委員会理事長　耿忠



「今日、恋をはじめます」古泽健監督
プロデューサー： 森川真行／平野隆

2013上海・日本映画週間

「日本映画の旅」展① ◆◆

第１６回上海国際映画祭　映画マーケット
2013日本映画週間「映画の旅」展
会場：上海展覧中心（上海延安中路1000号）
時間：2013年6月17日（月）～6月19日（水）
主催：NPO法人日中友好映画祭実行委員会

参加地域：
宮城県／茨城県／栃木県／兵庫県／富山県／石川県／広島県／長崎県／高知県／沖縄県
総動員人数：3576人（約90%は中国人，残りの10%は日本、韓国、タイ、インド、スペイン等）


上海展覧中心



上海展覧中心

上映する１２本作品のロケ地を紹介する「映画の旅」ブース展も、６月１７日～１９日の期間中に、「上海展覧中心」で行いました。各国の映画配給会社、製作会社のプロデューサーやバイヤー、そして観光業界の代表の方々など、毎日大勢来場され、熱心に映像や写真などの展示や説明を見聞きして、日本映画に表現された風景、人情を通して、地方の魅力を感じとっておられました。

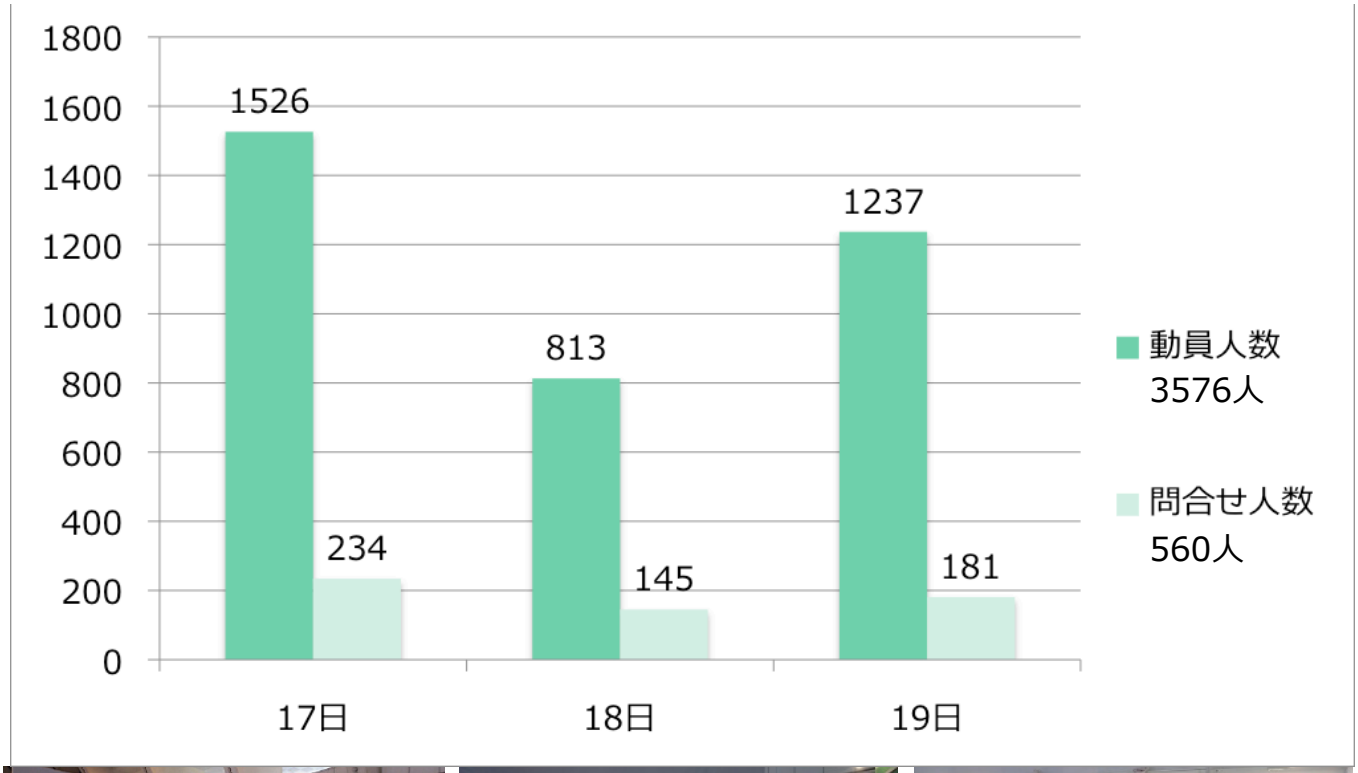





インタビュー

「映画の旅」動員数

	17日（月）	18日（火）	19日（水）
動員人数	1526人	813人	1237人
問合せ人数	約234人	約145人	約181人

















映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「東京家族」ロケ地：広島県



東京家族

監　　督：山田洋次
脚　　本：山田洋次 、平松恵美子
キャスト：橋爪功、吉行和子、西村雅彦、夏川結衣、
　　中嶋朋子、林家正蔵、妻夫木聡、蒼井優
配　　給：松竹
上映時間：146分
© 2012 "Tokyo Family" Film Partners

あらすじ

瀬戸内海の小さな島で生活している夫婦、平山周吉（橋爪功）ととみこ（吉行和子）。東京にやって来た彼らは、個人病院を開く長男・幸一（西村雅彦）、美容院を営む長女・滋子（中嶋朋子）、舞台美術の仕事に携わる次男・昌次（妻夫木聡）との再会を果たす。しかし、仕事を抱えて忙しい日々を送る彼らは両親の面倒を見られず、二人をホテルに宿泊させようとする。そんな状況に寂しさを覚えた周吉は、やめていた酒を飲んで騒動を起こしてしまう。一方のとみこは、何かと心配していた昌次の住まいを訪ね、そこで恋人の間宮紀子（蒼井優）を紹介される。





広島県 Hiroshima
「東京家族」ロケ地

２０１２年５月１６日から２１日まで６日間、スタッフ俳優約７０名が参加して撮影ロケが行われました。曇り空が続き瀬戸内海の海面がキラキラ光る様子を撮るために撮影が１日延びたとも聞いてます。

ロケ期間中は地元の商工会青年部、女性部員が中心となってスタッフや俳優さんへ「オコゼの味噌汁」等を振る舞い好評でした。又、地元の特産品を山田洋次監督に進呈しました。

「大崎上島」

「瀬戸内海は日本のふるさとの原風景のようなもので、見飽きない美しさがある」と山田洋次監督は、映画「東京家族」のふるさと広島県「大崎上島」について、このように例えられました。

ロケが行われた木江地区は古くからの港町で、今も造船業が基幹産業となっています。

「地域名産」

映画の中でも出てきたミカンの段々畑。大崎上島はミカンをはじめとした様々な品種の柑橘類が栽培されています。また、大崎上島はレモンの産地でもあります。








映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「あなたへ」ロケ地：長崎県



あなたへ

監　　督：降旗康男
脚　　本：青島武
キャスト：高倉健、田中裕子、佐藤浩市、草彅剛、
　　余貴美子、綾瀬はるか、三浦貴大
配　　給：東宝
上映時間：110分
© 2012 TOHO CO., LTD. / TV ASAHI CORPORATION / DENTSU INC. / Nikkei Inc. / GENTOSHA INC. / ASAHI BROADCASTING CORPORATION / NAGOYA BROADCASTING NETWORK CO., LTD. / TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd. / Yahoo Japan Corporation /NIPPON SHUPPAN HANBAI INC. / Kyushu Asahi Broadcasting Co., Ltd. / Hokkaido Television Broadcasting Co., Ltd. / Shizuoka Asahi Television Co., Ltd.

あらすじ

北陸のある刑務所の指導技官・倉島英二のもとに、ある日、亡き妻・洋子が残した２枚の絵手紙が届く。そこには、一羽のスズメの絵とともに"故郷の海を訪れ、散骨して欲しい"との想いが記されていた。そして、もう１枚は、洋子の故郷・長崎県平戸市の郵便局への"局留め郵便"だった。その受け取り期限まで、あと十日。　刑務所に歌手として慰問にきていた洋子とは穏やかで幸せな夫婦生活を営んでいた。長く連れ添った妻とはお互いを理解し合えていたと思っていたのだが、妻はなぜ生前その想いを伝えてくれなかったのか・・・。

妻の真意を知るため、彼女の故郷を訪れることを心に決める。妻の故郷を目指すなかで出会う人々。彼らと心を通わせ、彼らの家族や夫婦の悩みや想いに触れていくうちに蘇る、洋子との心温かくも何気ない日常の記憶の数々。様々な人生に触れ、さまざまな想いを胸に目的の地に辿り着いた英二は、遺言に従い散骨する。そのとき、彼に届いた妻の本当の想いとは―。





長崎県 Nagasaki
「あなたへ」ロケ地

映画のメインロケ地となった薄香湾漁港では荒れ狂う暴風雨のシーンを撮影するため、普段は静かな薄香湾漁港に散水車や数台の大型ハリケーン、大型照明機材が運び込まれて大掛かりな撮影が行われました。また、主演の高倉健さんら出演者をひと目見ようと、多くのギャラリーが集合。気さくな健さんは地元の方々に笑顔で挨拶をしたり握手に応じたりと、協力してくれた方々への感謝とコミニュケーションを忘れることはありませんでした。

「薄香湾」

長崎県ロケのメイン撮影地は、亡き妻・洋子の故郷として描かれた平戸市の薄香。日本の旧き良き町並みを残したこの地で、約10日間じっくりと撮影が行われました。どこか懐かしい風景が映画にはたくさん登場します。

「平戸ちゃんぽん」

平戸のちゃんぽんは野菜たっぷりで麺はちょっと太め、新鮮な海の幸がたっぷり入ってボリュームも満足度も文句なし！ロケ中、キャストとスタッフが通ったというのもうなずけるお味です。









Japan Film Week

映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「天地明察」ロケ地：兵庫県



天地明察

監　　督：滝田洋二郎
脚　　本：加藤正人、滝田洋二郎
原　　作：冲方丁
音　　楽：久石譲
出　　演：岡田准一、宮崎あおい
配　　給：松竹
上映時間：141分
© 2012 TENCHI: The Samurai Astronomer Film Partners

あらすじ

江戸時代前期。安井算哲（岡田准一）の生まれた安井家は将軍に囲碁を教える名家であるものの、算哲自身は出世欲のない不器用な男だった。星の観測と算術の問いを解くことが好きで、あまりにも熱中しすぎて周囲が見えなくなることもしばしばだった。算哲は形ばかりの勝負となった囲碁に次第に疑問を抱き、真剣勝負の場に身を置きたいとの願いを持つようになる。そんな算哲を、将軍・徳川家綱の後見人である会津藩主・保科正之（松本幸四郎）は暦の誤りを正す任に抜擢する。800年にもおよび使われてきた中国・唐の時代の暦がずれてきたため新しい暦を作るというこの計画には、星や太陽の観測をもとに膨大な計算を必要とし、さらには本来なら朝廷の司る改暦に幕府が口を出すという朝廷の聖域への介入という問題をはらんでいた。算哲は囲碁や友人、算哲を慕いやがて妻となったえん（宮崎あおい）や、彼のよき理解者であった水戸光圀（中井貴一）らに支えられながら、この難関に誠実に取り組んでいく……。





兵庫県 Hyogo
「天地明察」ロケ地

「天地明察」のロケ地は、撮影協力で参加していた松竹のスタッフが姫路城や圓教寺での撮影経験があったことや姫路城に堀・橋・門が同時に撮影できるロケーションがそろっていやことが、ロケ地として採用される決め手となりました。

姫路城での撮影シーンは、籠で登城している武士達で渋滞する江戸城内の職場に向かって、主人公の安井算哲（岡田准一）が走っているシーンが撮影されました。撮影では、炎天下のなか、エキストラ80人が時代衣装を着て撮影に参加するなど、体力的にも非常に過酷なロケとなりました。書写山圓教寺では、京の弥王寺という設定で碁を打つシーンや能舞台での舞のシーンが行われ、当初予定にない雨のなかのおかえで非常に幻想的なシーンとなりました。

「姫路城」

姫路城は、日本で初めて世界文化遺産に登録され、現存する城の中でも世界的に高い評価を受けています。現在は、５０年に一度の歴史的改修中で、主格である大天守は、素屋根で覆われていますが、素屋根内部に「姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」を設け、２０１４年１月１５日まで、姫路城大天守の外観を間近でご覧いただけます。









映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「テルマエ・ロマエ」ロケ地：栃木県



テルマエ・ロマエ

監　　督：武内英樹
脚　　本：武藤将吾
原　　作：ヤマザキマリ
キャスト：阿部寛、上戸彩、北村一輝、竹内力
　　宍戸開、笹野高史、市村正親
配　　給：東宝
上映時間：108分
© 2012 "THERMAE ROMAE" Film Partners

あらすじ

古代ローマの浴場設計技師ルシウス（阿部寛）は、生真面目すぎる性格から時代の変化についていけず、職を失ってしまう。落ち込んだ彼は友人に誘われて訪れた公衆浴場で、突然現代日本の銭湯にタイムスリップしてしまう。そこで出会ったのは、漫画家志望の真実（上戸彩）たち"平たい顔族"、つまり日本人だった。日本の風呂文化に衝撃を受けたルシウスは古代ローマに戻って、そのアイデアを使い大きな話題を呼ぶ。タイムスリップを繰り返すルシウスは、浴場技師としての名声をローマで得ていくのだが……。





栃木県 Tochigi
「テルマエ・ロマエ」ロケ地

映画「テルマエ・ロマエ」に登場した「北温泉」は江戸時代から続き、山の湯治場の雰囲気を残す温泉宿です。「北温泉」は、日光国立公園那須平成の森に属し、駒止の滝など四季の彩りが美しい景勝地となっています。

これ、全て温泉で満たされたプール、プール？露天風呂？これがなんと源泉かけ流しの温泉で満たされています！湯量が豊富だからこそできることです。とっても気持ち良いです。この「泳ぎ湯」水着着用可とのことです。

壁面に大きな天狗がかけられています。知らずに夜に入ると、かなり怖いかもしれません。こちらは、特に湯量が多く、ドドド～っとお湯が注がれ、湯船の縁から川のように湯が流れ出て行きます。

映画の中でヒロイン真実（まみ）の実家として多くのシーンに登場する北温泉。プールのような広い露天風呂、天狗の面が印象的な内湯、趣のあるロビー、歴史を感じさせる建物など、北温泉旅館でなくては表現できないシーンの撮影に全面的に協力しました。

また、金精大明神祭のシーンでは、地元エキストラ約50名が撮影に参加しました。深夜にまでおよぶ撮影で大変でしたが、ロケに参加したことは今でも良い思い出として地元の人たちの語りぐさとなっています。








映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「桐島、部活やめるってよ」ロケ地：高知県



桐島、部活やめるってよ

監　　督：吉田大八
脚　　本：喜安浩平、吉田大八
原　　作：朝井リョウ
キャスト：神木隆之介、橋本愛、大後寿々花
上映時間：103分
© 2012 "Kirishima" Film Club © Ryo Asai / SHUEISHA

あらすじ

いつもと変わらぬ金曜日の放課後、バレー部のキャプテンで成績優秀、誰もがスターとして一目置いていた桐島が突然部活を辞めたというニュースが学校内を駆け巡る。桐島の恋人でさえ彼と連絡が取れないまま、桐島と密接に関わっていた生徒たちはもちろんありとあらゆる生徒に波紋が広がっていく。人間関係が静かに変化し徐々に緊張感が高まっていく中、桐島とは一番遠い存在だった映画部の前田（神木隆之介）が動き出す……。





高知県 Kochi
「桐島、部活やめるってよ」ロケ地

この作品は、全編高知市内でロケを行いました。作品の設定が「日本のどこかの地方都市」であったため、地域色を出さないように撮影されました。一方で、澄みきった空の美しさや日差しなどの気候条件、校舎の屋上から見える都市と山などの自然が近い風景などが、作品に南国・高知県ならではの魅力を与えています。

映画のメインロケ地となった高知中央高等学校では、学校の全面協力の元、授業期間中にも関わらず、平日も含め学内のいたるところで撮影を行いました。主要な生徒を演じる俳優以外は、同高の生徒や地域住民がエキストラとして多数出演して作品を盛り上げました。

「馬路村特産品"ユズのドリンク"」

地方の特色を出さないようにした作品ですが、スタッフの遊び心で、普通に見ていては気付かないところに高知の名産品が登場します。前田（神木隆之介）たち映画部の部室には、高知県の名産品ユズのドリンクのペットボトルが転がっています。









映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「今日、恋をはじめます」ロケ地：宮崎県



今日、恋をはじめます

監　　督：古澤健
脚　　本：浅野妙子
原　　作：水波風南
キャスト：武井咲、松坂桃李
配　　給：TBS
上映時間：121分
© 2012 "Love for Beginners" Film Partners

あらすじ

日比野つばき（16）は地味でガリ勉で恋愛に縁のない女の子。そんなつばきが、高校生活最初の日に出会ったのは、秀才でイケメンだけど、ロン毛のチャラチャラした学校一のモテ男、椿京汰（16）。そんな京汰に"昭和女"とバカにされた上、いきなりファーストキスまで奪われてしまう！突然のキスにとまどい、反発しながらも、京汰の意外な一面を見て、次第に惹かれてゆくつばき…。初めてのデート、初めてのキス、初めてだらけの経験に悩み苦しみながらも、好きな人との瞬間を重ねることで、少しずつ変わっていく。果たしてつばきと京汰の恋の行方は…？





宮崎県 Miyazaki
「今日、恋をはじめます」ロケ地

映画「今日、恋をはじめます」のロケが8日までの3日間、都井岬など串間市内であり、初主演となる女優武井咲さんをはじめ、総勢52人のスタッフが滞在した。

串間ロケでは、ヒロインら男女4人が夏休みを利用して勉強合宿に来たという設定で、都井岬の丘陵を登ったり、長浜海岸で海を眺めたりするシーンを撮影した。

「マンゴー」

宮崎のマンゴーは「完熟」にこだわり、樹上で熟し自然に落果したものだけをネット袋でキャッチし収穫します。一度食べたら忘れられない、トロピカルで濃厚な甘みが多くのファンを魅了しています。

「完熟きんかん」

選ばれた果実のみを大切に育てた温室育ちのエリート達です。加工用に比べ大きくて甘く、「生」のままおいしく食べられます。皮ごと丸かじり！宮崎産完熟きんかんだからこそできる、きんかんの新しい食べ方です。









映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「おおかみこどもの雨と雪」ロケ地：富山県



おおかみこどもの雨と雪

監　　督：細田守
脚　　本：奥寺佐渡子、細田守
原　　作：細田守
キャスト：宮﨑あおい、大沢たかお
上映時間：110分
© 2012 "WOLF CHILDREN" FILM PARTNERS

● あらすじ

19歳の大学生花は、おおかみおとこと運命的な恋に落ちました。やがて雪と雨という二人の"おおかみこども"を授かりますが、そんな矢先、家族を襲った突然の父の死。まだ幼い"おおかみこども"を抱えた花は、人間かおおかみか、どちらでも選べるように、人里離れた田舎で二人を育てる決意を固めます。花とこどもたちの１３年にわたる物語。一家を取り巻く様々な出来事が、美しくも厳しい自然の中で綴られます。





富山県 Toyama
「おおかみ子供の雨と雪」ロケ地

主人公たちが暮らす家のモデルとなったのは実際に上市町の山奥に佇む古民家。築120年以上経っており、一般開放されている。多くのおおかみこどもファンが全国から訪れている映画の聖地で、映画のままの光景に興奮間違いなし。

観光と登山の拠点として賑わいを見せる室堂からすこし行ったところにある、みくりが池。水面面に山々の雄姿が映し出され、感動の絶景です。

富山湾漁場は注入した多くの大小の川、日本からアルプスの暗流があるため、栄養、酸素充実。そんな豊かな環境で成長した高品質の魚介類を使用して作った寿司は多くの観光客の絶賛を浴びた。

落差日本一の３５０ｍを誇る称名滝。そのダイナミックな姿は見るものを圧倒させる。マイナスイオンが溢れ、癒しのパワースポットとしても知られる。






映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「ヒミズ」ロケ地：茨城県



ヒミズ

監　　督：園子温
脚　　本：園子温
原　　作：古谷実
キャスト：染谷将太、二階堂ふみ
配　　給：GAGA
上映時間：129分
© 2011 "HIMIZU" FILM PARTNERS

あらすじ

15歳の少年・住田祐一は、実家の貸しボート屋に集まる、震災で家を失くした夜野、田村たちと平凡な日常を送っていた。住田のクラスメイトの茶沢景子は、大人びた雰囲気の住田が好きで猛アタックをかける。疎まれながらも彼との距離を縮めていく茶沢。ある日、借金を作り蒸発していた住田の父が帰って来た。金をせびりながら殴りつける父親の暴力に耐える住田。ほどなく母親も中年男と駆け落ちしてしまい、住田は天涯孤独となってしまう。





茨城県 Ibaraki
「ヒミズ」ロケ地

茨城県常総市を流れる小貝川は，関東平野を北から南へと流れる全長111.8㎞の一級河川です。
小貝川河川敷にメインロケ地の一つとなる，主人公が住む「貸しボート屋」セットを組んで撮影が行われました。1ヶ月続いた撮影期間に，多くの見物客が訪れました。
茨城県土浦市にある「ザ・モール５０５」は，全長５０５メートルを誇る日本最大級のショッピングモールです。店舗の種類も豊富なところです。映画の撮影で良く使われる場所です。
ここでは，主人公が街をさまようシーンや物思いにふけっているシーンなどの撮影が行われました。

「レンコン」

土浦の名産品は、日本一の生産量を誇る「レンコン」です。「レンコン」は、昔から不老長寿の食べ物として珍重され、栄養価が高く、食物繊維も豊富な健康野菜です。「レンコン」生産量日本一ならではの霞ケ浦の湖岸に広がる広大なハス田は圧巻です。夏の時期には、青々と茂るハスの葉の中に、白やピンクの可憐な花が咲き誇り、鮮やかなコントラストを生み出します。









映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「カラカラ」ロケ地：沖縄県



カラカラ

監　　督：クロード・ガニオン
脚　　本：クロード・ガニオン
キャスト：ガブリエル・アルカン、工藤夕貴、富田めぐみ
配　　給：ククルビジョン
上映時間：104分
© 2013 KARAKARA PARTNERS & ZUNO FILMS

あらすじ

文学教授の職を引退し、念願のアジアへやってきたピエール。気功のワークショップを終え、残り一週間を沖縄の島々を旅して過ごそうと考えていた彼は、那覇在住の主婦、純子に出会い、一日の観光ガイドをしてもらう。それきりの縁に思えたが、夫の暴力に苦しむ純子がピエールの旅に同行すると言い出して……。

思いがけない展開に戸惑う初老のピエールと、久しぶりに味わう開放感に胸を躍らせる純子。性格も境遇もまったく異なるふたりの道中は、様々なカルチャーギャップと静かな内省を繰り返しながら、ゆったりと進んでいく。





沖縄県 Okinawa
「カラカラ」ロケ地

「念頭平松公園」

今から500年ほど前、兄松と呼ばれる美しい松が植えられていたが、ある男がケガをしてしまった。

男は病死し、松のたたりといわれ、男の親類がお詫びとして新たな松を植えたという。。。そんな伝説を持つのがこの念頭平松だ。

雄大な姿の念頭平松。通常は、松の保護のため柵で制限されているが、映画では特別な許可を受け根元まで近づき撮影された。

「大宜味　喜如嘉の芭蕉布」

本編の撮影前、ガニオン監督は単身で数日間大宜味村に泊り込み、芭蕉布づくりの全作業を見学した。映画でも、村の女性たちによる糸芭蕉の刈り取り作業や芭蕉布の織り作業を取材しながら、その絶え間ない反復、柔軟な動き、自然と調和したリズムに引き込まれるピエールの姿が描かれる。糸芭蕉の栽培には、植え付けから成熟までに3年かかるといわれている。

映画には人間国宝の平良敏子さんが本人役で出演しており、９０代でも現役で芭蕉布を支える姿を生き生きと捉えている。









映画の旅

◆ 参加自治体パネル　「リトル・マエストラ」ロケ地：石川県



リトル・マエストラ

監　　督：雑賀俊郎
脚　　本：坂口理子
原　　作：いずみ♡組
キャスト：有村架純、釈由美子
配　　給：アルゴ・ピクチャーズ
上映時間：108分
© 2012 "Little Maestra" Film Partners

あらすじ

漁獲量も落ち過疎化が進む志賀町福浦は日本海に面した雪景色も美しい港町。ここには数十年続くアマチュアオーケストラがあった。その名も"福浦漁火オーケストラ"、メンバーはここで働く漁師たちや町の人々など30～70代が中心。得意な曲はエドワード・エルガーの「威風堂々」のみ。しかし老指揮者・吉川が急死し、求心力を失ったオケは解散の危機に。そこで急遽、孫娘の高校生・美咲が呼びよせられ、「天才少女指揮者リトル・マエストラ出現！」と町の人々は大喜びするが……





石川県 Ishikawa
「リトル・マエストラ」ロケ地

この映画は、８５％以上が志賀町で撮影され、多くの町民がエキストラで参加いたしました。真冬の厳しい寒さの中、行われたロケでは、機材の貸出しや炊き出しなど地元の皆さんが全面的に支援しました。
出演者やスタッフ、そして地元の皆さんが一体となって、撮影が繰り広げられ完成した映画は、私たちにとっては、映画製作に携わるという得難い経験をするとともに、人の絆を感じ、ふるさとを見つめ直す良いきっかけにもなりました。

「旧福浦灯台」

旧福浦灯台は、１８７６年に建造された日本最古の木造灯台です。現在は、灯台としての機能はしていませんが、その美しい姿は今も変わらず誇らしげに岸壁の上から目の前に広がる日本海をやさしく見守ります。旧福浦灯台は、映画「リトル・マエストラ」の舞台となりました。

「海鮮丼」

志賀町は、日本国内でも特徴的な甘エビかご漁をはじめ、漁業が盛んな町です。海鮮丼（西能登しか丼）は、志賀町産米コシヒカリの上に、地元採れた甘エビなど新鮮な海の幸をふんだんに使ったオリジナル丼です。










△「映画の旅」会場



上海展覧中心



△ 映画に関する問題

・今日本で取材に行く要望があるから、誰と連絡すればいいですか？
・今度このブースに出展した映画はどこで見れますか？
・チケットはどうやって買いますか？
・もし（北京，西安）で同じような日本映画週を催したら、
誰と連絡すればいいですか？どうやって進めますか？
・私たちが作った中国映画に対して興味がありますか？

△ 旅行に関する質問

・このブースは旅行会社のブースですか？
・今の季節に日本のどこは一番いいですか？
・もし温泉に行くなら、どこの一番いいですか？
・もし現在日本に行くつもりがあて、ビーザはどうやって申請しますか？
・今度このブースで出展した映画の中にお勧めの映画がありますか？
・今度このブースで出展した映画の著作権を売ってますか？
・あなた達の会社は何の会社ですか？

△ その他質問

・あなた達は日本人ですか？
・あなた達はボランティアですか？
・あなた達が着ているハッピは買えますか？無料でもらえますか？
・なぜ資料は全部日本語ですか？読めないですね！
（来場の客さんは資料の見た目で判断するのがすきだそう）

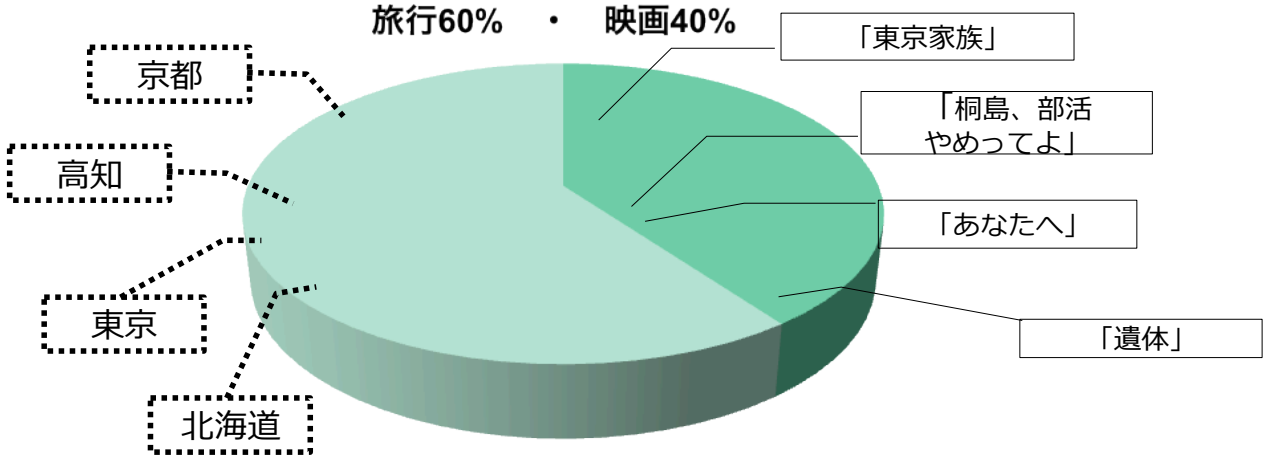
△ その他

・沖縄県から提供してくれた布が人気ありました。
・広島県から提供してくれた蜂蜜が人気ありました。
・JNTOから提供してくれた手提げ袋と広島県から提供してくれた蜂蜜はとても人気があります。100枚の手提げ袋は全部配りました。

◆ その他の配布資料



◆ 来場者よりの質問中、映画に関する問題と旅行に関する問題の比率



◆ 映画ロケ地に関心を持つメディア及び関係者

メディア	雑誌社	23名
	映画会社/スタジオ	49名
	ジャーナリスト	12名
	新聞社	17名
	テレビ放送局	14名
	映画審査委員会	12名
	作家協会	13名
その他	ベンチャー・ビジネス	16名
	各国政府機関	8名
合計		164名

2013上海・日本映画週間

◆◆◆出席メディア一覧表◆◆◆

1	CCTV映画チャンネル「世界映画の旅	テレビ局	39	時事通信社	通信社
2	CCTV微映画チャンネル	テレビ局	40	Sina 新浪ネット	サイト
3	CCTV英語チャンネル	テレビ局	41	Sohu 捜狐ネット	サイト
4	読売テレビ	テレビ局	42	凤凰ネット	サイト
5	上海テレビ局	テレビ局	43	人民ネット	サイト
6	上海外国語チャンネル「中日の橋」	テレビ局	44	CBS Interactive	サイト
7	東方衛視	テレビ局	45	中国企画ネット、中国ネット	サイト
8	東方映画チャンネル	テレビ局	46	Insight China 日文版	サイト
9	日本関西テレビ局	テレビ局	47	中国国家数字娯楽ネット	サイト
10	東方衛星テレビ局	テレビ局	48	好戏ネット	サイト
11	東森テレビ局	テレビ局	49	格瓦拉生活ネット	サイト
12	看電影	雑誌	50	東方ネット	サイト
13	視週刊	雑誌	51	東方IC	サイト
14	華語電影市場雑誌	雑誌	52	Yes娯楽	サイト
15	旅游天地	雑誌	53	Cool軽音楽	サイト
16	経済人物	雑誌	54	POP STAR	サイト
17	EASY雑誌	雑誌	55	PPTV	サイト
18	尚	雑誌	56	看看新聞ネット	サイト
19	第一美容	雑誌	57	CHANAVI	サイト
20	行楽月刊	雑誌	58	伝媒新観察	サイト
21	POP STAR 星娯楽	雑誌	59	魅力中国	サイト
22	Citybros「城市漫步」日本語版	フリーペーパー	60	瀟湘電影	サイト
23	Whenever上海	フリーペーパー	61	上海人	サイト
24	Concierge上海	フリーペーパー	62	美優网	サイト
25	読売新聞上海支局	新聞	63	香江文化	サイト
26	朝日新聞上海支局	新聞	64	漫步创媒	サイト
27	解放日報	新聞	65	SPW	サイト
28	新聞晚報	新聞	66	沪江ネット	サイト
29	東方早報	新聞	67	Jaslon	サイト
30	上海日報	新聞			
31	国際日報	新聞			
32	世界联合商報	新聞			
33	成都晚報	新聞			
34	三湘都市報	新聞			
35	中国新聞社	新聞			
36	外滩画報	新聞			
37	都市文化報	新聞			
38	旅行摄影報	新聞			

◆◆中国語メディア報道①◆◆

CCTV 「世界映画の旅」番組
第１６回上海国際映画祭　日本映画週間









上海東方映画チャンネル：日本映画週間



Sohu捜狐ネット：日本映画週間



Youku 優酷ネット：
2013上海・日本映画週間レセプションパーティー



新華ネット／解放日報

www.news.cn 新华网 NEWS
sh.xinhuanet.com 上海频道

ブロックしたプラグイン

首页 新闻中心 专题直播 上海政要 舆论监督 财经 证券 房产 产经
要闻 图片中心 新华视频 廉政动态 浦江评论 银行 基金 车尚 案件

您的位置：新华网上海频道 > 正文

选片人为何推荐这些影片

2013-06-10 10:16:27 来源：解放日报 作者：蔡剑平/董舒/王培雷/吴觉人

【Email推荐： 提交 】

此次《东京物语》在上海放映的版本将是今年2月柏林电影节上首映的该片最新修复版。虽然是60年前的作品，但《东京物语》对今天的中国观众来说不失现实意义。影片描写了当时日本社会的年轻人一窝蜂挤到东京，以夫妇和未婚子女组成的最小单位的家庭逐渐增多的进程，其中所涉及的诸如照顾老人的问题，60年后变得更加严峻，在此基础上，现代社会固有的一些问题也被自然收纳其中，如年轻人择业问题。其他如《晚春》《麦秋》《彼岸花》《秋刀鱼之味》等本次回顾展所选影片亦基本为小津电影生涯的后期成熟之作。

更特别的是，出现在今年电影节“日本电影周”的《东京家族》，这部2013年最新完成的作品是山田洋次向《东京物语》致敬之作。山田洋次本身为目前日本影坛堪称大师级的导演，大师向大师致敬，电影表现手法和趣味上的异同令人着迷。

观看提示：影迷观影时，可安排同一晚连看《东京物语》和《东京家族》，在大银幕上实现这种奇妙的呼应感，恐怕是一生一次的机会。

2013上海-日本电影周开幕式今天在

解放牛网 以闻会友 www.jfdaily.com

发布者：王君武 时间：2013-06-16 22:19:04 来源：解放牛网

【评论0 查看】 【我要评论】 【发起话题】

解放网记者王君武报道：上海国际电影节日本电影周活动开幕式今天下午在上海影城举行。日本国驻上海总领事馆总领事泉裕泰、上海文化广播影视集团副总裁任仲伦出席开幕式并致辞。



栗原小卷在开幕式上致辞 记者 王君武现场图片

日中文化交流协会副会长、日本著名表演艺术家栗原小卷专程来到上海影城参加电影周活动。她在致辞中表示，正因为有了电影，我才得以与中国友人亲切交流。电影，使两国相互加深理解，诚挚友情。

这次由日中友好电影节实行委员会精选了12部最新、最有特色、最受日本观众欢迎的电影参加2013上海•日本电影周。期待通过这些电影和交流活动，能够加强中日两国之间文化、经济、观光等产业的互动和对接，同时通过银幕向中国观众展示日本人的内心世界，生活方式，价值观等。特别值得关注的是山田洋次导演延续着《东京物语》（小津安二郎）传统魅力的《东京家族》等作品，饱含这日本电影传统中对“家族”与“爱”的独特组赋的表现力和超越时代的人性血脉。

人人ネット

人民网 日本频道 japan.people.com.cn

热门景点为何成为伤心地？

人民网中日文

頭動 | 政治 | 经济 | 社会 | 文娱 | 中日 | 旅游 | 科技 | 投资 | 评论 | 论坛 | 日企 | 对译 | 留学

现在位置：日本频道>>文化娱乐

更新时间：2013年06月17日10:48

上海国际电影节日本电影周开幕 12部影片呈现真实日本



上海电影节执行副主席、上影集团总裁任仲伦(左一)、中日文化交流协会副会长栗原小卷（左二）

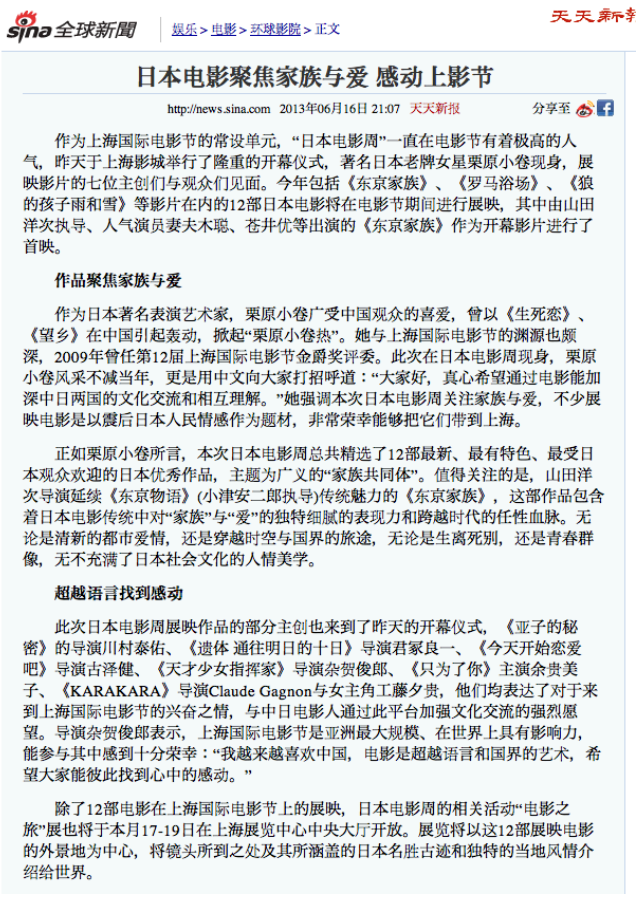
16日下午，第16届上海国际电影节“日本电影周”在上海影城开幕。上海电影节执行副主席、上影集团总裁任仲伦、中日文化交流协会副会长栗原小卷携12部展映片主创亮相启动仪式，并与观众一同欣赏了开幕影片《东京家族》。

今年是中日和平友好条约缔结35周年，“日本电影周”作为两国文化交流的平台显得格外有意义。任仲伦坦言，此次参展的12部影片风格迥异，将帮助中国观众了解日本人民的生活，促进中日两国艺术家的交流。“今天要特别感谢栗原小卷女士，她是上海电影节的老朋友，曾多次带她的影片参加日本电影周，希望中日电影人之间的交流越来越频繁。”

栗原小卷作为中日文化交流协会副会长，同样也是日本著名的表演艺术家，她主演的影片《生死恋》《望乡》曾在中国掀起“栗原小卷热”。她表示，这次参展的电影很多是以大地震后日本人情感为题材的作品，它们的主创都是目前日本电影业的中坚力量，此次参加日本电影周也肩负着日中两国文化交流的重任。

曾凭借《入殓师》和《亲爱的医生》被中国观众熟知的演员余贵美子也出现在开幕式现场，她这次带来的影片是与高仓健合作的《只为了你》。她觉得电影能够超越语言的国界，拉近两国观众的距离。对于男主角的缺席，余贵美子解释道，“主演高仓健先生有事没办法来到现场，他本人也觉得很遗憾，不过在得知影片能在上海国际电影节展映他觉得很荣幸和欣慰。”

Sina 新浪ネット／天天新報



sina 全球新闻 | 娱乐 > 电影 > 环球影院 > 正文　天天新报

日本电影聚焦家族与爱 感动上影节

http://news.sina.com　2013年06月16日 21:07　天天新报　分享至

作为上海国际电影节的常设单元，“日本电影周”一直在电影节有着极高的人气，昨天于上海影城举行了隆重的开幕仪式，著名日本老牌女星栗原小卷现身，展映影片的七位主创们与观众们见面。今年包括《东京家族》、《罗马浴场》、《狼的孩子雨和雪》等影片在内的12部日本电影将在电影节期间进行展映，其中由山田洋次执导、人气演员妻夫木聪、苍井优等出演的《东京家族》作为开幕影片进行了首映。

作品聚焦家族与爱

作为日本著名表演艺术家，栗原小卷广受中国观众的喜爱，曾以《生死恋》、《望乡》在中国引起轰动，掀起“栗原小卷热”。她与上海国际电影节的渊源也颇深，2009年曾任第12届上海国际电影节金爵奖评委。此次在日本电影周现身，栗原小卷风采不减当年，更是用中文向大家打招呼道：“大家好，真心希望通过电影能加深中日两国的文化交流和相互理解。”她强调本次日本电影周关注家族与爱，不少展映电影是以震后日本人民情感作为题材，非常荣幸能够把它们带到上海。

正如栗原小卷所言，本次日本电影周总共精选了12部最新、最有特色、最受日本观众欢迎的日本优秀作品，主题为广义的“家族共同体”。值得关注的是，山田洋次导演延续《东京物语》(小津安二郎执导)传统魅力的《东京家族》，这部作品包含着日本电影传统中对“家族”与“爱”的独特细腻的表现力和跨越时代的任性血脉。无论是清新的都市爱情，还是穿越时空与国界的旅途，无论是生离死别，还是青春群像，无不充满了日本社会文化的人情美学。

超越语言找到感动

此次日本电影周展映作品的部分主创也来到了昨天的开幕仪式，《亚子的秘密》的导演川村泰佑、《遗体 通往明日的十日》导演君冢良一、《今天开始恋爱吧》导演古泽健、《天才少女指挥家》导演杂贺俊郎、《只为了你》主演余贵美子、《KARAKARA》导演Claude Gagnon与女主角工藤夕贵，他们均表达了对于来到上海国际电影节的兴奋之情，与中日电影人通过此平台加强文化交流的强烈愿望。导演杂贺俊郎表示，上海国际电影节是亚洲最大规模、在世界上具有影响力，能参与其中感到十分荣幸：“我越来越喜欢中国，电影是超越语言和国界的艺术，希望大家能彼此找到心中的感动。”

除了12部电影在上海国际电影节上的展映，日本电影周的相关活动“电影之旅”展也将于本月17-19日在上海展览中心中央大厅开放。展览将以这12部展映电影的外景地为中心，将镜头所到之处及其所涵盖的日本名胜古迹和独特的当地风情介绍给世界。

雑誌 《EASY》



FSONGS

我的歌单

2013 上海日本电影周

今年是中日和平友好条约缔结 35 周年，这次将依旧通过中日间的文化交流活动，作为上海国际电影节活动中的一环——“2013 上海日本电影周”，预订在 6 月 15 日 -23 日期间举行。这次的日本电影周会上映十二部作品，都会向观众展示一个全方面的日本，并增进相互理解和信赖的关系。相信通过这次的交流活动，可以增进两国之间的商业和旅游的发展。

除此之外，6 月 16 日《天才少女指挥家》将在电影上映前举办观众见面会，并且在交流晚宴上，SNH48 将为大家带来助兴表演。

新華時報



新華時報 XINHUA TIMES

首页 | 要闻 | 中日 | 特集 | 专题 | 论坛 | 笔会

今天是 113-6-27，欢迎访问《新华时报》电子版!　网上看报

本品一品便足矣!　高科技

《新華時報》電子報

您当前位置：首页 >> 要闻 >> 中日关系 >> 阅读文章

日本电影周上海开幕

本文刊登于《新华时报》：第441期　作者：　发布时间：2013-06-20　查看次数：82

16日，第16届上海国际电影节“日本电影周”在上海影城开幕。活动期间，上海市内影院将展映12部日本电影。上海电影节执行副主席、上影集团总裁任仲伦、中日文化交流协会副会长栗原小卷携12部展映片主创亮相启动仪式，并与观众一同欣赏了开幕影片《东京家族》。

今年是《日中和平友好条约》签订35周年，“日本电影周”作为两国文化交流的平台显得格外有意义。任仲伦坦言，“此次参展的12部影片风格迥异，将帮助中国观众了解日本人民的生活，促进中日两国艺术家的交流。

曾凭借《入殓师》和《亲爱的医生》被中国观众熟知的演员余贵美子也出现在开幕式现场。她这次带来的影片是与高仓健合作的《只为了你》。她觉得电影能够超越语言的国界，拉近两国观众的距离。

以东日本大地震为主题、在岩手县釜石市拍摄的《遗体　面向明天的十天》及根据漫画改编的《罗马浴场》等电影将在活动期间展映。描写青春恋爱的电影《今天开始恋爱》的主创人员在舞台见面会上表示：“希望中国十几岁的年轻女孩及情侣前来观看，希望能成为日中友好的支柱。”

此次活动是上海国际电影节的一部分，日本外务省及经济产业省等政府部门都提供了支持。据悉，日本电影周将持续至6月23日，展映的12部电影分别为：《东京家族》、《只为了你》、《遗体通往明日的十天》、《天地明察》、《罗马浴场》、《KARAKARA》、《听说鲷鱼要退部》、《亚子的秘密电影版》、《庸才》、《今天开始恋爱吧》、《狼的孩子雨和雪》、《天才少女指挥家》。



●上海电影节执行副主席、上影集团总裁任仲伦(左一)、中日文化交流协会副会长栗原小卷(左二)

(编辑：李迎)

◆◆中国語メディア報道④◆◆

Sohu 捜狐ネット（日本映画週間のメディアパートナーとして、
期間中に全作品を詳しく紹介し、ネットで観客の反応をアンケートで調査した。）







搜狐娱乐讯（马瑞辉/文 远辉/视频）昨日，中日交流会在京举行，日本老牌影星栗原小卷携日本代表团拜访了北京外国语大学和中国文联。不管是和北外的学生交流，还是拜访文联，老牌影星栗原小卷言语中都感谢中国影迷的厚爱，并谈起了二十二年前和谢晋导演，携存折合作《清凉寺钟声》的情景。

1945年出生的栗原小卷今年已是68岁的老人。35年前，由她主演的影片《望乡》、《生死恋》等风靡中国，她更是被当时的中国影迷视为“梦中情人”。尽管年近70，但在众人面前的栗原小卷依然保持着一贯的优雅和美丽。

昨日上午的北外交流中，学生们首先播放了《望乡》、《生死恋》的片段，栗原小卷相视看着，看到影片中的表演场景时，她低头微笑：当男女主角为爱痴狂时，栗原小卷也流露出悲伤的表情。演讲时，栗原小卷谈述了过去和电影的好时光，并感谢中国影迷的厚爱。谈起现在的生活，栗原小卷说，如今她从事舞台剧，不久前还去美国巡演，同时也担当服装设计师的工作。2003年以来，栗原小卷告别银幕。当有学生请求她重返银幕时，栗原小卷抱歉表示，“我想我以后都不会拍电影了。”



Sohu 搜狐ネット
（日本映画週間に合わせて、期間中にオンラインで26本の日本映画を特別上映した）



凤凰ネット



汤晓丹作品回顾展 点击查看更多	《南征北战》 《渡江侦察记》 《红日》
“聚焦德国”单元 点击查看更多	《两条命》 《老爸来做客》 《遗忘》 《啊，男孩！》
“日本电影周” 点击查看更多	《东京家族》 《狼的孩子雨和雪》 《罗马浴场》 《庸才》
加拿大影展 点击查看更多	《战地巫师》 《求主垂怜》 《匿名者的来信》 《毕业照相日》
泰国电影单元 点击查看更多	《爱-触摸-心》 《幽长周末》 《鬼三惊》
MIDA纪录片单元 点击查看更多	《重建世贸中心》 《摩天楼上的午餐》 《洞穴求生》 《上海老爵士》
小津安二郎影片展 点击查看更多	《晚春》 《东京物语》 《麦秋》 《早春》

凤凰网 娱乐 ent.ifeng.com 凤凰网娱乐 > 电影 > 相关资料 > 正文

第16届上海国际电影节“日本电影周”片单

2013年06月09日 11:18
来源：凤凰网娱乐

0人参与 0条评论 分享到： 更多



《孩子狼的雨和雪》

凤凰网 娱乐 ent.ifeng.com 凤凰网娱乐 > 滚动新闻 > 正文

【记者即时播报】2013上海？日本电影周开幕式今天在影城举行(图)

2013年06月16日 22:19
来源：解放牛网

0人参与 0条评论 分享到： 更多

解放网记者王君武报道：上海国际电影节日本电影周活动开幕式今天下午在上海影城举行。日本国驻上海总领事馆总领事泉裕泰、上海文化广播影视集团副总裁任仲伦出席开幕式并致辞。



栗原小卷在开幕式上致辞 记者 王君武现场图片

日中文化交流协会副会长、日本著名表演艺术家栗原小卷专程来到上海影城参加电影周活动。她在致辞中表示，正因为有了电影，我才得以与中国友人亲切交流。电影，使两国相互加深理解，诚结友情。

这次由日中友好电影节实行委员会精选了12部最新、最有特色、最受日本观众欢迎的电影参加2013上海•日本电影周，期待通过这些电影和交流活动，能够加强中日两国之间文化、经济、观光等产业的互动和对接，同时通过银幕向中国观众展示日本人的内心世界，生活方式，价值观等。特别值得关注的是山田洋次导演延续着《东京物语》（小津安二郎）传统魅力的《东京家族》等作品，饱含这日本电影传统中对“家族”与“爱”的独特细腻的表现力和超越时代的人性血脉。

网易ネット

網易女人 网易首页 > 女人频道 > 最新资讯 > 正文

第十六届上海国际电影节·观影指南

2013-06-08 08:31:00 来源: 东方网 有0人参与 分享到

【日本电影周】

东京家族

《东京家族》这部电影有着多重意义：它是日本国宝级导演山田洋次导演生涯五十周年纪念作品，上映之年又是世界级电影大师小津安二郎逝世五十周年，而这部作品本身就是向小津1953年的传世经典《东京物语》的致敬之作。讲述了一对老夫妻去东京看望子女时发生的一系列事情，平淡无奇的生活琐事在导演手中化腐朽为神奇，催人泪下。本次上海电影节将同时上映《东京家族》与《东京物语》，让观众在影院中体验六十年轮回的感动。

放映场次6月16日13:30上海影城

6月21日20:45大光明电影院

6月22日15:45新衡山电影院

網易数码 网易首页 > 数码频道 > 家电首页 > 正文

60年后的变动 《东京家族》观后感

2013-06-23 06:30:00 来源: pchome电脑之家(上海) 有0人参与 分享到

6月份开始值得一看的电影非常多，各种大片扎堆的出。不过国内由于正好赶入了国产电影保护月，一堆电影只能迎来延期的命运。虽然还有《超人：钢铁之躯》脱颖而出，整体来说这段时间能看的新片电影几乎是没有，其中还充斥着一些高调宣传，但烂到家的国产大片，相信这对于喜欢电影的人来说无疑是折磨。

恰好在6月份在上海有每年一届的上海国际电影节，这时候会有很多来自国外的影片来到，小编还是感觉非常的庆幸。这下又能去电影院看个痛快。

在电音的选择中小编特意选择喜好的日本电影那个，原本计划是阿部宽的《罗马浴场》、冈田准一的《天地明察》、改变50年代的《东京家族》以及动画片《狼孩子的雨和雪》最终结果顺利看完的只有最后两部电影，未能完成计划还是些许有些遗憾。



中文導報

中文導報 CHUBUN

Across·No.1 TRAVEL 安可你是中国 アクロス中国 海外特价机票 欢迎中文来电咨

首页 专题 专栏 视点 华人新闻 中国新闻 日本新闻 财经新闻 旅游 生活 信息发

当前位置： 首页 > 华人新闻

2013上海·日本电影周展现人情美学

2013年06月11日 16:25 稿件来源：中文导报



展现日本人的世界观与人情美学

2013上海·日本电影周开幕在即

中文导报讯(记者 杨文凯)作为中日和平友好条约缔结35周年纪念活动，在中日两国政府支持下，由日中友好电影节实行委员会主办的"2013中日友好电影节"("上海・日本电影周"；"日本・中国电影周")仍将一如既往地如期举办。

据《中文导报》了解，由上海国际电影节实行委员会、NPO法人中日友好电影节实行委员会、上海电影集团主办的"2013上海·日本电影周"，将在第16届上海国际电影节期间隆重揭幕。主办方将于6月16日举办开幕式，并上映开幕电影《东京家族》，当晚举办大型欢迎晚宴，中国大型女子偶像团体SNH48将奉献特别表演。在为期一周的电影周期间，日本著名演员栗原小巻担任特别嘉宾，导演君塚良一、吉泽健、Claude Gagnon、川村泰裕、奈贺俊郎，演员工藤夕贵、余贵美子等，将作为嘉宾登台，出席各场放映宣传活动和观众见面会，与中国观众做面对面的交流。

在今年上海国际电影节"日本电影周"中，中日友好电影节实行委员会精选了12部最新、最有特色、最受日本观众欢迎的日本电影，奉献给中国观众。今年的12部展映电影包括：《东京家族》、《亚子的秘密》、《狼的孩子雨和雪》、《karakara》、《天地明察》、《遗体~面向明天的十天》、《今天开始恋爱吧》、《听说桐岛要退部》、《庸才》、《罗马浴场》、《只为了你》、《天才少女指挥家》。

国家动漫游戏产业振兴基地 | 中国国际动漫游戏博览会 | 国家数字娱乐网 | 历届基地大赛活动 | 华夏小

热点关注 | 专题活动 | 佳作欣赏 | 漫客之家

热点聚焦 | 专题活动 | 视频集锦 | 业界新闻 | 佳作欣赏 | 观点评论 | 海外参考 | 实用信息

您的位置：国家数字娱乐网 >> 最新资讯 >> 热点聚焦 >> 查看资讯

上一篇 | 下一篇

《狼的孩子雨和雪》将亮相上海电影节日本电影周

发布: 2013-5-23 11:14 | 作者: 官方 | 来源: 国家数字娱乐网 |

上海电影节日本电影周活动近日透露了展映影片目录，荣获第34届横滨电影节评委会特别奖和第36届日本电影学院奖最佳动画电影奖的《狼的孩子雨和雪》即将在大银幕上与广大中国观众见面。

2013年是中日和平友好条约缔结35周年。以和平的手段解决两国纷争是和平友好条约的核心精神，尽管中日关系仍然存在严重的领土纷争，和平应该说是两国共同的核心利益所在。而文化交流活动则是缓解冲突与维护和平的引擎。2013年，在中日两国政府和各大影视公司的支持下，日中友好电影节实行委员会主办的"中日友好电影节"（6月"上海・日本电影周"；10月"东京・中国电影周"）仍将一如既往地如期举办。

通过「中日友好电影节」积极推动两国国民特别是青少年之间的相互理解，加深彼此绵延不断的感情纽带，为两国之间能够建立起真正的互信互惠关系而尽微薄之力，这是电影节始终不渝的宗旨。2013年，期待电影的力量能成为中日关系中一个必不可少的良性循环的"加油站"。

中国国家数字娯楽ネット



国家数字娱乐网 | 热点聚焦 | 专题活动 | 视频集锦 | 业界新闻 | 佳作欣赏 | 观点评论 | 海外参考 | 实用信息

您的位置：国家数字娱乐网 >> 最新资讯 >> 热点聚焦 >> 查看资讯

上一篇 | 下一篇

上海电影节日本电影周开幕：栗原小卷致辞，《东京家族》催泪

发布: 2013-6-17 11:14 | 作者: 行云9号 | 来源: 本站原创 |

2013上海电影节日本电影周开幕式于6月16日下午1点30分在上海影城一厅举行，日本国驻上海总领事馆总领事泉裕泰、上海文化广播影视集团副总裁任仲伦出席开幕式并致辞。日中文化交流协会副会长、日本著名表演艺术家栗原小卷也专程来到上海影城参加电影周活动，她在致辞中表示，正因为有了电影，我才得以与中国友人亲切交流，电影使两国相互加深理解，诚结友情。出席活动的还有工藤夕贵、余贵美子等日本演员，每年保留节目——童声演唱为观众带来了日本动漫影片《狼的孩子雨和雪》主题曲。当天晚上，在扬子江大酒店举行了日本电影周开幕晚宴，日本大型女子偶像组合AKB48的中国大陆区姐妹团SNH48演出助兴。

这次电影周的开幕影片是山田洋次向小津安二郎经典家庭伦理片《东京物语》致敬的《东京家族》，影片的核心与老版无异，都是通过年迈的父母从乡下来东京与子女团聚的故事展现一个家庭关系的崩溃与维系。新版将时代背景改为当下，对人物略做调整，较原作多了份轻快和煽情，虽无法超越经典，也拍出了导演的个人风格，引爆了观众的泪腺，不失为一部值得一看的翻拍作品。与去年《三丁目的夕阳》类似，这类治愈系的生活剧通过一个个小家庭生活片段反映社会大的变革，因为有相似的生活背景和文化，中国观众对其中的人物自然是共鸣有加。

值得一提的是，在开幕影片放映前，某位观众由于对放映时间被见面会典延而大声抱怨，造成现场短时混乱。不过这小股杂音立刻被全场更多观众对日本友人的声援所压倒。在一些中国观众观影素质需要提高的同时，主办方也应将组织工作做得更细致一点。事先做好情况说明（如电影放映前有仪式见面会之类的话尽量在电影票上注明仪式的时间和具体电影放映时间），毕竟电影节期间很多观众观影是一场接一场的，信息更透明的话会避免不必要的麻烦。

作为每年的中日电影文化交流活动，日本电影周一年比一年火爆，展映影片一票难求。在目前的特殊政治条件下，活动无疑也为中日友好关系逆境重生做出了自己的贡献。(行云9号/白白 摄影报道)

国家広電総局DMCC



DMCC 国家广电总局 电影数字节目管理中心 Administration Center of Digital Film Content ,SARFT

关于我们 | 联系我们

首页 | 中心简介 | 新闻中心 | 备版专区 | 发行专区 | 民族语专区 | 儿童片专区 | 行业动态 | 业务频道 | 技术前沿 | 电影专题 | 视频天地

最新关注 | 中心公告 | 领导讲话 | 业界新闻 | 院线新闻 | 市场动态

您所在的位置：首页 > 新闻中心 > 业界新闻 > 电影新闻

中心公告 更多>>

- 《乐乐熊奇幻追踪》影片密钥下载...
- 《开心超人》影片密钥下载通告
- 关于发布《电影送审数字母版画面...
- 流动数字电影放映平台第26周动...
- 流动数字电影放映平台第25周动...
- 卫星传输影片通知单（2013年...
- 流动数字电影放映平台第24周动...
- 流动数字电影放映平台第23周动...
- 卫星传输影片通知单（2013年...

业界新闻 更多>>

《画板女人》开机爆定妆照

- 《不二神探》沃动
- "民族电影展映周"开幕
- 影院超高排片迎接《小时代》业内...
- 专访庞洪：《画皮3》投资2亿 ...
- 郭敬明：《小时代》大野心 不会...
- 电影票房继续高歌猛进，今年内地...
- 2013年内地票房已破100亿...

市场动态 更多>>

- 2013年5月流动数字电影市场...
- 2013年4月流动数字电影市场...
- 全国地区市场点评：江苏票登冠军...

上海国际电影节日本电影周开幕 12部影片呈现真实日本

文章来源:人民网　　发布时间:2013-06-17 18:47:44

16日下午，第16届上海国际电影节"日本电影周"在上海影城开幕，上海电影节执行副主席、上影集团总裁任仲伦、中日文化交流协会副会长栗原小卷携12部展映片主创亮相启动仪式，并与观众一同欣赏了开幕影片《东京家族》。

今年是中日和平友好条约缔结35周年，"日本电影周"作为两国文化交流的平台显得格外有意义。任仲伦坦言，此次参展的12部影片风格迥异，将帮助中国观众了解日本人民的生活，促进中日两国艺术家的交流。"今天要特别感谢栗原小卷女士，她是上海电影节的老朋友，曾多次带她的影片参加日本电影周，希望中日电影人之间的交流越来越频繁。"

栗原小卷作为中日文化交流协会副会长，同样也是日本著名的表演艺术家，她主演的影片《生死恋》《望乡》曾在中国掀起"栗原小卷热"。她表示，这次参展的电影很多是以大地震后日本人情感为题材的作品，它们的主创都是目前日本电影业的中坚力量，此次参加日本电影周也肩负着日中两国文化交流的重任。

曾凭借《入殓师》和《亲爱的医生》被中国观众熟知的演员余贵美子也出现在开幕式现场，她这次带来的影片是与高仓健合作的《只为了你》。她觉得电影能够超越语言的国界，拉近两国观众的距离，对于男主角的缺席，余贵美子解释道，"主演高仓健先生有事没办法来到现场，他本人也觉得很遗憾，不过在得知影片能在上海国际电影节展映他觉得很荣幸和欣慰。"

此外，出席开幕式的还有《遗体 送住明日的十天》导演君塚良一、《亚子的秘密》导演川村泰祐、《今天开始恋爱吧》导演吉泽健、《KARAKARA》导演Claude Gagnon、主演工藤夕贵、《天才少女指挥家》导演杂贺俊郎。

开幕式结束之后，嘉宾与中国观众一起观看了开幕影片《东京家族》。

《东京家族》是日本著名导演山田洋次2013年的最新力作，主要讲述了为见到自己成长的儿女，住在濑户内海小岛上的夫妇来到东京探亲的故事。作为一部旧戏重拍的影片，它被重新注入了时代元素，如手提电话、东京新地貌、"三一一"海啸、国家前景黯淡、新生代不再斗志昂扬等。然而，那些只是枝叶，骨干是从家族成员，透视亲情之厚薄、亲人相处之难易、人性之复杂而多面、城乡人情之差异，以及老人之寂寞、儿女之难于依偎，暮年丧偶之凄凉等。整部戏弥漫着浓郁的日本风味。

据悉，日本电影周将持续至6月23日，展映的12部电影分别为：《东京家族》、《只为了你》、《遗体 送住明日的十天》、《天地明察》、《罗马浴场》、《KARAKARA》、《听说鹤岛要退部》、《亚子的秘密电影版》、《庸才》、《今天开始恋爱吧》、《狼的孩子雨和雪》、《天才少女指挥家》。

好戏ネット

好戏网
创造・汇聚・分享・大家的文艺生活指南

首页 歌剧 芭蕾 舞蹈 话剧 戏曲 音乐 电影 沙龙 展览 北京 台北 上海 香港

首页

2013上海·日本电影周



2013年是中日和平友好条约缔结35周年。在中日两国政府和各大影视公司的支持下，日中友好电影节实行委员会主办的"中日友好电影节"（6月"上海·日本电影周"；10月"东京·中国电影周"）仍将一如既往地如期举办。6月15日，2013上海·日本电影周于上海影城开幕，开幕影片为山田洋次的《东京家族》。电影周期间，共有12部影片陆续和观众见面。此外，《遗体》导演君塚良一、《KARAKARA》导演Claude Gagnon及主演工藤夕贵、《今天开始恋爱吧》导演古泽健、《只为了你》主演余贵美子、《亚子的秘密》导演川村泰祐、《天才少女指挥家》导演杂贺俊郎以及演员栗原小卷等嘉宾届时会出席相关活动。电影周持续到6月23日。

通过「中日友好电影节」积极推动两国国民特别是青少年之间的相互理解，加深彼此绵延不断的感情纽带，为两国之间能够建立起真正的互信互惠关系而尽微薄之力，这是日中友好电影节始终不渝的宗旨。2013年，期待电影的力量能成为中日关系中一个必不可少的良性循环的"加油站"。

►电影放映及活动安排

出席嘉宾

6月15日，2013上海·日本电影周于上海影城开幕，开幕影片为山田洋次的《东京家族》。电影周期间，共有12部影片陆续和观众见面。此外，《遗体》导演君塚良一、《KARAKARA》导演Claude Gagnon及主演工藤夕贵、《今天开始恋爱吧》导演古泽健、《只为了你》主演余贵美子、《亚子的秘密》导演川村泰祐、《天才少女指挥家》导演杂贺俊郎以及演员栗原小卷等嘉宾届时会出席相关活动。电影周持续到6月23日。



开幕式



现场观众

好戏网
创造・汇聚・分享・大家的文艺生活指南

首页 歌剧 芭蕾 舞蹈 话剧 戏曲 音乐 电影 沙龙 展览 北京 深圳 专题 免费

首页

拉片室：《听说桐岛要退部》-虚设的精神靶场



日本校园类型片一直以暴力、唯美、热血膨胀的方式传达青春当中的残酷与隐匿。典型案例如深作欣二的《大逃杀》，岩井俊二的《关于莉莉周的一切》，或是近几年大受好评的《告白》，很难摆脱掉的一个影像要素便是杀戮，似乎离开了死亡，青春便等于空谈。日本美学传统里的"死亡崇拜"，在此类型的影片当中，更多的成为一种极端的抵抗、恐惧以及对成人世界的映射。面这部2012年上映的《听说桐岛要退部》营造了一种不同寻常的气氛，它琐碎日常、波澜不惊，隐隐发酵出一幅"寻找桐岛"的校园全景，这里的"桐岛"便如同希区柯克叙事手段中的"MacGuffin"（麦克格芬），暗示存在某种虚拟的威胁状态和恐惧阴影。

♦点击图片可查看大图



吉田大八导演

希区柯克是讲故事的高手，偏爱用惊悚刺激观众，而吉田大八想做到的是让你自己吓自己一跳，海报当中由神木隆之介扮演的前田，当他拿起古老的8MM胶片摄影机对准你时，你很难不去面对这样一种事实：突然意识到自己的平庸可笑，或是青春里盛大的妄自菲薄和理想主义。就像站在摄影机面前的宏树，被前田夸奖说"好帅"的时候，却羞愧难抬的哭泣起来，他突然发现自己竟然没为自己的理想努力过争取过，他所掉下的眼泪，破解了桐岛之谜，我们大部分的追逐都是无用的，我们为自己树立的偶像不堪一击，害怕失去桐岛就像害怕自我平凡。



【多视角叙事与人物设置】

吉田大八与本片的编剧朝井龙同为早稻田大学毕业，《听说桐岛要退部》改编自朝井龙19岁完成的处女作，此片荣获2012年日本电影每报十佳影片第二名，以及第36届日本电影学院奖最佳影片、最佳导演、最佳剪辑三项重量大奖。它无疑是一匹始料未及的黑马，青春年华时代一直被大时代所忽视，但吉田的方式是否能的

沪江ネット



2013上海·日本电影周于6月16日下午在上海影城举行开幕式。本次参展影片的数位导演、演员作为嘉宾出席了开幕式。

出席嘉宾：栗原小卷/ 君塚良一导演/杂贺俊郎导演/古泽健导演/Claude Gagnon导演/川村泰裕导演/余贵美子/工藤夕贵

2013日本电影周主题

本次日本电影周的主题是广义的"家族共同体"。无论是清新的都市爱情，还是穿越时空与国界的"旅途"，无论是生离死别，还是青春群像，其中无不充满了日本社会文化中"命运共同体"的世界观与人情美学。

在今年的"上海国际电影节-日本电影周"中，精选了12部最新、最有特色、最受日本观众欢迎的日本电影，特别值得关注的，是山田洋次导演延续着《东京物语》（小津安二郎）传统魅力的《东京家族》等作品，饱含着日本电影传统中对"家族"与"爱"的独特细腻的表现力和超越时代的人性血脉。想要观看本次电影周参展电影的沪友们请查看2013日本电影周排片表及购票信息>>

东方ネット／東方新娯楽



日本电影周

2013年6月7日 21:48
来源:东方网 选稿:余燕

东京家族

导演:山田洋次
编剧:山田洋次/平松惠美子
主演:桥爪功/吉行和子/妻夫木聪/蒼井优/中岛朋子/市原悦子/西村雅彦/夏川结衣
类型:剧情
制片国家/地区:日本
语言:日语
上映日期:2013-01-19(日本)
片长:146分钟
又名:Tokyo Family



剧情简介

《东京家族》一片主要讲述了为见到自己成长的儿女，住在濑户内海小岛上的夫妇来到东京探亲的故事。虽然在一开始，老人受到了孩子们的热情迎接，但由于生活节奏上存在着差异，由此出现了一些分歧。母亲最担心的就是二儿子昌次的生活。来到昌次的公寓，通过介绍认识了其结婚对象纪子后，两老才稍感放心。不过正当此时，没想到的是大儿子幸一却面临破产的窘境。整个故事细致的描绘了家族之间感情的羁绊与丧失，老人同孩子的共处，人的年华老去和死亡等一系列问题。

◆◆日本語メディア報道①◆◆

人民ネット　日本語版



人民網 日本語版
People's Daily Online

有人宇宙船「神舟1
宇宙開発の新たな一歩

ホーム | 最新 | 経済 | 社会・生活 | 政治 | 科学 | 中日 | カルチャー | 評論 | 写真 | 動画 |

文字 ●●

現在位置: 人民網日本語版>>カルチャー

人民網日本株式会社事業案内　更新時間：15：28 Jun 18 201

上海・日本映画週間が開幕　映画12本上映

第16回上海国際映画祭「日本映画週間」が16日午後、上海で開幕した。上海映画祭実行委員会の任仲倫・副主席（上海電影集団総裁）、日中文化交流協会副会長で女優の栗原小巻さんが日本映画12本の監督・出演者らと共に開幕式に出席、観客と共にオープニング上映作品「東京家族」を鑑賞した。「東方網」が伝えた。

中日平和友好条約締結35周年を迎えた今年、「日本映画週間」は両国文化交流のプラットフォームとして特に意味を持つ。任仲倫氏は「今年出品された映画12本のスタイルはそれぞれ全く異なり、中国の観衆が日本の人々の生活を理解するのに役立つことだろう」として、「本日は、特に栗原小巻さんに感謝を述べたい。栗原さんは上海映画祭の古くからの友人であり、以前から何度も主演映画を日本映画週間に出品している。中日映画人同士の交流がますます頻繁になることを願っている」と語った。

日中文化交流協会副会長の肩書きを持つ栗原さんは日本の著名な女優で、中国でもかつて主演映画「愛と死」や「サンダカン八番娼館　望郷」などで「栗原小巻ブーム」を巻き起こした。栗原さんは「今回出品された映画の多くが東日本大震災が発生した後の日本人の内面を題材にした作品であり、これらの作品の製作チームは現在の日本映画界の中堅を担っている。今回の日本映画週間への参加は日中両国の文化交流という重責も担っている」と語った。



人民中国
www.peoplechina.com.cn

「笹川杯作文コンクール2013―感知日本」

中国語 | 日本語

現在位置：ニュース>文化

上海・日本映画週間が開幕　映画12本上映

第16回上海国際映画祭「日本映画週間」が16日午後、上海で開幕した。上海映画祭実行委員会の任仲倫・副主席（上海電影集団総裁）、日中文化交流協会副会長で女優の栗原小巻さんが日本映画12本の監督・出演者らと共に開幕式に出席、観客と共にオープニング上映作品「東京家族」を鑑賞した。「東方網」が伝えた。

中日平和友好条約締結35周年を迎えた今年、「日本映画週間」は両国文化交流のプラットフォームとして特に意味を持つ。任仲倫氏は「今年出品された映画12本のスタイルはそれぞれ全く異なり、中国の観衆が日本の人々の生活を理解するのに役立つことだろう」として、「本日は、特に栗原小巻さんに感謝を述べたい。栗原さんは上海映画祭の古くからの友人であり、以前から何度も主演映画を日本映画週間に出品している。中日映画人同士の交流がますます頻繁になることを願っている」と語った。

日中文化交流協会副会長の肩書きを持つ栗原さんは日本の著名な女優で、中国でもかつて主演映画「愛と死」や「サンダカン八番娼館　望郷」などで「栗原小巻ブーム」を巻き起こした。栗原さんは「今回出品された映画の多くが東日本大震災が発生した後の日本人の内面を題材にした作品であり、これらの作品の製作チームは現在の日本映画界の中堅を担っている。今回の日本映画週間への参加は日中両国の文化交流という重責も担っている」と語った。

「おくりびと」や「ディア・ドクター」などの映画で中国の観衆にもよく知られている女優・余貴美子さんも開幕式に出席した。今回は俳優の高倉健さんと共演した映画「あなたへ」が映画祭に出品されている。余さんは「映画は言葉の違いによる国境の壁を超えることができ、両国間の観衆の距離を縮めさせる」と語った。また、主演俳優がこの場にいないことについて、「主演の高倉健さんは用事があり会場に来ることができず、本人も非常に残念がっていました。しかし、この映画が上海国際映画祭で上映されることを知って、非常に光栄で嬉しく思っていると語っていました」と代弁した。

このほか、「遺体　明日への十日間」の君塚良一監督や「映画　ひみつのアッコちゃん」の川村泰祐監督、「今日、恋をはじめます」の古澤健監督、「カラカラ」のクロード・ガニオン監督、主演の工藤夕貴、「リトル・マエストラ」の雑賀俊朗監督が開幕式に出席した。

日本映画週間は16日から23日まで開催され、「東京家族」、「あなたへ」、「遺体　明日への十日間」、「天地明察」、「テルマエ・ロマエ」、「カラカラ」、「桜島、部活やめるってよ」、「映画　ひみつのアッコちゃん」、「ヒミズ」、「今日、恋をはじめます」、「おおかみこどもの雨と雪」、「リトル・マエストラ」の映画12本が上映される。

◆◆日本語メディア報道②◆◆

Yahoo



日本映画に人気集中、チケット即完売―上海国際映画祭

Record China 6月17日(月)15時31分配信

2013年6月16日、開催中の第16回上海国際映画祭の上映チケットが今月8日に一斉発売され、各窓口には長蛇の列ができた。中でも小津安二郎監督の映画「東京物語」がトップクラスの人気となった。新華網が伝えた。

【その他の写真】

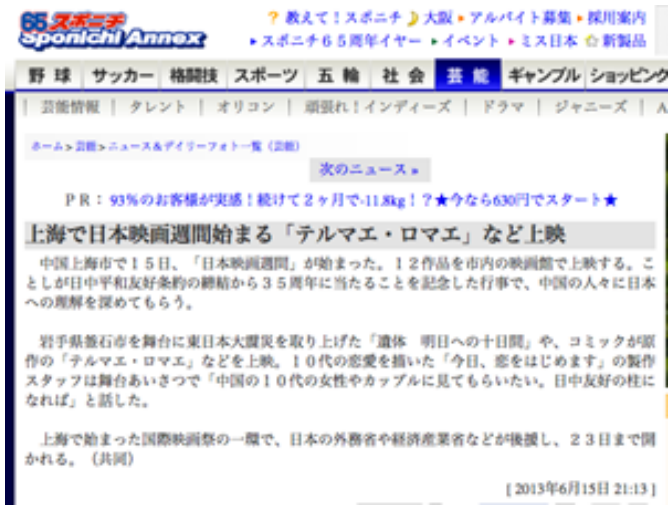
16日、開催中の第16回上海国際映画祭で、日本映画の人気が高まっている。

今月15日から23日の日程で開催されている上海国際映画祭。市内25カ所の上映会場でチケットが一斉発売され、いずれの窓口も早朝から長蛇の列となった。すでに6万枚が売れ、収益は400万元(約6000万円)を突破している。また、オンライン販売も8日だけで3万枚を突破。初日の売れ行きが前年比で3倍という好調な滑り出しを見せた。

話題作の多い中で特に人気を集め、あっという間に完売したのが「東京物語」と「秋刀魚の味」。いずれも、今年で生誕110周年、没後50周年を迎える小津安二郎監督の代表作だ。ニューデジタルリマスター版の上映が予定され、生まれ変わった名画に期待を寄せる映画ファンが多いことがよく分かる。

これ以外にも、日本映画はいずれも好調を見せている。吉田大八監督の「桐島、部活やめるってよ」、山田洋次監督作で「東京物語」へのオマージュとなる「東京家族」はいずれも初日でチケット完売。70年代の中国で女性の憧れだった高倉健主演の「あなたへ」、中国でも人気の綾瀬はるかや武井咲主演の「ひみつのアッコちゃん」「今日、恋をはじめます」はいずれも、チケット売上ランクの上位を占めている。

Sponichi



上海で日本映画週間始まる「テルマエ・ロマエ」など上映

中国上海市で１５日、「日本映画週間」が始まった。１２作品を市内の映画館で上映する。ことしが日中平和友好条約の締結から３５周年に当たることを記念した行事で、中国の人々に日本への理解を深めてもらう。

岩手県釜石市を舞台に東日本大震災を取り上げた「遺体　明日への十日間」や、コミックが原作の「テルマエ・ロマエ」などを上映。１０代の恋愛を描いた「今日、恋をはじめます」の製作スタッフは舞台あいさつで「中国の１０代の女性やカップルに見てもらいたい。日中友好の柱になれば」と話した。

上海で始まった国際映画祭の一環で、日本の外務省や経済産業省などが後援し、２３日まで開かれる。（共同）

[2013年6月15日 21:13]

Nikkansports



上海で「日本映画週間」スタート

中国上海市で１５日、「日本映画週間」が始まった。１２作品を市内の映画館で上映する。ことしが日中平和友好条約の締結から３５周年に当たることを記念した行事で、中国の人々に日本への理解を深めてもらう。

岩手県釜石市を舞台に東日本大震災を取り上げた「遺体　明日への十日間」や、コミックが原作の「テルマエ・ロマエ」などを上映。１０代の恋愛を描いた「今日、恋をはじめます」の製作スタッフは舞台あいさつで「中国の１０代の女性やカップルに見てもらいたい。日中友好の柱になれば」と話した。

上海で始まった国際映画祭の一環で、日本の外務省や経済産業省などが後援し、２３日まで開かれる。

[2013年6月15日21時33分]

CRI online 日本語版



第16回上海国際映画祭間もなく開催、そして小津安二郎作品展も同時開催

2013-06-09 11:17:49

第16回上海国際映画祭が6月15日から23日にかけて行われます。毎年、数百本の映画が出品されるこの映画祭。今年は最大規模となり、グランプリ・金爵奨をめぐって熱戦が展開されるコンペティション部門のほか、映画界の巨匠に敬意を表すトリビュート上映会や中国映画を中心にした上映会なども予定されています。

巨匠へのトリビュート上映会では、サスペンス映画の神様とも称されるヒッチコックや今年で100回忌を迎えた香港の人気スター・張国栄（レスリー・チャン）の作品が上映されるほか、日本の巨匠・小津安二郎生誕100周年、没後50周年にちなんで、『東京物語』をはじめ数々の小津作品も登場するということです。

ほかにも、日本を意識した内容も多く、「日本映画週間」では、山田洋次監督の新作『東京家族』（2013）、第36回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞に輝いた『おおかみこどもの雨と雪』（2012）、そして昨年日本映画の興行トップに立った話題のコメディ映画『テルマエ・ロマエ』などの話題作が続々と中国で初お披露目されます。また、日本の映画監督・君塚良一（きみづか りょういち）、古澤健（ふるさわ たけし）、女優の工藤夕貴（くどうゆうき）と余貴美子（よきみこ）らもゲストとして上海入りすることになっています。（ミン・イヒョウ）

Conclerge上海

第16回上海国際映画祭開催
日本映画週間では日本映画12作品を上映

6月15日（土）～23日（日）、第16回上海国際映画祭が開かれた。「英国王のスピーチ」で知られるイギリスの映画監督トム・フーパーが審査員長を務めたコンペティション部門にはギリシャ、ロシア、ブルガリアなどから話題の映画が出展。日本からも日向寺太郎監督、北野きい主演の「爆心 長崎の空」が選出された。最高賞の金爵賞には「あああああああああああ」が選ばれる結果となった。

同時に、日本映画週間も開催。日中平和友好条約締結35周年の記念すべき年を飾るにふさわしい12作品が市内各所で上映された。16日（日）に行われたオープニングセレモニーには日中文化交流協会の理事を務める女優・栗原小巻も登場。中国語で自己紹介をし、「“家庭の愛、友情、真心、誠実さ”が今回のテーマ。震災以降、日本人が大切に思っていることを映像化した作品がたくさんあります」と今回の作品の選出理由を紹介、さらに「文化交流の灯が消えないよう、前進していきたい」と今後の抱負を述べた。そのほかにも、女優・余貴美子、工藤由貴、映画監督・君塚良一、古澤健、クロード・ガニオン、川村泰裕、雑賀俊郎が登壇。「ひみつのアッコちゃん」の監督を務めた川村は「僕の映画が日中友好の助けになれば」、「カラカラ」の監督・ガニオンは「日本は自分にとって第2の祖国。日本の映画関係者とこの舞台に立てることを誇りに思う」と語った。セレモニーでは上海在住日本人の子どもたちによる「おおかみこどもの雨と雪」の主題歌の合唱が披露された後、小津安二郎監督の「東京物語」のリメイク作「東京家族」がオープニング映画として上映された。会場には感動の涙を流す人の姿も多く、は大きな温かい拍手に包同日夜にはレセプションーも行われ、SNH48によイブなど華やかな一夜と







1.子どもたちから受け取った花束とともに撮影に応じる登壇者たち 2.中国でも知名度の高い女優・栗原小巻 3.工藤由貴（左）と余貴美子（右）。余は「世界共通言語である映画で中国の皆様と交流できたことに感謝します」と挨拶

◆◆日本語メディア報道④◆◆

第16回上海国際映画祭

6月15日(土)～23日(日)

今年も話題作が揃う! 日本映画週間も開催

毎年多くの著名人が登場し、注目を集める上海国際映画祭。第16回となる今年も、市内各所の映画館で世界中の新作、話題作が公開される予定だ。また、恒例の「日本映画週間」も開催される。日中平和友好条約締結35周年の記念すべき年にふさわしいラインナップが期待できそう。小津安二郎監督の「東京物語」をリメイクした「東京家族」、綾瀬はるかの変身ぶりが話題となった「ひみつのアッコちゃん」などが公開される。





日本映画週間開催中！
2013.06.18
上海人 SHANGHAI-ZINE
観光・ホテル 不動産・生活
外灘 静安 徐家匯 古北
浦東 上海北

6月15日から始まった第16回上海国際映画祭の正式イベントとして、6月23日まで日本映画週間も実施されている。「東京家族」「あなたへ」「遺体～明日への10日間～」「テルマエ・ロマエ」「桐島、部活やめるってよ」など、日本の話題作１２作品が出品され、上海市内の映画館で上映されている。

16日の舞台挨拶や開幕イベントには「遺体～明日への十日間～」の君塚良一監督をはじめ、女優の余貴美子さんや工藤夕貴さんなどが訪れ、セレモニーに華を添えた。

◆上映作品◆
【東京家族】【天地明察】【あなたへ】【遺体～明日への十日間】【テルマエ・ロマエ】
【おおかみこどもの雨と雪】【ヒミズ】【カラカラ】【映画 ひみつのアッコちゃん】
【今日、恋をはじめます】【桐島、部活やめるってよ】【リトル・マエストラ】



「人民中国」雑誌

人民中国
PEOPLE'S CHINA
07
July 2013
定価400円
1956年12月18日 第3種郵便物認可
2013年7月5日発行
（毎月1回5日発行）通巻721号
中国を知るための
日本語総合月刊誌

クローズアップ中日

クローズアップ中日

映画交流で育んできた絆

「日中友好映画祭」の推進役　耿忠

今年は記念すべき「中日平和友好条約締結三十五年周年」です。その記念の特別プロジェクトとして、われわれNPO法人日中友好映画祭実行委員会が主催する「日本映画週間」は例年の通り、上海国際映画祭の正式イベントとして六月十五日から二十三日まで開催されました。

十月に開催する「東京国際映画祭～中国映画週間」と合わせた「日中友好映画祭」がスタートしてすでに八年になりました。

映画に国境はありません。私という人間の土台をつくった祖国中国と、夢を支え育ててくれた第二の故郷日本。二十四年間、このふたつの故郷を結ぶ方法をずっと探してきた私にとって、中日の新しい映画を両国の皆さんに紹介し、リアルな文化と社会現象、若者の考え方を両国の観客に紹介する事は、中国と日本を映画でつなぐ道だといつも思っています。

第一回日本映画週間を中国で開催したのは、二〇〇六年のことでした。その時は、小泉首相の靖国神社参拝によって日中関係がこれ以上ないほどに冷え込んだ時期でした。でも、映画交流は国際関係が難しい時だからこそ、大切な役割を果たすのだと信じていました。



耿忠（コン チョン）

元中国新体操選手。日本大学芸術学部卒。女優。代表主演作：映画『ラブ・レター』。ムーランプロモーション代表。日中友好映画祭実行委員会理事長。中国映画海外推進貢献賞、日中映画友好交流貢献賞を受賞。

その確信を胸に、さまざまな困難を乗り越えて、「日本映画週間」を開催しました。同年六月、上海で十二本の日本映画を上映し、ほとんど毎回満員の状態でした。その盛況ぶりが私にとって励ましとなり、同年十一月には北京でも「日本映画週間」を盛大に開催しました。

そして、その年の十二月には東京で第一回「中国映画週間」を実施し、満場の観客がスクリーンに映し出される物語に泣いたり笑ったりする姿を見て、すべての苦労が報われた思いでした。会場を見渡すと目に涙がにじみました。

継続は力なり。二〇一〇年の「中国人船長逮捕事件」の時、たくさんのイベントが中止されました。東京中国映画週間のため予約していた会場からは全額頭金で支払わないと、貸さないと言われ、スポンサーも次から次へと降りました。それでも、スタッフと共に頑張って、いろいろな困難を乗り越えて、予定通り、と言うよりもっと規模を拡大して、行いました。

二〇一一年には中日首脳会談で決まった「中日映像交流事業」の共催者としてすべての運営にかかわり、両国首脳も両国で開かれた開幕式に参加しました。「3.11地震」の後でしたから、特に被災地復興支援をテーマにしましたが、両国での映画交流としても感動的でした。われわれが特別に企画した山田洋次監督特集も北京で大人気でした。中国生まれの山田監督本人も北京映画学院への訪問と交流が実現出来て、大変喜んでくれました。

昨年は「島国有化」前からいろいろな騒動があり、その時にも、北京と上海で「日本映画週間」を従来通り開催し、中国の日本映画ファンはそれまで以上に関心を持ち、毎回多くの観客が来場しました。また、日本から参加したゲストが中国の観客と友好的に交流し、現地で大歓迎されました。「ALWAYS三丁目の夕日'64」が描いた経済高成長期の人情ドラマは大変受け入れられ、配給も決まりそうでしたが、「島問題」の影響で話は飛んでしまいました。

その後、十月の東京国際映画祭でも、「中国映画週間」を中日国交正常化四十周年記念イベントとして、さらに厳しくなった難関を乗り越えて、決行しました。険しい関係に陥ったこの困難な時期、日本の観客が中国映画を見に来てくれるかどうかをとても心配しましたが、いつもの通り、観客の熱気は開場前からあふれていました。

開幕式で、私はこのような話をしました。「今年の中国映画週間は、日中関係が激動する時期に重なる開催になりました。しかし、困難な状況だからこそ、日本の皆さまに「愛情」テーマにした中国映画の佳作をお届けすることは意義深いことだと考えました。上映する十本の新作は全部ラブストーリーです。政治問題が両国民の感情まで深く傷つけていることに、誰もが心を痛めています。私たちは一刻も早く以前のような友好関係を回復できるよう、心から願っております」

いつも私を支えてくれるのは、やはり日中の映画ファンたちでした。同じ空間で映画を観て、一緒に笑って、一緒に泣いて、一緒に拍手することに、最高の感動を覚えます。そこの無国籍の空気が本当に恋しい。

ですから、政治的に難しい状況と重なった時でも、一度も映画祭を中止にしたことはありません。

今年の日本映画週間のテーマ「家族共同体」に因んで、以下の言葉を中日両国の皆さまに捧げます。

「日本と中国の間には依然として厳しい問題がありますが、平和にこそ、双方にとって互恵的な国益があります。そして文化交流活動は、両国の関係を改善し、平和を守る原動力となるでしょう。小異を捨てて大同につきましょう。国境を越えた家族としての感情は、人類共通のパワーを呼び起こし、私たちを「映画の夢広場」へと誘い、あかね色に染まった大同世界の空を眺める心地させてくれるでしょう」

up-to-date NEWS

【トピックス】

【上海映画祭】

2013年6月15～23日、上海映画祭において、上海国際映画祭組織委員会と中日友好映画祭実行委員会が共同で「中日友好映画祭および上海・日本映画ウィーク」を開催し、アニメーション映画を含む12本の日本映画が上映された。



Whenever上海

Interview

映画監督・脚本家

君塚良一

6月15日から開催された上海国際映画祭。期間中開催された日本映画週間に作品「遺体 明日への十日間」を出品、来海していた君塚良一監督に今作について話を伺った。



――この作品を映画化しようと思った理由は？

2年前の3月11日の震災の時、僕は仕事で東京にいました。ニュースで被災地を見ていて、とても大変だなと思いながらも東京で日常生活を送っていたので、被災地と距離感があった。自分の中では何かをしなくてはいけないけれど、何ができるのか分からなかった。数ヵ月後、石井光太さんのルポルタージュに出会ったんです。震災後の10日間、遺体安置所で被災者が犠牲になった方々や家族のために働いていたという事実に衝撃を受けたんです。と同時に人間の強さや良心をすごい感じました。そしてこれをもっとたくさんの人に伝えたいとも思った。震災から10日間の間に、被災地で何が起きていたか。何もできなかった自分に後ろめたさもあったものですから。僕は映画人だから、これは映画にして、日本、そして世界の皆さんに伝えたいと思ったんです。

――原作者にはどうお話を？

本を読んで数日後に石井さんのもとを訪ねて、僕の思いを伝えました。そしたら、まず被災地へ行ってくれと言われ、一緒に行って、関係者やモデルとなった人たち、ご遺族の方々にお会いしました。何度も釜石に行って、お話しを伺って、映画になって広く伝えることが皆さんにとって迷惑だったり、辛かったらやめますとも伝えました。しかし、もっとたくさんの人にあそこで起きたことを伝えてほしいとご遺族の方に言われました。絶対描かないでくれと言った方はいなかったんです。

――映画化にあたって、描きたかったことは？

命の尊さ、人間の良心を描こうとしたときに、人の死から目をそらすことはできません。遺体安置所に特化させて、人の死を見つめ、生きるということは何なのか、別れとは何なのかを描きました。みんなで作ること、うそをつかないこと、声高に絆と言わないことなど、共通の認識を持って、ありのままに、現実を描いています。

――撮影中のエピソードはありますか？

厳しい撮影でした。人形とはいえ、ご遺体が並んでいる体育館での撮影でしたから。スタッフ、キャスト、みんなが自分はどういう思いでこの映画作りをしているのか、問いかけながら作っていました。ちょっとずれると、人間を描くことなくお涙頂戴になったり、絆は素晴らしいとか、もっと厳しい現実ばかりを追ってしまったかもしれない。

――演技指導や監督からのリクエストは？

僕も遺体安置所の10日間を見ていないし、ビデオも残っていない。外から撮った写真が1枚あるだけ。想像力だけですよね。それを一生懸命働かせて、身体や人生の中で近いものを探して演じてもらいました。テストもせずに2台のカメラで追いかけていきました。非常にドキュメンタリータッチになっています。

――一番伝えたかったことは？

同じ被災者でありながら、どうしてあのようなことができたのか。根源的に人間が持っている良心、心の強さがあると思う。つまり一人で生きていないということ。それが際立った局面、状況だったと思うんですね。日に日に風化していきますから、描いて残すべきだと思いました。被災地の人たちは日常だから、悲しみは続いていて、これは永遠に終わることがない。突然の別れ、それも理不尽な別れですから。みんなが忘れて、人のことは関係ないというのは寂しい。同じ日本で起きたことですから、忘れてほしくないという思いがあります。

――映画化後、監督の心境の変化は？

素材として面白いから撮ったわけではなく、覚悟を決めて作りました。今後も震災と何らかの形で関わっていくんだと思います。準備中、そして公開して僕の体の一部になった気がします。ただ、この映画に意味があったのかさえまだ答えは出ていません。

――読者にメッセージを

世界中で大きな災害があって、きっとどの国でも生き残った人たちは犠牲になった人たちのこと
ろんなことが
の良心のよう
ないかなと思
い。世界中の
を信じていた

Profile

日本大学芸術学部卒業後、萩本欽一に師事。番組構成からテレビドラマの脚本家として活躍。「ずっとあなたが好きだった」「誰にも言えない」「コーチ」など人気ドラマの脚本を担当。97年からTVシリーズ「踊る大走査線」の脚本を手がけ、映画「容疑者　室井慎次」では、監督・脚本を務めた。映画「誰も守ってくれない」では、マスコミや世間によって引き裂かれていく殺人犯の家族を守るために疾走する刑事を硬派なタッチで描き、モントリオール世界映画祭最優秀脚本賞を受賞。

「遺体　明日への十日間」
彼らには、悲しむ時間さえなかった



解説：2011年の東日本大震災で被災した岩手県釜石市の遺体安置所を題材としたルポルタージュ「遺体 -震災、津波の果てに-」を基に、メディアが伝え切れない被災地の真実を描き出したヒューマン・ドラマ。葬儀関係の仕事をしていた主人公を中心に、遺体を家族のもとに帰そうと奮闘する遺体安置所の人々の姿を映し出す。メガホンを取るのは、『踊る大捜査線』シリーズの脚本や『誰も守ってくれない』などで知られる君塚良一。西田敏行が主演を務め、佐藤浩市や佐野史郎など日本を代表する名優たちが共演。
子と共に、遺体安置
の死生観をも映し出
あらすじ：東日本
まで葬儀関係の仕事
田敏行）は、仕事柄
たことから、遺体安
働くことになる。一
掛ける相葉の姿を見
戸惑っていた市職員
族のもとに帰してあ

ちょこっと Whenever

上海国際映画祭が今年も開催！

アジア有数の規模となる映画祭、「第16回上海国際映画祭」が6月15日から23日、市内で開催される。目玉企画として、名監督ヒッチコックの復刻版や小津安二郎監督の作品の上映、宮崎駿に関する展示など最新映画の上映以外にも充実した企画が予定されている。

関連イベントとして「2013上海・日本映画週間」も、同日程で行われる。こちらでは、「カラカラ」「あなたへ」といった日本の話題映画を12本上映。女優の工藤夕貴、余貴美子が舞台挨拶に登場する見込みだ。

※作品の上映時間やチケット情報などについては、オフィシャルホームページにて確認を



沖縄が舞台の「カラカラ」に出演した工藤夕貴



高倉健と「あなたへ」で共演した余貴美子



「遺体 明日への十日間」の君塚良一監督

第16回上海国際映画祭　www.siff.com
2013上海・日本映画週間　http://ciff.net
上海国際映画祭のチケットは6月初めに発売の見込み

◆◆◆◆宣伝物①◆◆◆◆

① パンフレット



② 各種パス



③ チラシ



◆◆◆◆宣伝物②◆◆◆◆



④ 公式ウェブサイト





⑤ お土産袋



④ Xバナー





④ 招待券

◆◆◆◆宣伝物③現場◆◆◆◆



















◆◆◆ スタッフ一覧 ◆◆◆

No.		スタッフ名	担当事項
1	日中友好映画祭 実行委員会	耿忠	実行委員会理事長／統括管理
2		渡辺満子	実行委員会副理事長／VIPゲスト担当
3		吉田宗平	プロデューサー
4		孔璐璐	事務全般
5		刘剑	ゲスト担当／自治体対応
6		黄穎	デザイナー／公式サイト制作／メディア担当
7		外村公治	舞台挨拶ディレクター
8		野地賢徳	スポンサー関連／舞台挨拶ディレクター
9		劉傑	メディア担当
10		郷成龍	映画祭事務局長／ゲスト担当
11		吉田文人	実行委員会事務局長
12		旭子	会場管理
13		佐藤愛	事前準備／舞台挨拶司会
14		耿榕焌	車両管理、会場管理
15		沈淑悦	ゲストアテンド／通訳
16		山下秀喜	上海事務局（宣伝）
17		佐藤弘泰	上海事務局（宣伝）
18		Dudu	英語通訳／アテンド
19	司会	呉四海	開幕式&レセプション司会
20		佳永かおり	開幕式&レセプション&舞台挨拶司会／通訳
21	上海運営	歩燁	運営統括
22		郭紫茵	運営・ステージ設置担当
23		糜若英	メディア・演出担当
24		張力	映像・音響担当
25		湯成	「映画の旅」担当
26		烏雲塔娜	「映画の旅」担当



たくさんのご来場ありがとうございました。

皆様の応援に心から感謝します。

お問合せ： NPO法人日中友好映画祭実行委員会
住所： 〒104-0061 東京都中央区銀座7-14-15 杉山ビル5F
Tel： 03-5148-2095 / Fax： 03-5148-2096